

江口遺跡発掘調査報告

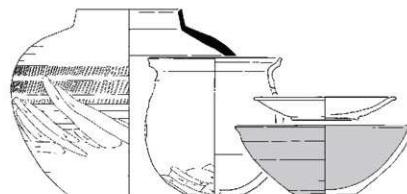
江口遺跡発掘調査報告

—入善黒部バイパス建設に伴う
埋藏文化財発掘報告Ⅱ—

富山県文化振興財團
埋藏文化財発掘調査報告第61集

二〇一四年

(公財)富山県文化振興財團
埋藏文化財調査事務所



2014年

公益財團法人 富山県文化振興財團
埋藏文化財調査事務所

江口遺跡発掘調査報告

—入善黒部バイパス建設に伴う
埋蔵文化財発掘報告Ⅱ—

2014年

公益財團法人 富山県文化振興財團
埋蔵文化財調査事務所

序

入善黒部バイパスは、国道8号線の混雑緩和のため、入善町から黒部市、魚津市を通るバイパス道路として計画されました。現在、入善町上野から黒部市古御堂までの供用が開始されており、残る黒部市古御堂から魚津市江口間は、平成26年度の供用が予定されています。

この入善黒部バイパスの建設に伴い、当事務所では平成20年度から計画路線内の遺跡を発掘調査してまいりました。本書は平成24年度に実施した魚津市江口遺跡の発掘調査の成果をまとめたものです。

発掘調査の結果、奈良時代から中世に至る遺構や遺物がみつかりました。奈良・平安時代の堅穴建物や畠、掘立柱建物の発見により、当時の集落の様子が明らかとなりました。

こうした発掘調査の成果が、文字の記録には現れることのない往時の生活をひととく一助となり、地域の歴史と文化財の理解に役立てば幸いです。

本書をまとめにあたり、ご協力とご指導を頂きました関係機関および関係諸氏に厚く感謝申し上げます。

平成26年3月

公益財団法人富山県文化振興財団

埋蔵文化財調査事務所

所長 岸本雅敏

例　言

- 1 本書は富山県魚津市仏田地内に所在する江口遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は国土交通省北陸地方整備局富山河川国道事務所からの委託を受けて、公益財團法人富山県文化振興財团が行った。
- 3 本遺跡の発掘調査期間と本書刊行までの整理期間は下記のとおりである。
調査期間 平成 24 (2012) 年 4 月 26 日～平成 24 (2012) 年 9 月 20 日
整理期間 平成 25 (2013) 年 4 月 1 日～平成 26 (2014) 年 3 月 31 日
- 4 本書の執筆・編集は、朝田亜紀子が担当した。
- 5 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々からご教示・ご協力を得た。記して謝意を表したい。
魚津市教育委員会、鈴木景二、富山県教育委員会、富山県埋蔵文化財センター

(敬称略、五十音順)

凡 例

- 1 本文・挿図で扱った遺構・遺物は、一覧表に掲載している。
- 2 本書で示す方位は全て真北である。
- 3 挿図の縮尺は下記を基本とし、各図の下に縮尺率を示す。
遺構 建物・柱穴列：1/100、溝・落ち込み・烟：1/200、土坑・柱穴：1/40
遺物 土器・陶磁器：1/3、土製品・石製品・金属製品：1/2
- 4 遺構の略号は以下のとおりである。
S A：柱穴列、S B：掘立柱建物、S D：溝・落ち込み、S I：竪穴建物、S K：土坑、S N：烟、
S P：柱穴
- 5 遺構番号は遺構の種類にかかわらず連番とするが、掘立柱建物・烟には新たに番号を付した。
- 6 遺物番号は遺物の種類にかかわらず連番を付した。本文・挿図・一覧表・写真図版の遺物番号は全て一致する。
- 7 遺跡の略号は市町村番号に遺跡名を統合して「04 E G - 地区名」とし、遺物の注記には略号を用いた。
- 8 遺構図中の地山、遺物図中の煤付着部分及び赤彩は以下のとおりに示す。これ以外については図中に凡例を示した。



地 山



煤・炭化物・油煙



赤 彩

- 9 黒色土器には、遺物番号の横に●を付した。
- 10 黒色土器の黒色処理が及ぶ範囲、施釉陶磁器の釉の掛かる範囲は1点鎖線で示した。
- 11 遺物の煤や炭化物の付着する範囲は、2点鎖線及びスクリーントーンで示した。但し、土師器煮炊具に付着する煤や炭化物は図示せず、付着の有無を一覧表に記載した。
- 12 土器の墨書きは、トレースの濃淡で示した。
- 13 土層・遺構埋土の色については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』を参照した。
- 14 遺構一覧及び本文中で用いる遺構についての用語は、以下の文献を参考とした。
掘立柱建物：奈良国立文化財研究所 1976『平城宮発掘調査報告Ⅶ』
- 15 遺物の分類と編年についての用語は、以下の文献を参考とした。
土師器・須恵器：田嶋明人 1988『古代土器編 年輪の設定』『シンポジウム 北陸の古代土器研究の現状と課題』石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
中世土師器：越前慎子 1996『梅原胡摩堂遺跡出土中世土師器皿の編年』『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告－東海北陸自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅱ－』財團法人富山県文化振興財团
珠 珠：吉岡康暢 1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館
輸入陶磁器：山本信夫 2000『太宰府市の文化財第49集 太宰府条坊跡X V - 陶磁器分類編 -』
太宰府市教育委員会

16 遺構一覧・遺物一覧の凡例は以下のとおりである。

- ①遺構の埋土に切り合い関係がある場合は、特記欄に新>古のように記号で示す。
- ②規模・法量の（ ）内は現存長を表す。
- ③重量はg単位で示す。計測は大きさによって台秤と電子秤を使い分けた。
- ④胎土・釉等の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』・財団法人日本規格協会「標準色票 光沢版」を使用して示した。釉・赤彩等の色調は備考欄に記した。

目 次

第Ⅰ章 調査の経過

1 調査に至る経緯	1
(1) 調査の契機	1
(2) 既往の調査	2
2 発掘作業の経過と方法	2
(1) 発掘作業の経過と方法	2
(2) 層序	3
3 整理作業の経過と方法	5
4 普及活動	5

第Ⅱ章 位置と環境

1 地理的環境	6
2 歴史的環境	6

第Ⅲ章 古代の遺構・遺物

1 概要	11
2 遺構	11
(1) 掘立柱建物	11
(2) 柱穴列	13
(3) 竪穴建物	13
(4) 溝	14
(5) 落ち込み	15
(6) 畑	16
(7) 土坑	17
3 遺物	19
(1) 土器・陶器	19
(2) 土製品	21
(3) 石製品	21
(4) 金属製品	21

第Ⅳ章 中世の遺構・遺物

1 概要	53
2 遺構	53
(1) 掘立柱建物	53
(2) 土坑	55
3 遺物	56

第Ⅴ章 総括

1 古代	66
(1) 遺構変遷	66
(2) 古代北陸道および駅家との関連	68
2 中世	73

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第 1 図	調査遺跡位置図	1
第 2 図	調査地区割図	2
第 3 図	基本層序	4
第 4 図	地形図	8
第 5 図	周辺遺跡位置図	9
第 6・7 図	遺構全体図	22・23
第 8～21 図	古代遺構実測図	24～42
第 22～31 図	古代遺物実測図	43～52
第 32～37 図	中世遺構実測図	57～64
第 38 図	中世遺物実測図	65
第 39 図	古代遺構変遷図	67
第 40 図	掘立柱建物の柱の推測位置	68
第 41 図	江口遺跡・仏田遺跡調査位置図	70
第 42 図	仏田地区区画整理前の地籍図	71
第 43 図	古代北陸道および布勢駅家間連図	72
第 44 図	中世掘立柱建物変遷図	73

表目次

第 1 表	既往の調査一覧	2
第 2 表	調査体制	3
第 3 表	調査一覧	3
第 4 表	整理体制	5
第 5 表	周辺遺跡一覧	10
第 6 表	掘立柱建物一覧	75
第 7 表	柱穴一覧	76
第 8 表	竪穴建物一覧	78
第 9 表	溝・落ち込み一覧	78
第 10 表	烟一覧	78
第 11 表	土坑一覧	79
第 12 表	土器・陶磁器・土製品一覧	80
第 13 表	石製品一覧	88
第 14 表	金属製品一覧	88

写真図版目次

図版 1	航空写真
図版 2	全 景
図版 3～5	掘立柱建物・柱穴列・溝
図版 6・7	竪穴建物・土坑
図版 8	烟・落ち込み
図版 9～18	土器・陶磁器 土製品・石製品・金属製品
図版 18	

第Ⅰ章 調査の経過

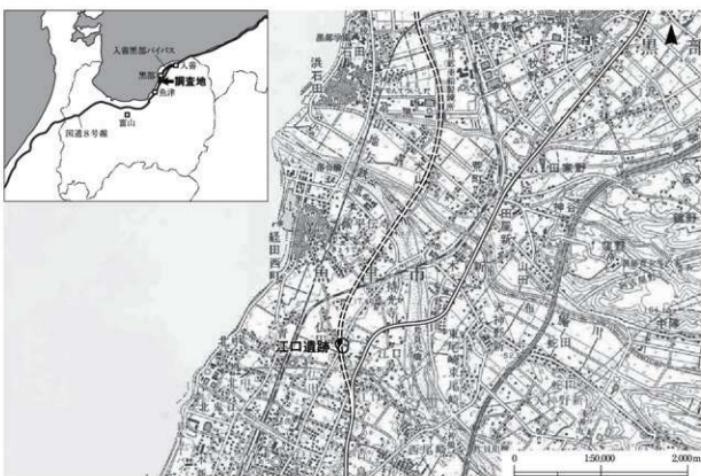
1 調査に至る経緯

(1) 調査の契機

入善黒部バイパスは、国道8号線の交通渋滞の解消や、幹線ネットワークの充実・強化等を目的として計画された。富山県下新川郡入善町鶴山から魚津市江口に至る延長16.1kmの4車線道路である。このうち入善町上野から魚津市江口間の14.0kmは平成2(1990)年度に都市計画が決定し、平成6(1994)年度に工事が着手された。これまでに入善町上野から黒部市古御堂間6.7kmの暫定2車線が開通しており、古御堂から魚津市江口間7.3kmについても平成26(2014)年度の供用が予定されている。

バイパス建設に伴う路線予定地内の埋蔵文化財の取り扱いについて、平成15(2003)年に国土交通省北陸地方整備局富山河川国道事務所(以下、国交省)・富山県教育委員会(以下、県教委)・魚津市教育委員会(以下、魚津市教委)・黒部市教育委員会の四者による協議が行われた。その結果、路線予定地内の埋蔵文化財の分布状況を把握するため、分布調査を実施することとなった。平成15・16(2003・2004)年、県教委・富山県埋蔵文化財センター(以下、県センター)が主体となり、当該市町教育委員会の協力を得て分布調査が実施され、新たに9遺跡(NKB1~9)が発見された。

江口遺跡(旧称NKB-9)は、平成23(2011)年度に魚津市教委により包蔵地確認調査が実施され、古代～中世の遺構・遺物が確認された。確認調査の結果を受けて、国交省・県教委・魚津市教委・財團法人(現公益財團法人)富山県文化振興財团(以下、財團)で協議した結果、財團が本調査を受託することで合意し、平成24(2012)年度に本調査を実施した。



第1図 調査遺跡位置図

国土土地院「2000『1:50000地形図 三日市、魚津』を元に作成した。」

(2) 既往の調査

江口遺跡の既往の調査は、第1表のとおりである。

第1表 既往の調査一覧

	年度	調査主体	調査面積 (調査対象面積)	文献
分布調査	平成16	県センター・ 魚津市教委・ 黒部市教委	—	富山県埋蔵文化財センター 2004「富山県埋蔵文化財センター年報 平成15年度」
確認調査	平成16	魚津市教委	33m ² (1,400m ²)	富山県埋蔵文化財センター 2005「富山県埋蔵文化財センター年報 平成16年度」
	平成21	魚津市教委	154m ² (1,008m ²)	富山県埋蔵文化財センター 2010「富山県埋蔵文化財センター年報 平成21年度」
	平成22	魚津市教委	46m ² (420m ²)	富山県埋蔵文化財センター 2011「富山県埋蔵文化財センター年報 平成22年度」
	平成23	魚津市教委	40m ² (500m ²)	富山県埋蔵文化財センター 2012「富山県埋蔵文化財センター年報 平成23年度」
	平成24	魚津市教委	530m ² (5,459m ²)	富山県埋蔵文化財センター 2013「富山県埋蔵文化財センター年報 平成24年度」
	本 調 査	財 団	3890m ²	富山県文化振興財団 2013「平成24年度埋蔵文化財年報」

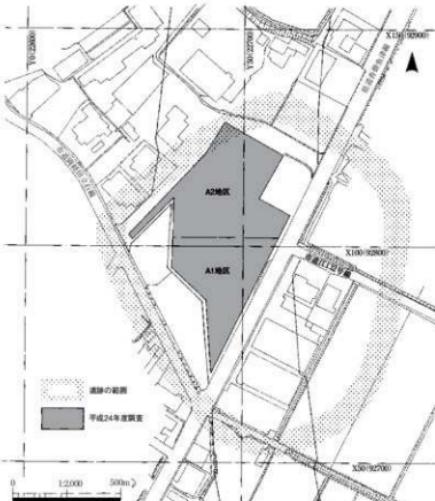
2 発掘作業の経過と方法

(1) 発掘作業の経過と方法

江口遺跡の範囲は、県道沓掛魚津線以南の江口地区を中心とし、県道以北の仏田地区に及ぶものである。本調査範囲は仏田地区が最初に確定し、本調査も工事の急がれる仏田地区から着手することとなったため、調査区名及びグリッドの設定に際しては、県道以南に本調査対象地が広がった場合に備えることとした。調査区名は、県道以北の仏田地区をA地区、県道以南の江口地区をB地区とする予定であったが、その後魚津市教委が実施した江口地区における包蔵地確認調査の結果、遺構および遺物が検出されず本調査の必要なしと判断されたため、仏田地区的A地区のみが江口遺跡の本調査対象地となった。

発掘調査の基準となるグリッドの設定には、日本測地系による国家座標（平面直角座標第7系）を用いた。X 0 Y 0 の起点は、+ 92600 + 22600 とし^{注1}、南北方向をX軸、東西方向をY軸とした。グリッドは2m方眼とし、各グリッド名は北東角のX軸・Y軸の座標とした。発掘範囲はX 67～X 128、Y 22～Y 62である。

なお調査行程の便宜上、X 102列以南をA1地区、以北をA2地区と分けて調査を実施したが、これらは一続きの調査区であるため、最終的には遺構をつなげ、遺構番号も連続して付した。



第2図 調査地区割図

注1 平面直角座標第7系に定められている点は、北緯 36° 00' 00" 東経 137° 10' 00" である。江口遺跡の北 0 Y 0 の座標は、北緯 36° 00' 00" 東経 137° 25' 12.2600" (日本測地系)、北緯 36° 00' 14.7400"、東経 137° 25' 01.30190" (世界測地系)である。日本測地系から世界測地系への変換は、国土地理院の変換プログラム (Web RTK V2.1 GD) により行った。

発掘調査の作業工程及びその方法・内容は、平成16(2004)年10月に文化庁から示された『行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての標準(報告)』、及び平成22(2010)年3月に文化庁から発行された『発掘調査のてびき－集落遺跡発掘編－』に則って進めた。

第2表 調査体制

実施年度	調査事業担当					
	総括	所長 岸本 雅敏 副所長 池野 正男	総務	施設課長 松尾 宜 主任 江本 裕一	調査統括	調査課長 烏田美佐子 チーフ 中川 道子 主任 朝田亜紀子
平成24						

第3表 調査一覧

検出面	調査期間	延べ日数	調査面積	調査担当者	検出遺構	出土遺物
中世・古代	平成24年4月26日～9月20日	82日間	3,890m ²	中川 道子 朝田亜紀子	掘立柱建物、堅穴建物、塹、落ち込み、溝、土坑	土器、黒色土器、須恵器、綠釉陶器、灰釉陶器、製陶土器、中世土器群、珠洲、中国製青磁、瀬戸、織羽口、砾石、鉄釘、鐵滓

(2)層序

基本層序は、I層：表土・盛土、II層：遺物包含層、III層：地山である。

I層は、土地造成時の盛土(I a～I c層)と自然堆積土(I d層)からなる。I d層は黒褐色・暗褐色シルトを基調とする無遺物層で、調査区の各所に堆積が認められた。

II層は、中世遺物包含層(II a層)と古代遺物包含層(II b層)に細分した。II a層は黒褐色砂質シルトを基調とし、調査区西側や中央の地形が落ち込む範囲で確認した。II b層は暗褐色砂質シルトを基調とし、包蔵地確認調査時の所見では、地山と遺物包含層の漸移層とされた土層である。古代の遺物を包含することと、II b層の上下に検出面があり上下層と分離できることから、本調査に際して古代遺物包含層と再設定したものである。調査区の、砂礫が露出する範囲を除く広域で認められた。

III層は、砂礫あるいは褐色砂質シルトを基調とする無遺物層である。

遺構検出面はII b層上面とIII層上面の2面である。ただし中世遺物包含層(II a層)の残存が限られた範囲であることと、中世の遺構がさほど集中していなかったことから、II b層上面で中世遺構の輪郭を残し、周囲をIII層上面まで掘り下げて、古代の遺構を同時に検出した。古代遺構検出面の標高は20.1～21.3mを測り、調査区北東から南西に向かって傾斜する地形である。また東西方向に流路状の浅い落ち込みが数条確認できたが、この範囲内にはII層、III層ともやや粘性のあるシルト質の堆積がみられ、II a・II b層の残存状況も良い傾向にあった。X 84～90列およびX 110列以北東半部においては、I層直下の比較的高い標高でIII層の砂礫が露出しており、遺物包含層や遺構も殆ど認められなかった。

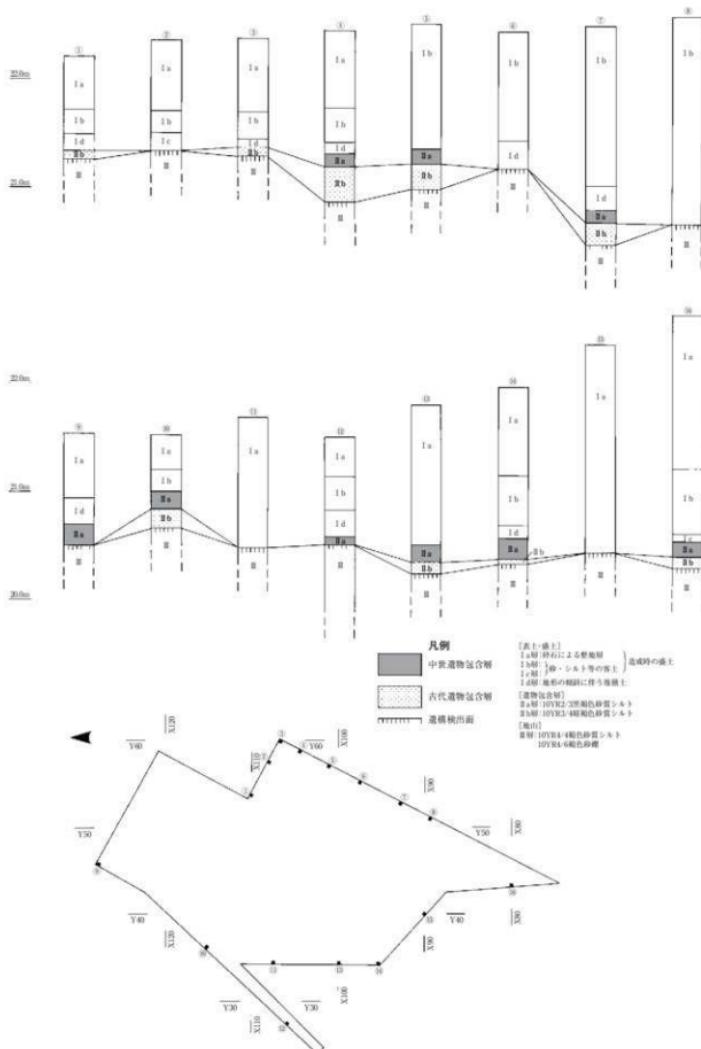


発掘調査風景



発掘調査風景

2 発掘作業の経過と方法



第3図 基本層序

3 整理作業の経過と方法

調査を行った平成 24 (2012) 年度に、現地において、出土遺物の洗浄、バインダー処理、注記、分類を行った。石製品、金属製品についてはメモ写真を撮影し、整理台帳を作成した。

報告書刊行に向けての本格的な室内整理作業は、平成 25 (2013) 年 4 月に開始した。4 月は土器・陶磁器の接合・復元、5～7 月は土器・陶磁器・石製品・金属製品の実測と挿図作成・トレース、8・9 月は遺物の写真撮影、図版作成、原稿執筆、編集、10 月～翌平成 26 (2014) 年 3 月は印刷、校正を行った。

土器・陶磁器の接合・復元は室内整理作業員が行った。遺物の実測は職員と室内整理作業員が行い、遺物実測図は種類別の遺物カードに直接書き込むか貼り込んで整理した。遺物の写真撮影は職員が行った。挿図トレースは室内整理作業員が行った。遺構実測図と写真是各台帳を作成して整理し、遺物カードとともにパソコンコンピューターを使用してデータ入力した。データ入力は職員が行い、室内整理作業員が補足した。遺構・遺物のデータは観察表として掲載した。

第4表 整理体制

実施年度	整 理 事 業 担 当					
	総括	所長 岸本 雅敏	副所長 池野 正男	総務	実務課長 松尾 実	整理総括
平成25				主任 江本 裕一		調査長 真田美佐子 チーフ 熊前 信子 主任 朝田幸紀子
					担当	

4 普及活動

平成 24 (2012) 年 9 月 8 日 (土) 午前 10 時から 12 時まで、地元住民を対象とした現地説明会を開催した。当日は天候にも恵まれて、約 60 名の参加があった。見学ルートは、古代の遺物が出土している溝の様子を間近にみられるよう調査区内に設定したほかは、安全面を考慮し、調査区周囲から見学する形とした。離れた場所からの見学となるため、見やすいように掘立柱建物をテープで時期毎に色分けして示した。掘立柱建物、堅穴建物、溝、窓等の遺構について、調査区の各所で調査員 2 名が解説し、参加者からの質問に対応した。現場事務所では古代と中世の出土遺物を展示した。写真を撮影しながら熱心に質問をされる方が多くみられた。



現地説明会風景



出土遺物展示風景

第Ⅱ章 位置と環境

1 地理的環境

江口遺跡は富山県東部の魚津市に位置する。魚津市は南東から北西に向かって細長く広がり、北は布施川を境に黒部市と、南は早月川を境に滑川市と接する。魚津市の北西は富山湾に面しており、海岸からは、北東に黒部市、南西に富山市、高岡市の市街地から石川県能登半島までを一望することができ、また気象条件によっては蜃気楼を見ることができる。

魚津市の南東部は標高 2,000 m 級の山岳地帯である。江口遺跡はここから流れ出る河川のひとつである片貝川の左岸沖積台地上に立地する。片貝川は平均勾配 8.5% の急流河川で、近年に砂防堰堤が構築される以前は、山地の崩壊に伴う土砂流出の激しい暴れ川として知られていた。片貝川は史料に残っているものだけでも 60 回以上の洪水を起こしており、江口遺跡の位置する仏田地区も度々被害を受けたと考えられる。中でも、鎌倉時代の大嘗年間（1326～1328 年）、江戸時代の天明元（1781）年、大正元（1912）年、昭和 27（1952）年の洪水は四大洪水といわれているが、嘉暦年間の大洪水では、それまで立石から江口、仏田へ流れている河道が大きく東に流れを変え、尾輪村を中断して、経田の斎沢、平伝寺、浜経田へと向かう現在の流路となったとされる。この時、平伝寺では土砂が約 1 m 堆積し、斎沢の集落は土石流により消滅したと伝えられる。また天明元（1781）年の大洪水では、大雨で六郎丸の堤防が破れ、吉島、上村木、脇島、北中、江口の各地区に被害が及んだとされる。

2 歴史的環境

旧石器時代の遺跡には、早月上野遺跡（43）があり、後期のナイフ形石器や搔器が出土した。また石垣平 A 遺跡（51）、山田遺跡（57）、田家遺跡（66）では石刀が出土した。

縄文時代では、大光寺遺跡（34）から草創期の土器と石器が出土した。また佐伯遺跡（38）、本江 B 遺跡（26）、桜峠遺跡（24）から早期の土器が出土した。中でも桜峠遺跡は昭和 35・36（1960・1961）年の 2 年間にわたって発掘調査がなされ、早期の押型文土器やトロトロ石器と呼ばれる用途不明の小型石器が出土して注目された。昭和 40（1965）年に富山県史跡に指定されている。中期では、早月上野遺跡、石垣遺跡（50）、天神山遺跡（19）、大光寺遺跡、桜峠遺跡等がある。早月上野遺跡は、平成 18（2006）年の調査で、中央の広場の周りに住居や貯蔵室、墓を同心円状に配置した県内最大規模の環状集落であることが判った。早月上野遺跡が立地する中島台地上には、周辺に吉野遺跡（41）、佐伯遺跡等があり、早月上野遺跡を拠点とする集落群を形成していたと考えられる。天神山遺跡は、富山県における中期中葉の標識遺跡となっている。大光寺遺跡からは火炎土器や大木式土器、曾利式土器など各地域との交流を示す土器が出土した。また仏田遺跡（2）からは後・晩期の土器が出土し、印田遺跡（28）では晩期末の堅穴住居が検出された。

弥生時代では、堀切遺跡（72）、佐伯遺跡、湯上 B 遺跡（45）等がある。堀切遺跡では中期の堅穴住居が検出され、瑪瑙製石針や翡翠の洞片が出土した。玉作りに関係する遺構と考えられる。佐伯遺跡は後期後半の焼失住居のほか、六本柱の大型円形住居等が検出された大規模集落である。集落のはずれでは方形周溝墓と円形周溝墓が検出された。湯上 B 遺跡では、後期後半の堅穴住居や高床倉庫と考

えられる掘立柱建物が検出された。古墳時代では、[▲]阿古屋野古墳群(61)、[▲]経田西町遺跡(6)、印田遺跡、[▲]友道遺跡(31)がある。阿古屋野古墳群は昭和12(1937)年まで6基の古墳があったとされるが、開墾によって5基が消滅した。開墾の際、菅玉、鉄製刀剣類、須恵器が出土したとされる。残る1基は昭和60・62(1985・1987)年の調査で、一辺約15mの方墳であることがわかった。[▲]経田西町遺跡、印田遺跡、友道遺跡はいずれも小規模な集落遺跡である。

古代では、友道遺跡から7世紀後半の瓦が出土し、古代寺院の存在が考えられている。集落遺跡では、[▲]佐田遺跡、[▲]天王寺A遺跡(4)、[▲]佐伯遺跡等がある。[▲]佐田遺跡の平成20(2008)年の調査では、L字形配置をもつ掘立柱建物群や鍛冶工房と考えられる堅穴建物を検出した。搬入品である縁袖・灰釉陶器や多くの墨書き土器のほか、石製椎状錘や石帶の丸薬が出土したことから、遺跡周辺に官人層が存在したことが窺える。あわせて検出された道路は掘立柱建物と平行する方向に幅約6mを測るもので、古代北陸道である可能性も考えられる。[▲]佐伯遺跡は昭和53(1978)年に発掘調査が行われ、掘立柱建物が30数棟検出された。建物群に官衙的な規則性は認められず一般集落とされるが、「廣川」の墨書き土器や硯が出土しており、識字層の存在が考えられる。

中世では、天神山城跡(20)、魚津城跡(30)がある。天神山城は土壘や堅堀などが残り、本丸・二の丸跡を含む山頂部は魚津市史跡に指定されている。魚津城跡は幅17m以上、深さ2m以上の内堀が確認されており、本丸は東西約100mの規模であったと想定されている。魚津城と天神山城は天文10(1582)年に上杉・織田軍の合戦地となったことで知られる。また吉野中世墓(42)からは13世紀後半の古瀬戸の藏骨器と板石塔婆が出土した。石垣遺跡(50)からは珠洲や黄瀬戸の藏骨器と五輪塔、副葬されたと考えられる銅鏡や土師器皿等が出土した。本江丸塚(27)の石室状の遺構内部からは16世紀の中世土師器40点が出土した。山下II遺跡(40)からは、13～16世紀の中世土師器、珠洲等が出土した。

近世では出遺跡(37)、印田遺跡がある。出遺跡は戸井や溝が検出された17世紀～近現代の集落遺跡である。印田遺跡は古錢が副葬された藏骨器5点と板石塔婆が出土しており、江戸時代後半の墓と考えられる。

引用・参考文献

- 魚津市教育委員会 1967「大光寺遺跡調査報告書」
- 魚津市教育委員会 1971「魚津市石垣遺跡発掘調査報告書」
- 魚津市教育委員会 1981「富山県魚津市佐伯遺跡」
- 魚津市教育委員会 1981「富山県魚津市印田近世墓」
- 魚津市教育委員会 1986「富山県魚津市本江山の埋蔵文化財発掘調査報告書 本江B遺跡 丸塚 灰塚」
- 魚津市教育委員会 1997「富山県魚津市出遺跡発掘調査報告書」
- 魚津市教育委員会 1997「富山県魚津市山下II遺跡発掘調査報告書」
- 魚津市教育委員会 2000「富山県魚津市吉野瀬遺跡発掘調査報告書」
- 魚津市史編纂委員会 1968「魚津市史」上巻 魚津市史編纂委員会編 魚津市役所
- 魚津市史編纂委員会 2012「図説 魚津の歴史」魚津市教育委員会
- 片貝郷土史編纂委員会 1997「片貝郷土史」魚津市片貝公民館
- 富山県 1972「富山県史」考古編
- 富山県教育委員会・魚津市教育委員会 1959「天神山遺跡調査報告書」
- 富山県教育委員会 1961・1962「桜峰遺跡調査報告書(上)・(下)」
- 富山県教育委員会 1972「魚津市石垣遺跡発掘調査概報」
- 富山県教育委員会 1982「北陸自動車道遺跡調査報告書 - 魚津市編 - 湯上B遺跡 湯上C遺跡 宮津C遺跡」
- 富山県文化振興財團 2012「早月上野遺跡発掘調査報告 - 北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘報告V-」



第4図 地形図

国土地理局 2000『1:50,000 地形図 三日市、魚津』を元に、経済企画庁 1970『地形分類図 三日市、魚津』を合成して作成した。



第5図 周辺遺跡位置図

国土土地理院 2000『1:50000 地形図 三柱山、角津』を元に作成した。

第5表 周辺遺跡一覧

No.	遺跡名	所在地	類別	時代	備考
1.	204138 江口遺跡	魚津市佐田二町1丁目	集落	古代-中世	昭和N.K.B.-9遺跡
2.	204117 佐田遺跡	魚津市佐田一町1丁目	集落	古墳-古代-中世-近世	昭和N.K.B.-8遺跡
3.	204116 沢野山遺跡	魚津市佐田二町1丁目 同前1号地	古墳-古代-近世		昭和N.K.B.-7遺跡
4.	204003 天王寺遺跡	魚津市佐田二町1丁目 同前2号地	散布地	平安	
5.	204002 天王寺貝塚	魚津市佐田二町1丁目	散布地	古代	
6.	204110 荒田山遺跡	魚津市佐田町1丁目	散布地	古墳前	
7.	204001 平佐山遺跡	魚津市平佐寺	散布地	中世	
8.	204115 平佐山東側遺跡	魚津市平佐寺	散布地	中世	
9.	204005 斎院山遺跡	魚津市斎院崎	散布地	縄文-古文-縄文時代-古代	
10.	204004 天神山新C遺跡	魚津市東尻崎	散布地	縄文	
11.	204006 天神山新D遺跡	魚津市東尻崎新	散布地	縄文	
12.	204007 天神山新E遺跡	魚津市東尻崎新	散布地	縄文-中世	
13.	204009 天神山新F遺跡	魚津市東尻崎新	散布地	古墳	
14.	204012 桜山遺跡	魚津市桜山	散布地	古墳	
15.	204010 天神山新G遺跡	魚津市天神山新	散布地	縄文	
16.	204011 天神山新H遺跡	魚津市天神山新	散布地	古墳	
17.	204017 天神山遺跡	魚津市天神山	散布地	縄文	
18.	204021 親音山遺跡	魚津市小川字子賀音山	散布地	縄文	
19.	204016 天神山遺跡	魚津市小川字子賀音山365号	集落	縄文-古代	
20.	204017 天神山城跡	魚津市小川字子賀音山	散布地	弘生-中世-近世	昭和38(1963)年魚津市指定史跡
21.	204018 中山山跡	魚津市小川字中山	散布地	縄文時代	
22.	204019 西の山原遺跡	魚津市小川字西の山原	散布地	縄文	
23.	204020 茅高山遺跡	魚津市小川字茅古高斯	散布地	縄文-古文-縄文時代-古代	
24.	204021 茅高山遺跡	魚津市小川字茅古高斯	散布地	縄文-古文-縄文時代-古代	昭和40(1965)年笠山原野指定史跡
25.	204020 東の山原	魚津市小川字上野	集落	縄文-古文-縄文時代-古代	
26.	204020 東の山原	魚津市小川字上野	散布地	縄文-古文-縄文時代-古代	
27.	204021 東の山原	魚津市小川字上野	聚落	縄文-中世-近世	
28.	204027 田畠山遺跡	魚津市田畠山	聚落	縄文-中世-近世	
29.	204112 石川山遺跡	魚津市石川山	散布地	縄文-古文-縄文時代-古代-近世	
30.	204040 魚津遺跡	魚津市本町	城館	中世-戦国-安土桃山-近世	昭和38(1963)年魚津市指定史跡
31.	204042 久道遺跡	魚津市久道本(上)	散布地	弘生-古墳	
32.	204041 佐古遺跡	魚津市佐古	散布地	縄文	
33.	204044 大光寺山遺跡	魚津市大光寺	散布地	奈良-室町	
34.	204043 大光寺山遺跡	魚津市大光寺	集落	縄文-古文-縄文時代	
35.	204104 菊野山遺跡	魚津市菊野	散布地	中世	
36.	204046 田代山遺跡	魚津市田代	散布地	縄文	
37.	204152 田代山遺跡	魚津市田代	聚落	弘生-古文-縄文時代-古墳-古墳後-古墳時代-古墳後	
38.	204059 佐伯山遺跡	魚津市佐伯	集落	縄文-古文-縄文時代-古墳-古墳後-古墳時代-古墳後	
39.	204090 山下山遺跡	魚津市山下	散布地	縄文	
40.	204061 山下山遺跡	魚津市山下	散布地	縄文-古文-古墳-古墳後-中世-近世	
41.	204108 古野山遺跡	魚津市古野	集落	縄文-古文-古墳	
42.	204062 古野山遺跡	魚津市古野	聚落	中世	
43.	204064 石川山遺跡	魚津市上野	集落	羽石野-縄文-古文-古墳-古墳時代-古墳後-古墳時代-古墳後	
44.	204048 宮原八重跡	魚津市宮原	散布地	縄文	
45.	204049 海上山遺跡	魚津市海上	集落	縄文-古文-縄文時代-縄文時代-縄文時代-古墳-古墳時代-平安	
46.	204050 海上山遺跡	魚津市海上	散布地	古墳	
47.	204051 海上山遺跡	魚津市海上	散布地	縄文	
48.	204052 宇田遺跡	魚津市宇田	山城	中世	
49.	204053 大谷遺跡	魚津市大谷	散布地	弘生	
50.	204054 石川山遺跡	魚津市石川山135号外	集落-墓	縄文-古文-縄文時代-古墳-古墳時代-古墳後-古墳時代-古墳後	
51.	204055 石川山A遺跡	魚津市石川山平	散布地	縄文-中世	
52.	204056 石川山B遺跡	魚津市石川山平	散布地	縄文-中世	
53.	204067 大谷山遺跡	魚津市大谷	山城	中世	
54.	204058 大谷山遺跡	魚津市大谷	山城	中世	
55.	204065 神留遺跡	魚津市神留	山城	中世	
56.	204066 後垂隈遺跡	魚津市后垂隈	山城	中世	
57.	204044 山田遺跡	黒部市山田	集落-墓	羽石野-平曆-室町-近世	
58.	204045 山田A遺跡	黒部市山田	散布地	平安-中世	
59.	204046 山田A遺跡	黒部市山田	散布地	縄文-中世	
60.	204070 中陣山遺跡	黒部市中陣	山城	中世	
61.	204047 阿古山野古山野	黒部市阿古山野	古墳	古墳後	
62.	204042 秋木山南遺跡	黒部市御野子-秋木平	散布地	古墳	
63.	204041 秋木山北遺跡	黒部市御野子-秋木平	散布地	縄文-近世	
64.	204043 関原山遺跡	黒部市関原子-源守寺	散布地	縄文-古文-古墳	
65.	204038 鶴原山遺跡	黒部市鶴原子-源守寺	集落-墓	羽石野-室町-近世	
66.	204039 田家遺跡	黒部市田家	散布地	縄文-古文-古墳-古墳後-古墳時代-古墳後	
67.	204021 田家山遺跡	黒部市田家新	散布地	古代	
68.	204019 前只若山遺跡	黒部市前子子大原-三日市	集落	縄文-古文-中世-近世	
69.	204013 石田山遺跡	黒部市石田	城館	戰國	
70.	204009 無切山遺跡	黒部市石田	城館	中世	
71.	204077 町原山遺跡	黒部市町原	集落	縄文-古文-古墳-古世-中世-近世	昭和N.K.B.-1遺跡
72.	204011 無切山遺跡	黒部市町原	集落	縄文-古文-古墳-古世-中世-近世	
73.	204014 無切山遺跡	黒部市町原	城館	中世	
74.	204010 無切山遺跡	黒部市町原	散布地	古代-平安	
75.	204009 有切山遺跡	黒部市町原	散布地	古代	
76.	204012 乙原山遺跡	黒部市乙原	集落	縄文-古文-古世-中世-近世	昭和N.K.B.-5遺跡
77.	204080 N.K.B.-4遺跡	黒部市乙原	散布地	古文-中世-近世	
78.	204001 中野山遺跡	黒部市中野	散布地	古墳前	
79.	204008 野野山遺跡	黒部市立野	散布地	縄文	
80.	204015 人頭山遺跡	黒部市三日市	散布地	縄文-中世	

第Ⅲ章 古代の遺構・遺物

1 概要

調査区の旧地形は北東から南西に向かって緩く傾斜しており、片貝川の旧河道が形成したと思われる東西方向の浅い落ち込みが数条みられる。調査区全域において古代の遺構を検出したが、この落ち込みを中心とする範囲に遺構が集中する傾向にある。古代の遺構は、掘立柱建物5棟、柱穴列2列、堅穴建物6棟、溝、落ち込み、烟、土坑がある。

掘立柱建物S B 1は5間×2間の南に庵がつく大型建物で、直径約1m、深さ60cmを超える大型の柱穴によって構成される。掘立柱建物S B 2は4間×2間で、柱穴規模は直径約80cm程度とS B 1よりも一回り小型であるが、柱穴内には据えた柱を安定させるための根巻き石がみられる。S B 1付近の遺物包含層からは、縄軸陶器(I65)や灰軸陶器(I68)等が出土した。

堅穴建物は、一辺2.5～3mを測る隅丸方形を呈するものが多くみられる。住居の床面では6棟のうち4棟で焼土を検出し、うち1棟(S I 680)ではカマドの構築材として用いた川原石が残存していた。貼床を持つものはなかった。

溝は、調査区北部において、北東から南西へ流れる数条を検出した。このうちS D 1092から、土師器や須恵器などの古代の遺物がまとまって出土した。

烟は、落ち込みを中心とする広い範囲で鋤溝を検出した。鋤溝は落ち込みに直交する南北方向に延びており、およそ3段階の重複関係があり、方位等からは大きく5つのブロックに分けられる。

出土遺物は、土師器、黒色土器、須恵器、縄軸陶器、灰軸陶器、製塙土器、繭羽口、砥石、鉄釘、鉄潔がある。土器は8世紀後半～9世紀代の製品を中心とし、一部が10世紀前半に降る。墨書き土器は数点確認しており、中には人名と思われる「乙□〔縄々〕」と書かれた須恵器(87)がある。

2 遺構

(1) 掘立柱建物

1号掘立柱建物(S B 1、第8・40図、図版3・5)

調査区中央西端に位置する5間×2間の南北棟建物である。南に庵がつく。身舎の桁行11.70m、梁行5.70m、面積66.69m²であり、庵を含めた面積は80.60m²である。柱筋にゆがみがあるが、主軸はN-9°-Wを測る。柱穴の平面形は方形を意識したものが多く、規模は長さ0.78～1.52m(平均1.11m)、深さ15～83cm(平均60cm)を測る大型である。北側は地山が礫層であるため柱穴の掘り込みが浅い傾向にある。柱間距離は桁行が約2～2.5m、梁行が約2.5～3mを測る。柱穴は垂直に近い角度で掘り込まれているものが多く、埋土はにぶい黄褐色や暗褐色の砂質土を基調とする。S P 37・49・53・70・77・80・115・135の断面には柱痕が残るが、柱痕の土質は周囲より若干暗い暗褐色砂質土や砂質シルトを呈するものが殆どで、柱の木質が残存するものはない。柱穴断面から推測される柱の太さは直径20～30cmである。身舎南東角の柱穴S P 70に2箇所の柱痕がみられることと柱筋の通りを考慮して、東側柱列に2本の柱筋を想定した(第40図)。建物に構造上の補強を施したか、南庵を後設した可能性が考えられる。S B 1の東側と南側にはS B 1とはほぼ平行に配置された

外周柱穴列を伴い、東面の柱穴列を S A 1、南面を S A 2とした。これらは廂とも考えられるが、柱穴規模が S B 1 の柱穴と比べてかなり小さいため、廂よりはむしろ S B 1 構築時の足場柱穴である可能性を考えておきたい。出土遺物は、S P 33 の土師器壺胴部片、S P 37 の須恵器杯口縁部片・壺胴部片、S P 49 の須恵器杯 B (I45)、S P 70 の土師器椀口縁部～底部小片、S P 80 の土師器椀体部～底部片・甕 (34)、S P 90 の須恵器杯 A (101)、S P 90・149 の土師器甕 (61)、S P 100 の土師器椀 (16)・須恵器杯体部片、S P 135 の須恵器壺胴部片、S P 151 の黒色土器椀 (81)、S P 601 の須恵器杯 A (94) がある。61 は接合しないが S P 90 出土の 2 片と S P 149 出土の 1 片を同一個体と判断したものである。全体に 9 世紀代の製品を中心とし、一部が 10 世紀に降る様相である。また付近の遺物包含層からの出土も多くみられ、S P 135 の北から綠釉陶器 (I65)、S P 70 の東から灰釉陶器 (I68)、S P 100・150 の東から墨書き土器 (87) が出土した。

2 号掘立柱建物 (S B 2、第 9・40 図、図版 3・4)

調査区中央北寄りに位置する 4 間 × 2 間の東西棟建物である。東面に廂がつく。身舎の桁行 7.42 m、梁行 5.10 m、面積 37.84m² である。廂を含めた面積は 58.29m² である。主軸は N - 82° - E である。東側には S B 2 の柱穴と同規模の S K 1124 があり、S B 2 の主要構造の一部であった可能性も考えられる。また北側の柱穴 S P 1036 が S B 4 の S P 1035 と切り合い関係にあるため、S B 2 → S B 4 の変遷が考えられる。柱穴の平面形は方形や円形が主体で、規模は長さ 0.36 ~ 1.16 m (平均 0.83 m)、深さ 16 ~ 77 cm (平均 44 cm) を測る。柱列にゆがみがあるため柱間距離は一定ではないが、桁行で約 1.5 ~ 2.5 m、梁行で約 2.5 m を測る。柱穴は垂直に近い角度で掘り込まれているものが多く、埋土はにぶい黄褐色や暗褐色の砂質土を基調とする。柱穴断面に柱痕が残るものはないが、S P 977・1027・1036・1046・1050・1078・1088・1171 の柱穴内部には、内壁に沿って直径 10 ~ 30 cm の川原石を詰めた「根巻き石」の技法³¹⁾がみられる。柱穴に柱を据える際、柱の周囲に石を詰めて柱の根元を固定し安定させるとともに、沈下を防ぐための技法とされる。残存する根巻き石の配置から推測される柱の太さは直径 20 ~ 30 cm である。出土遺物は、S P 977・987・1027・1046・1050・1171・1172 の土師器壺胴部片、S P 1078 の土師器椀口縁部小片・壺胴部片、S P 1088 の土師器甕口縁部～胴部小片、S P 1150 の土師器椀体部片・甕 (71)、S P 1162 の土師器椀体部片・壺胴部片がある。

3 号掘立柱建物 (S B 3、第 9 図、図版 3)

調査区中央北寄りに位置する 2 間 × 2 間の東西棟建物である。柱列にゆがみがあり、桁行 2.96 ~ 3.87 m、梁行 2.95 ~ 3.33 m を測る。面積は 11.13m² である。主軸は N - 85° - W である。柱穴の平面形は円形が主体で、規模は長さ 22 ~ 72 cm、深さ 6 ~ 25 cm を測る。柱間距離は桁行が約 1.5 ~ 2 m、梁行が約 1 ~ 2 m を測る。柱穴の埋土はにぶい黄褐色や暗褐色の砂質土や砂質シルトを基調とする。出土遺物は、S P 986・1167 の土師器壺胴部片がある。

4 号掘立柱建物 (S B 4、第 10 図)

調査区中央北寄りに位置する 4 間 × 2 間の東西棟建物である。桁行 11.00 m、梁行 4.80 m、面積 52.80m² である。主軸は N - 88° - E である。柱穴の平面形は円形が主体で、規模は長さ 0.52 ~ 1.16 m、深さ 22 ~ 51 cm を測る。北側は地山が礎となっており柱穴が確認できなかつた箇所がある。柱間距離は南面の桁行で約 2.5 m を測る。柱穴の埋土は暗褐色砂質土を基調とする。南側の柱穴 S P 1035 が S B 2 の S P 1036 と切り合い関係にあるため、S B 2 → S B 4 の変遷が考えられる。出土遺物は、S P 1033 の土師器壺胴部片、S P 1035 の土師器椀口縁部～底部小片・壺胴部～底部片、須恵器杯蓋・杯の口縁部小片、S P 1065 の土師器壺胴部片、須恵器甕 (I54)、S P 1073 の土師器椀 (I7)・

註 3 山中敏史-2000「Ⅲ 遺物建物の遺構 Ⅲ-4 掘立柱の基礎面」『古代の官衙遺跡 I 遺構編』施立行政法人文化財研究所企画文化財研究所

壺(63)・鍋(73)、須恵器杯口縁部・壺(160)、S P 1080の土師器壺胴部片、須恵器杯口縁部小片、S P 1085の土師器壺胴部片、須恵器杯蓋口縁部小片、S P 1152の土師器碗口縁部小片がある。

5号掘立柱建物(S B 5、第10図、図版3)

調査区北西に位置する4間×2間の東西棟建物である。南面の柱穴列を基準に北側へ配置される建物規模を想定した。桁行3.87～4.72m、梁行3.79～3.81mを測る。面積は16.24m²である。主軸はN-84°-Wである。柱穴の平面形は円形を主体とし、規模は長さ0.44～1.06m、深さ21～51cmを測る。柱穴の埋土はにぶい黄褐色か暗褐色の砂質土を基調とする。出土遺物は、S P 1071の土師器壺胴部片、S P 1073の土師器碗(17)・壺(63)・鍋(73)、須恵器杯口縁部・壺(160)、S P 1097の土師器壺(38)がある。

(2) 柱穴列

1号柱穴列(S A 1、第8図)

調査区中央西端、S B 1東面に位置する柱穴列で、6基が南北方向に並ぶ。主軸はS B 1と同じN-9°-Wである。北端の柱穴は地山が疊層のため検出できなかったが、他の柱穴はS B 1の柱筋とは平行に配置される。柱間距離はS B 1の梁行とほぼ同じ約2.5～3mを測る。柱穴の平面形は円形が主体で、規模は長さ32～68cm(平均44cm)、深さ14～56cm(平均31cm)を測る。S B 1の柱穴規模と比較してかなり小さいため窓などS B 1の主要構造の一部であったとは考えがたく、S B 1構築時の足場柱穴である可能性を考えておく。埋土はにぶい黄褐色、褐色、暗褐色の砂質土あるいは砂質シルトを基調とするもので、中世の柱穴埋土とは異なる。出土遺物はS P 111の土師器壺胴部片がある。

2号柱穴列(S A 2、第8図)

調査区中央西端、S B 1南面に位置する柱穴列である。S B 1と平行に並ぶ2基の柱穴列を確認した。規模は長さ46～64cm、深さ30～40cmを測る。埋土はにぶい黄褐色、暗褐色の砂質土あるいは砂質シルトを基調とするもので、中世の柱穴埋土とは異なる。出土遺物はない。S A 1と同様にS B 1構築時の足場柱穴である可能性を考えておく。

(3) 壴穴建物

680号堅穴建物(S I 680、第11図、図版6)

調査区中央東に位置し、北東角を烟の鑄溝に切られる。平面形は隅丸方形で、長さ2.68m、幅2.36m、深さ29cmを測る。北東角で、川原石を()状に配置したカマドを検出した。川原石は長さ30～40cmの長細いものを二列に立てて並べており、焚き口の構築部材として用いられたものと考えられる。埋土は暗褐色砂質シルトを基調とし、カマドの位置する北東角を中心とする範囲で焼土や炭化物の堆積を確認した。貼床は認められなかった。埋土上層には、特にカマドの周辺において人頭大の川原石が多く見られた。おそらくS I 680の廃絶時にカマドを取り壊し、土と共に埋め戻したものであろう。出土遺物は、土師器碗口縁部片・壺(43・45・48)、須恵器杯(93)・杯B蓋(127・128)・杯B(139)・壺胴部片、製塙土器(164)、鉄滓と思われる金属小片がある。土師器の多くはカマド周辺から出土した。45はカマド構築石の間の底面に近い高さから出土した8世紀中頃～後半の壺であり、存続年代の下限と考えられる。

930号堅穴建物(S I 930、第12図、図版6)

調査区中央北寄りに位置し、北西側を試掘トレーニチに切られる。北東寄りではS K 1148を切る。平面形は隅丸方形で、長さ3.24m、深さ24cmを測る。埋土はにぶい黄褐色砂質土を基調とする。中央部上層から遺物がまとまって出土した。この範囲はS I 930よりも埋土の色調がやや暗い暗褐色砂

質土を基調とし、S I 930の床面よりもやや落ち込む様子がみられるため、S I 930が一度埋没した後に掘り込んで、遺物を廃棄した可能性も考えられる。カマドや貼床は認められなかった。出土遺物は、土師器椀A (18)・皿B (20)・壺 (31・60・62)・鍋 (76)、須恵器杯A (89)・横瓶 (149)・短頸壺 (150)・壺 (156・161)、焼粘土塊がある。89はS N 4出土破片と接合する。

985号堅穴建物 (S I 985, 第15図, 図版6・7)

調査区中央に位置する。北東角をS K 965に切られる。また南北方向に延びる畠S N 4の鋤溝4条と重複するが、これら全てに切られている。遺構検出時にこれら鋤溝は検出が可能であったが、S I 985のある一帯が浅い落ち込みを形成しており、鋤溝の周間に地山が確認できなかったため、鋤溝と平行する方向に畦を残して周縁を掘り下げ、検出と地山の確認を試みた(第15図b断面)。この結果、S I 985の平面形を確認することが出来たため、平面形に沿った土層観察用の畦を再設定した(第15図a・c断面)。平面形は長方形で、長さ3.60m、幅2.68m、深さ18cmを測る。埋土は暗褐色砂質シルトを基調とする。北西角で被熱して割れた石と焼土を僅かに確認しており、カマドの存在が推測される。貼床は認められなかった。出土遺物は、土師器壺 (32・50)、須恵器杯A (92) がある。

1023号堅穴建物 (S I 1023, 第13図, 図版6)

調査区中央北西寄りに位置し、西側から北東角にかけて試掘トレンチに切られる。S B 2の柱穴S P 1150およびS B 3の柱穴S P 1107と重複する。平面形は隅丸方形で、長さ2.48m、深さ27cmを測る。埋土は暗褐色砂質土を基調とする。北東部で焼土を検出しており、カマドの存在が推測される。焼土範囲からは、被熱して細かく割れた土器が出土した。貼床は認められなかった。出土遺物は、土師器壺 (49)・鍋 (68・72)、須恵器杯蓋部片・杯底部片がある。

1045号堅穴建物 (S I 1045, 第14図, 図版6・7)

調査区中央北寄りに位置する。S I 1023の東に位置する。南半を試掘トレンチに切られるが、トレンチの南北で平面形を確認した。北東寄りでS B 2の柱穴S P 1046と重複する。平面形は不整形で、長さ3.00m、幅2.52m、深さ17cmを測る。埋土は暗褐色砂質土を基調とし、南側の下層にはより暗い暗褐色砂質土が堆積する。カマドや貼床は認められなかった。出土遺物は、土師器椀口縁部小片・壺 (27)、須恵器杯B蓋 (117)・杯体部片がある。

1100号堅穴建物 (S I 1100, 第15図, 図版6)

調査区中央北東寄りに位置する。西側を試掘トレンチに切られ、東側をS K 1124・1126に切られる。切り合いが著しいため平面形は不整形としたが、本来は方形かこれに近い形だったと推測できる。長さ3.20m、深さ14cmを測る。埋土はにぶい黄褐色砂質土を基調とし、S K 1124と重複する付近で僅かに焼土を確認した。出土遺物は土師器壺 (26ほか胴部片多数)、須恵器杯底部小片がある。

(4) 溝

1092号溝 (S D 1092, 第16図, 図版5)

調査区北に位置し、北東から緩やかに蛇行して西へ流れる。S D 1143・1144を切る。最大幅2.01m、深さ27cmを測る。埋土は黒褐色砂質土を基調とする。南北方向の試掘トレンチを挟んだ西側では、下層に礫混じりのにぶい黄褐色砂質土が堆積しており、ここから多くの遺物が出土した(第16図出土状況)。出土遺物は、土師器椀A (1・3・8・9・11・12)・椀 (14・15)・皿B (21)・皿 (22)・壺 (33・39・44・55・56)・鍋 (69)、黒色土器椀 (79・80)、須恵器杯 (100)・杯A (99・102・104)・杯B蓋 (123)・杯B (142)・壺 (158・159)・甕がある。9はS D 1143・S K 1111出土破片と、また8・14・15・21・39・44・80・102・159はS D 1143や包含層出土破片と接合する。

1128号溝（S D 1128、第16図、図版5）

調査区北に位置する。北東から南西へ向かい、S D 1139と合流する。最大幅1.03m、深さ11cmを測る。埋土は暗褐色砂質土を基調とする。出土遺物はない。

1139号溝（S D 1139、第16図、図版5）

調査区北に位置する。北東から南西へ流れ、S D 1140に切られて終わる。西側は試掘トレンチに切られるため規模が定かではないが、最大幅99cm、深さ14cmを測る。埋土は暗褐色砂質土を基調とする。出土遺物は土師器壺胴部片がある。

1140号溝（S D 1140、第16図、図版5）

調査区北に位置し、S D 1139・1141を切る。最大幅87cm、深さ21cmを測る。埋土は暗褐色砂質土を基調とする。試掘トレンチを挟んだ西側にS D 1143が同方向に延びており、埋土は異なるが一連の遺構と考えられる。出土遺物はない。

1141号溝（S D 1141、第16図、図版5）

調査区北に位置し、S D 1140に切られる。最大幅56cm、深さ20cmを測る。埋土は暗褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物はない。

1143号溝（S D 1143、第16図、図版5）

調査区北に位置する。S D 1092の西部分と同方向に延び、これに切られる。最大幅3.28m、深さ22cmを測る。埋土は褐色砂質土を基調としており、付近の溝群とは異なっている。浅い落ち込みのようなものであるかもしれない。試掘トレンチを挟んだ東側延長線上にS D 1140・1144が延びており、関連する溝と考えられる。出土遺物は、土師器椀A(8・9)・椀(14・15)・皿B(21)・甕(39・44)、黒色土器椀(80・84)、須恵器杯A(102・106・107・112)・杯B(143)・横瓶(148)・瓶(152)・甕(159)・甕がある。9はS D 1092・S K 1111出土破片と、また8・14・15・21・39・44・80・102・159はS D 1092や包含層出土破片と接合する。

1144号溝（S D 1144、第16図、図版5）

調査区北に位置し、S D 1092に切られる。最大幅85cm、深さ14cmを測る。埋土は暗褐色砂質土を基調とする。試掘トレンチを挟んだ西側にS D 1143が同方向に延びており、埋土は異なるが一連の遺構と考えられる。出土遺物は、土師器椀口縁部小片・甕胴部片、須恵器壺胴部片がある。

(5) 落ち込み

1号落ち込み（S D 1、第17・18図、図版8）

調査区中央南寄りに位置し、東から西へ向かって調査区を横断する。東側の2条が中央部で合流し、西に向かって浅く幅の細いものとなる。規模は、最大幅12.65m。検出面からの深さは最大29cmを測る。S D 1の南北両岸には礫原が広がり、S D 1の範囲内にのみ暗褐色砂質シルトの堆積が認められる。地形は東から西へ緩やかに傾斜しているため、こうした堆積土も東の山側から流れ込んだものと考えられる。江口遺跡が立地する付近一帯は片貝川の氾濫原に立地しており、S D 1が形成された要因としては、片貝川の氾濫や洪水、およびこれに伴う流路の変遷等が想定される。なお、S D 1は古代の畠S N 1～4との間に新旧の切り合い関係があり、S D 1の方がS N 1～4より古い段階の遺構と考えられる。

出土遺物は、土師器、黒色土器、須恵器杯A(95)・杯B蓋(129)、中世土師器皿、輪羽口(170)、鉄滓がある。95はS K 179およびS N 1出土破片と接合する。中世の遺物は、後世の片貝川の氾濫や洪水等に伴う流れ込みであろう。

(6) 烟

1～4号烟 (SN 1～4, 第17・18図, 図版8)

落ち込みSD 1を中心とする広い範囲で検出した鉤溝群である。鉤溝の延びる主軸は群ごとに異なるが、いずれも地形の傾斜に対してほぼ直交する南北方向に延びる。新旧の切り合い関係や鉤溝の延びる方位を基準として、SN 1～4の4群に分けた(第17図烟模式図)。

SN 1はSD 1範囲内にもっとも広範囲に展開する一群で、幅17～65cm、深さ4～32cm、溝間の距離約0.5～1mを測る。長さはSD 1の幅を一応の区切りとする10～12m前後のものが多いが、15mを超えるものもある。鉤溝の延びる方位はN-4～37°-Eである。緩やかなくの字状に屈曲するものが多く、また条数も多いため、角度が絞り込めなかった。分布範囲や軸方位により、更に細分できる可能性がある。

SN 2は南側のSD 1範囲内に展開する一群で、幅20～65cm、深さ6～33cmを測る。SN 1との重複が著しいが、長さは長いもので5～6mを測るものがある。溝間の距離はSN 1より広く、約1.2～1.3mを測るものが多い。鉤溝の延びる方位はN-45°-Eを中心とする。

SN 3もSN 2と同様に南側のSD 1範囲内に展開する一群で、幅16～52cm、深さ5～11cmを測る。鉤溝の延びる方位はN-2～5°-Eのものが多いが、若干西へ振れるものもある。重複するSN 1～3には新旧の切り合いが確認でき、SN 3→SN 2→SN 1の変遷が考えられる。

SN 4はSD 1範囲内から外れた、地形が高くなる北側に展開する一群で、幅18～70cm、深さ6～20cmを測る。溝間の距離は約50～80cmを測るが、北東側の鉤溝群はこの間に更に鉤溝があり、溝間距離20cm程のものもみられる。鉤溝の延びる方位はN-0～15°-Wのものが多いが、弧を描くものやこの方位から外れるものも散見される。

SN 1～4の埋土は暗褐色砂質シルトやぶい黄褐色砂質土を基調としており、中には地山の褐色砂質土や炭化物を含むものもある。調査区の遺構検出面の大半は砂層あるいは大小の円礫の混じる砂礫層で畑作には不向きな地質であるため、SN 1～4は主にSD 1の範囲内に堆積したシルト質の堆積層を利用して耕作したものである。SN 1～4はSD 1の上面で検出できるものが多く、SD 1よりも新しい段階の遺構が主体であるが、古い段階の鉤溝の中にはSD 1に先行すると考えられるものもある。また鉤溝の中には掘り直したように底面が一段下がるものもみられ、複数時期にわたって耕作したり、度々手入れした様子がうかがえる。おそらく長期間にわたってSD 1範囲内への土の堆積とこれを利用した畑作が繰り返されたのであろう。また建物との間に新旧の切り合いが観察できるものがある。SN 1は掘立柱建物SB 1と、またSN 1・4は堅穴建物SI 680・985と切り合い関係があり、SI 680・985→SN 1・4→SB 1の変遷が考えられる。

出土遺物は、土師器壺(29・52)、須恵器杯A(89・95)・壺(162)、中世土師器皿(187)、砥石(171)があり、出土地点を第17図に示す。95はSD 1およびSK 179出土破片と接合する。89はSI 930出土破片と接合する。中世の遺物は、後世の片貝川の氾濫や洪水等に伴う流れ込みであろう。

5号烟 (SN 5, 第19図, 図版8)

調査区南端で検出した鉤溝群である。SD 1南岸の礫原を挟んで地山がシルト質の堆積となる僅かな範囲に展開する。鉤溝の延びる方位はN-31～44°-Eである。規模は、幅15～59cm、深さ5～17cmを測る。溝間の距離は約50～70cmを測るものが多い。埋土は暗褐色砂質シルトを基調とし、地山の褐色砂質シルトが混じるものが多い。出土遺物はない。

(7) 土 坑

48号土坑（SK 48, 第20図）

調査区中央西端, S A 2の南に位置する。平面形は円形で、直径32~40cm, 深さ28cmを測る。埋土はにぶい黄褐色・褐色砂質土を基調とする。出土遺物は土師器壺(37)がある。

137号土坑（SK 137, 第20図, 図版7）

調査区中央西寄りに位置し、S B 1の柱穴S P 150に切られる。平面形は円形で、直径92~96cm, 深さ28cmを測る。埋土は暗褐色砂質シルトを基調とし、上層には明赤褐色の焼土が混じる。出土遺物は、土師器挽胴部片・壺(59), 須恵器杯A(105), 鉄滓(176)がある。

138号土坑（SK 138, 第20図）

調査区中央西寄り, S A 1の東に位置し, SK 179を切る。平面形は円形で、直径72~92cm, 深さ17cmを測る。埋土上層は暗褐色砂質シルト、下層は褐色砂質土を基調とする。出土遺物は、土師器壺(36), 須恵器杯蓋口縁部片・杯A(98)がある。

165号土坑（SK 165, 第20図）

調査区中央西寄り, S A 1の東に位置する。平面形は円形で、直径46cm, 深さ13cmを測る。埋土は暗褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は須恵器杯B(146)がある。

179号土坑（SK 179, 第20図）

調査区中央西寄り, S A 1の東に位置し, SK 138に切られる。平面形は円形で、直径72~88cm, 深さ16cmを測る。埋土上層はにぶい黄褐色砂質シルト、下層は褐色砂質土を基調とする。出土遺物は、土師器挽A(5), 黒色土器挽口縁部片, 須恵器杯A(95)・杯B蓋(135)がある。95はS N 1およびS D 1出土破片と接合する。

382号土坑（SK 382, 第20図）

調査区中央, S B 11範囲内に位置し, S N 1に切られる。平面形は円形で、直径28cm, 深さ18cmを測る。埋土は暗褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は須恵器杯A(90)がある。

799号土坑（SK 799, 第20図）

調査区中央西端に位置する。西側は調査区外にかかるが、確認できた平面形は円形と思われ、直径1.64m, 深さ21cmを測る。埋土は暗褐色砂質土を基調とする。検出面が礫であるため、埋土には多くの礫が混じる。出土遺物は土師器挽胴部片がある。

951号土坑（SK 951, 第20図）

調査区中央西寄りに位置する。平面形は円形で、直径52~64cm, 深さ18cmを測る。埋土は暗褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は土師器壺(35)がある。

953号土坑（SK 953, 第20図）

調査区中央西寄り, S B 2の西に位置する。平面形は円形で、直径62~72cm, 深さ24cmを測る。埋土は暗褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は、土師器皿(23)・壺胴部片, 黒色土器挽口縁部片, 須恵器皿(113)がある。

955号土坑（SK 955, 第20図）

調査区中央北西寄り, S B 2の南に位置する。平面形は梢円形で、長さ48cm, 幅32cm, 深さ10cmを測る。埋土はにぶい黄褐色砂質土を基調とする。出土遺物は、土師器挽胴部片, 須恵器杯A(88)がある。

965 号土坑 (SK 965, 第20図, 図版7)

調査区中央北寄りに位置し, S I 985を切る。平面形は長方形で, 長さ2.42m, 幅1.18m, 深さ15cmを測る。埋土は暗褐色砂質土を基調とするが, 暗灰色粘土質シルトの混入率により南北に切り合を持つように分層でき, 方形の土坑が南北に重複したものと考えられる。出土遺物は土師器椀・甕, 須恵器杯蓋があるが, いずれも口縁部から体部にかけての小片である。

1011号土坑 (SK 1011, 第20図)

調査区北西に位置し, S N 4を切る。平面形はややいびつな円形で, 直径2.00~2.24m, 深さ34cmを測る。埋土は暗褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物はない。

1111号土坑 (SK 1111, 第16・21図)

調査区北西に位置し, S D 1092を切る。平面形は楕円形で, 長さ48cm, 幅40cm, 深さ16cmを測る。埋土は暗褐色砂質土を基調とする。出土遺物は土師器椀A(9)・甕(42)がある。9はS D 1092・1143出土破片と接合する。

1124号土坑 (SK 1124, 第15図)

調査区中央北寄りの東に位置し, S I 1100を切る。平面形は方形で, 長さ88cm, 幅82cm, 深さ57cmを測る。S B 2の柱穴とほぼ同規模であり, S B 2との関連が考えられる。埋土はにぶい黄褐色砂質土を基調とする。出土遺物は, 土師器椀体部・甕口縁部・胴部片がある。

1126号土坑 (SK 1126, 第15図)

調査区中央北寄りに位置し, S I 1100を切る。平面形は不整形で, 長さ4.96m, 幅1.80m, 深さ9cmを測る。埋土はにぶい黄褐色砂質土を基調とする。南北方向の浅い溝か落ち込みであった可能性が高い。出土遺物は土師器鍋(64)がある。

1147号土坑 (SK 1147, 第21図)

調査区中央北寄り, S B 4の範囲内に位置する。平面形は円形で, 長さ76cm, 幅60cm, 深さ22cmを測る。埋土はにぶい黄褐色砂質土を基調とする。土器がまとめて出土したS I 930が西に近接しており, 関連が窺える。出土遺物は須恵器瓶(155)がある。

1154号土坑 (SK 1154, 第21図)

調査区中央北寄りに位置し, S B 4の柱穴S P 1152に切られる。平面形は不整形で, 長さ4.96m, 幅2.30m, 深さ16cmを測る。埋土はにぶい黄褐色砂質土を基調とする。出土遺物は土師器椀・甕, 須恵器杯・甕, 緑釉陶器椀か皿(167)があるが, いずれも小片である。

1198号土坑 (SK 1198, 第21図)

調査区中央西寄り, S I 680の東に位置する。古代の造構検出面で確認した焼土範囲である。S D 1にかかっていたため, 断面確認用の畦を残して周囲を掘り下げた。焼土は褐色砂質土を基調とするもので, 直径28cmの円形に広がり, 深さ4cmを測る。出土遺物はない。

3 遺 物

(1) 土器・陶器

土師器 (1 ~ 77、第 22 ~ 26 図、図版 9・11 ~ 14)

椀 A、皿、壺、鍋がある。椀 A (1 ~ 13) は口径 12 ~ 14cm のものが主体で、13 のみ口径 18.4cm を測る大型品である。体部外面下半から外底面にかけて手持ちヘラ削りするもの (1 ~ 3)、体部外面下半のみ手持ちヘラ削りし、外底面には糸切り痕を残すもの (4・5)、手持ちヘラ削りをしないもの (6 ~ 13) がある。4 の外底面は中央部のみ削らずに糸切り痕を残す。手持ちヘラ削りするものは、体部が開き気味に立ち上がる器形 (1・2) と、体部が内湾する器形 (3 ~ 5) がある。手持ちヘラ削りしないものには、体部外面を回転ヘラ削りするもの (8)、内面をヘラ磨きするもの (8・11)、内底面を回転ヘラ磨きするもの (9) がある。14 の体部外面下半は、不明瞭であるが指ナデあるいは手持ちヘラ削りと思われる。S I 930 から出土した 18 は二次被熱のため器表面が細かく爆ぜており、調整不明である。1・3・4 には油煙痕が残り、灯火器として使用された可能性がある。1・4 ~ 14・16・17 の器表面には赤彩痕が残る。

皿 (19 ~ 24) は、高台が残る 19 ~ 21 と口縁部の 22 ~ 24 がある。19 は断面形が角張る高台を外底面の縁端に貼り付ける。20 は丸みのある短い高台を体部外面下端に貼り付ける。21 の高台は端部がやや細くなり外方に屈曲する。19・21 の外底面は回転糸切り後、回転ヘラ削りする。21 の内面には油煙痕が残る。口縁部の 22・23 は器壁の薄いつくりで、22 は口縁端部をやや薄く引き出して外反させ、23 は直線的ののばす。24 は器壁の厚いつくりで、内面のみに赤彩を施し、油煙痕を残す。

壺 (25 ~ 63) は、小型、中型、大型に分類できる。小型壺 (25 ~ 38) は口径約 11 ~ 14cm のものを中心とする。回転台成形で、外底面は糸切り後に手持ちヘラ削りで仕上げると考えられる。内外面に煤が付着するものが多く、火にかける調理に用いられたことがわかる。25 はこれらの中でも小さく口径 9.8cm を測る。内外面とも摩滅し、煤が付着する。26 ~ 29 は口縁端部を摘むように整形する 9 世紀頃のものである。肩が丸く張り出す器形 (26・27・29) が多い。29 は全形がわかる資料で、体部を丸く成形し、体部外面下半から外底面を手持ちヘラ削りして丸底風に仕上げる。30 ~ 38 は口縁端部を丸めるもので、9 世紀 ~ 10 世紀前半頃のものである。35・37 は端部を内側に折り曲げる。35 は 29 に比べてやや長胴で、体部外面下半から外底面にかけて同様に手持ちヘラ削りするものの平底に仕上げる。39 ~ 43 は小型壺の底部である。39 ~ 42 は体部外面下半から外底面にかけて手持ちヘラ削りし、43 は体部外面のみヘラ削りして外底面には静止糸切り痕を残す。42 は板状の工具による削りであるため、ハケメ状の調整痕が残る。44 は外面に平行叩き、内面に扇状當て具痕と回転カキメを施した壺の胴部片で、外面に煤が付着する。中型壺 (45 ~ 56) は口径約 20 ~ 22cm のものを中心とする。いずれも肩部以上の残存で、回転ナデか回転ハケメ・カキメの調整である。45・49 には縱方向のハケメと削りを施す。45 は口縁端部を面取りするもので、他により若干古手の 8 世紀中頃 ~ 後半に位置づけられる。46 ~ 51 は端部を摘み上げたり上下に拡張させるもので、8 ~ 9 世紀頃のものである。肩の張り出しが弱いもの (46・47・51) と、頭部がくの字状に屈曲して肩が張り出するもの (48 ~ 50) がある。52 ~ 56 は端部を丸く取めるもので、9 世紀 ~ 10 世紀前半頃のものである。53 ~ 56 には口縁部外面に沈線を引く特徴がある。大型壺 (57 ~ 63) は口径 25cm 前後のものを中心とする。中型壺と同様に回転ナデか回転ハケメ・カキメの調整であるが、57 には外面に幅広の削り、内面に縱方向のハケメがみられる。58 は撫で消されて不明瞭であるが、叩き成形の痕跡が残る。59 の内面

には斜めのハケメが僅かにみられる。口縁部の形状は、口縁端部を面取りするもの(57・58)と、丸く收めるものの(59～63)がある。61・62の口縁部外面には沈線を引き、63の口縁部外面には深く抉るような整形をする。

鍋(64～77)は、口径から小型、中型、大型に分類できる。小型鍋(75～77)は口径約22～25cmのものを中心とする。いずれも端部が丸く、頭部の屈曲が緩やかな器形で、回転ナデか回転ハケメ調整である。中型鍋(64～70)は、口径約30～37cmのものである。端部を面取りするもの(64)、面取りするが端部を摘み上げるように整形するもの(65～68)、端部を丸めるもの(69～70)がある。調整は回転ナデか回転ハケメ、カキメが多いが、64・66の外面下半にはヘラ削りを施し、64の内面には回転ナデの前にハケメ調整を施す。大型鍋(71～74)は口径約40～42cmを測る。71・72は端部を摘むように整形する。72は器壁が薄く体部上半が張る器形である。73・74は端部が丸いもので、74の器形は頭部の屈曲が弱く、体部外面下半には手持ちヘラ削りと叩きを施す。

黒色土器(78～84、第26図、図版14)

椀がある。78は底径10.2cmを測る大型品で、外面は体部から底部にかけて回転ヘラ削りし、赤彩を施す。内面は継や斜め方向のヘラ磨きである。79～84は器壁が薄く体部が緩やかに内湾する9世紀頃のものである。調整は内面がヘラ磨き、外面が回転ナデであるが、81の外面には手持ちヘラ削り後にヘラ磨きを施す。81は特に薄い作りで、胎土が精良である。外底面の残る79・80・84にはいずれも糸切り痕がみられる。

須恵器(85～163、第27～30図、図版9～11・14～17)

杯A、皿、鉢、杯B蓋、杯B、横瓶、短頸壺、双耳瓶、甕等がある。

杯A(85～111)は、いずれも口径約11～13cmを測るものである。口縁部から体部にかけて回転ナデ調整で、外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整するものが殆どである。85～87は器壁が厚く、体部が丸みを帯びた器形で、8世紀中頃～後半に位置づけられる。87の外底面には、墨書「乙□〔繩カ〕」がある⁵²。88～92は比較的深身で体部がまっすぐに伸びるもので、8世紀後半～9世紀頃の製品と考えられる。90・91は底部に厚みがある。95～111は器高が浅く体部が外反あるいは内湾するもので、9～10世紀に降ると考えられる。100・102～104は体部の器壁が非常に薄い。99・100の体部外面と102の外底面には墨書があり、99は「Ⅱ」、他は不明である。110・111は口縁部内面に段がある。89・91・92・95・99・100・109には口縁部を中心に油煙痕が残り、灯火器として使用された可能性がある。

112は深身で体部が直線的に立ち上がる小型品である。胎土や焼成が他と異なっており、搬入品の可能性がある。113は皿で、内面に油煙が付着する。114は器種不明の精製品である。内外面とも回転ナデ調整で、口縁部が強く屈曲する。口縁下の欠損部でも更に屈曲するようで、壺のような器形になるものであろうか。115は鉢の口縁部で、体部に沈線を2条巡らせる。

杯B蓋(116～137)は法量I～IIIに分類することができる。法量I(116・117)は口径16cmを超えるものである。いずれも宝珠状摘みをもち、やや丸みを帯びた端部を短く下方に折り曲げる。法量II(118～125)は口径約13～14cmのものである。端部近くが屈曲するもの(118・119・124)、天井部から肩にかけて丸みを帯びており器高が高いもの(120・121)があり、端部は丸いものが多くみられる。118・124は肩部に回転ヘラ削り調整を加える。122はボタン状の摘みを貼り付ける。123・125は天井部に摘みをもたない。法量III(126～137)は口径約11～12cmを測るものである。端部が短く下方に折れ曲がり器高が低いもの(127・128)、端部が丸みを帯びるもの(126・129～137)がある。127・128・135は肩部に回転ヘラ削り調整を加える。130・132・135はボタン状の摘みを貼り付ける。

註2：鈴木章二氏よりご教示いただいた。二文字目は「押」あるいは「押」と見えるが「繩」の可能性が高いとされる。

136には口径と比較して大きい摘みを貼り付ける。137は摘みをもたない。132の外面には、墨で書いた1本の長い直線がある。

杯B(138～146)も法量I～IIIに分類することができ、杯B蓋の法量I～IIIと組み合わさると考えられる。法量I(138)は口径14.0cm、法量II(139)は口径12.4cmを測る。いずれも外底面は回転ヘラ切り後に回転ヘラ削りを加えて平滑に整える。法量III(140～143)は口径約10～11cmを測るものである。体部は外傾気味に開くもの(140・141)、緩やかに内湾するもの(142・143)がある。144～146は杯B底部である。144は外底面に回転ヘラ削り調整を加える。

横瓶(147～149)は3点を図示した。147・148は肩部内面に当て具痕が僅かにみられる。149は胴部内面に同心円の当て具痕、外面に平行叩きと回転カキメを施す。外面には別個体の破片が接着する。

短頭壺(150)はS I 930からまとめて出土した。外面肩部以下は叩きの後に回転ヘラ削りを加え、手持ちヘラ削りをして仕上げる。外面肩部から口縁部、内面にかけては回転ナデ調整で、内面下半に一部指ナデがみられる。151は双耳瓶の肩部で、耳の一部が残る。152～155は瓶類の口縁部である。外面に沈線を巡らせるものが多い。157～159は壺瓶類の底部である。157は内底面に自然釉が薄くかかる。158は横瓶のような器形に高台を貼り付ける。胴部の器壁は厚く、叩き成形の後、外面に回転カキメを加える。159は焼き彫れが著しく、外底面には高台の剥離痕が残る。

壺(156・160～163)は、肩がしっかりと張り出す器形が多い。156は倒卵形で、胴部を叩き縮めて成形する。156・160の当て具痕には木目がみられる。161は叩きの後、外面に回転カキメを施す。162・163は壺の口縁部で、163の外面には櫛状具による波状文がある。

製塙土器(164、第30図、図版17)

小破片が数点出土しており、比較的状態のよいS I 680出土の1点を図示した。輪積みによる成形後、ハケメと指ナデで調整する。

綠釉陶器(165～167、第30図、図版11・17)

3点とも京都洛北系の軟陶で、淡緑色か浅黄色の綠釉がうすくかかる9世紀頃の製品である。165は内外面にヘラ磨きを施す皿で、底部は削り出しの円盤状高台である。166は無高台の椀か。内面はヘラ磨き、外面は回転ヘラ削りを施す。167は椀か皿の口縁部小片で、内外面ともヘラ磨きを施す。

灰釉陶器(168、第30図、図版17)

口径10.2cmを測る小型の椀である。口縁部が強く外反し、断面方形に近い形状の高台を貼り付ける。体部外面下半から底部にかけて回転ヘラ削りを施す。釉は口縁部外面に薄くハケ塗りするが、内面には厚く釉がかかることから、流し掛けしているようである。見込みにはトチノ目跡が残る。猿投産の黒帯14号窯式期のものと考えられる。

(2) 土製品(169・170、第31図、図版18)

輪羽口がある。169は先端部、170は先端に近い部分で、外面にはガラス状物質が接着する。

(3) 石製品(171～173、第31図、図版18)

荒砥(171)、中砥(173)、仕上砥(172)と考えられる。171は砂岩で、砥面4面のうち表裏の主砥面に反りがある。3面には刃物痕がみられる。172は3面を砥面とし、全ての面に反りがある。173は3面を砥面とする。表側の主砥面には反りがあり、上半の欠損部には刃物痕がある。

(4) 金属製品(174～177、第31図、図版18)

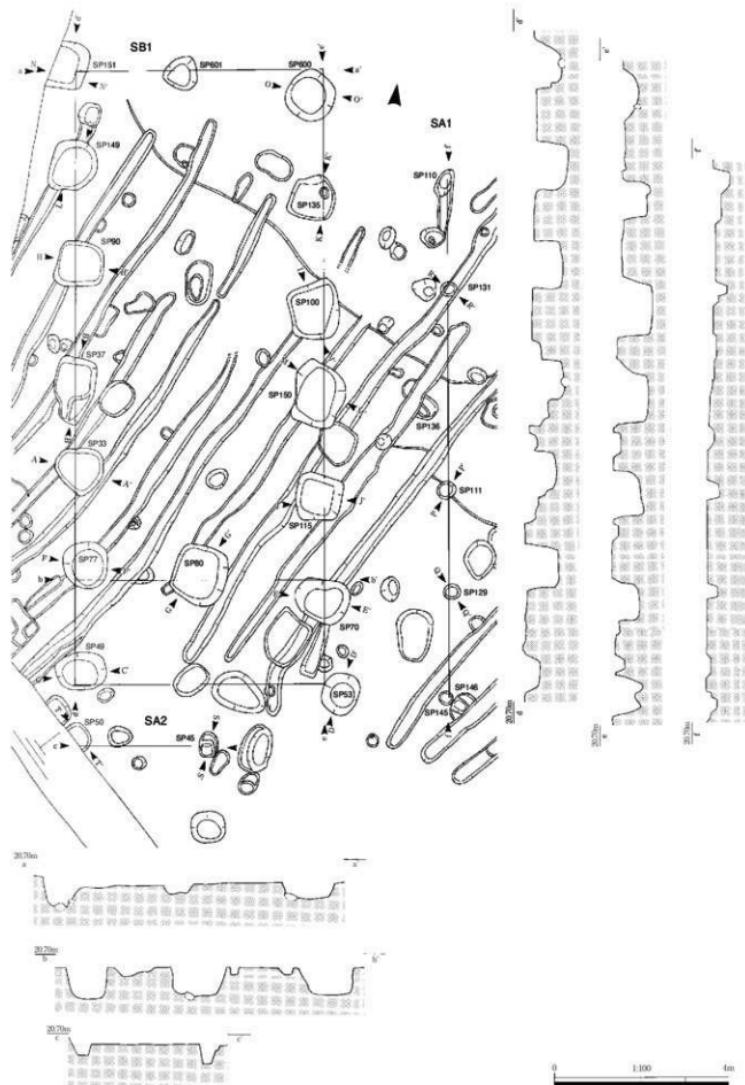
鉄釘(174・175)、鉄滓(176・177)がある。鉄釘はいずれも上下端欠損する。先端に近い部位であるため、断面形は長方形である。



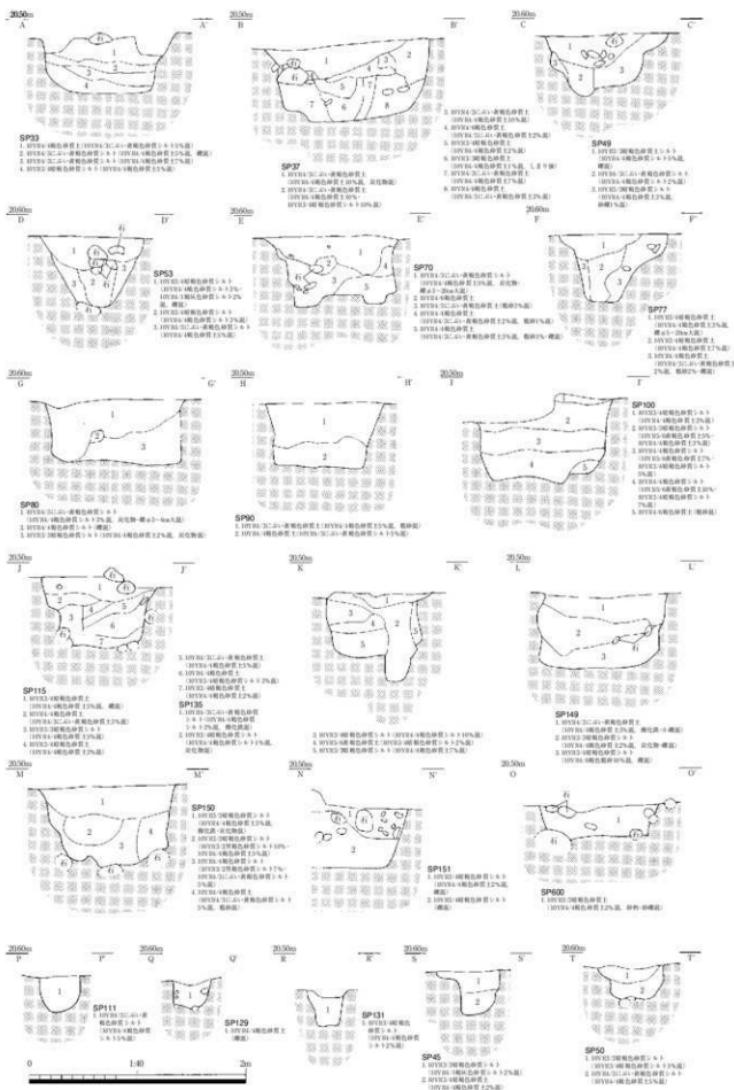
第6図 遺構全体図
西半部

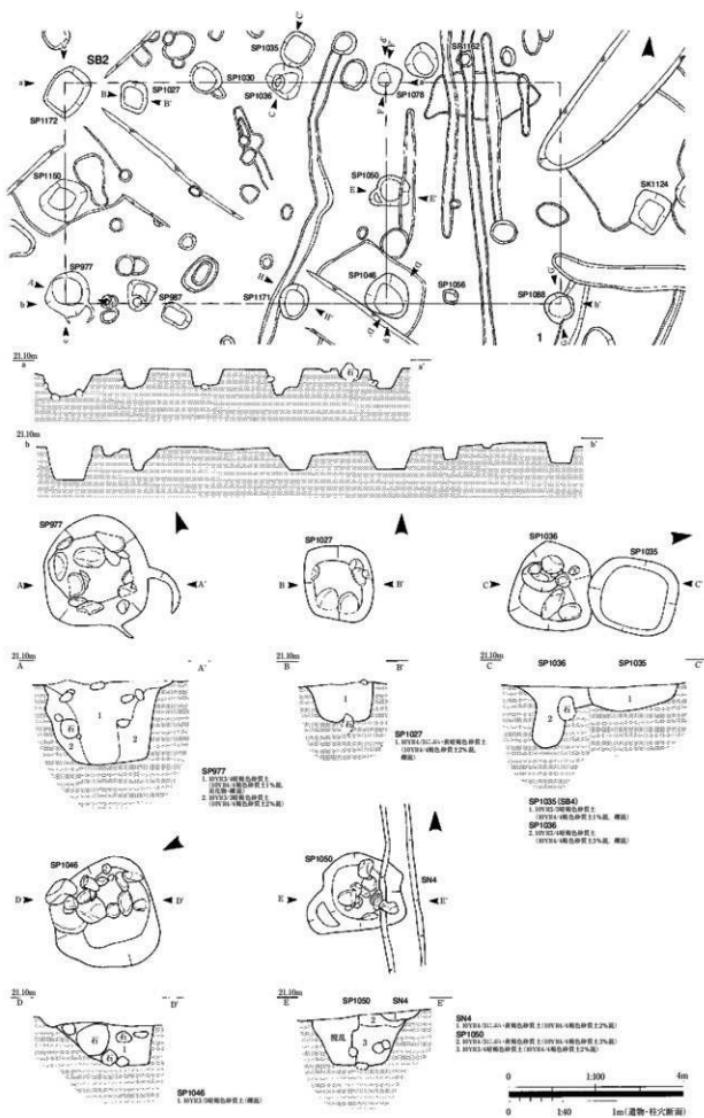


第7図 遺構全体図
東半部

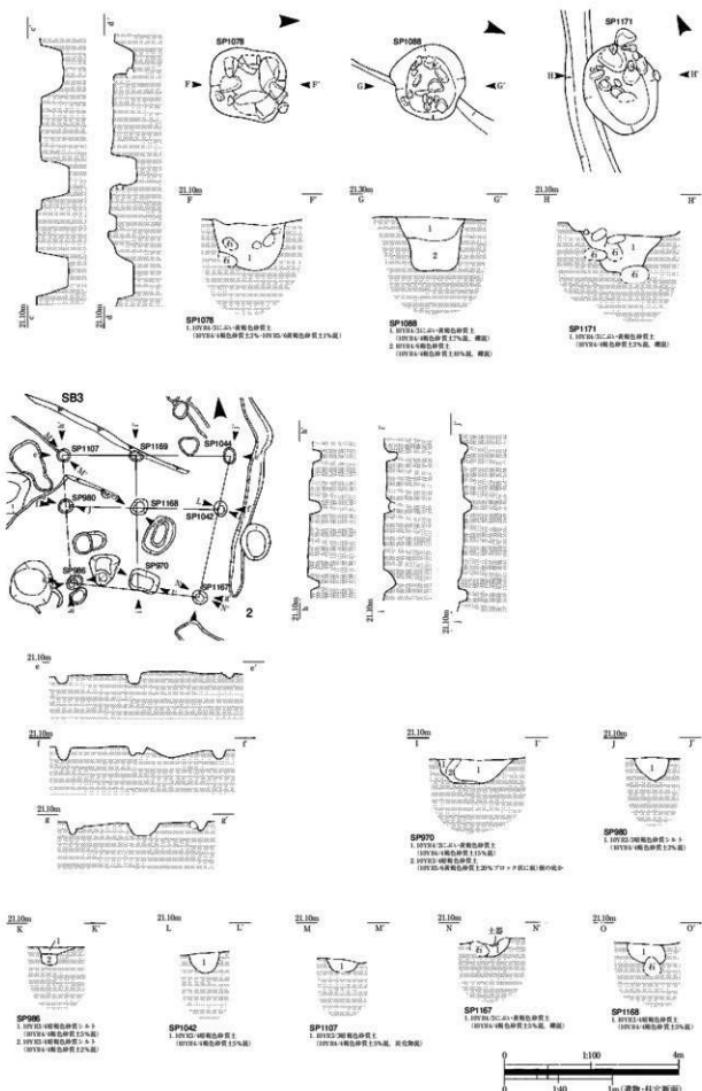


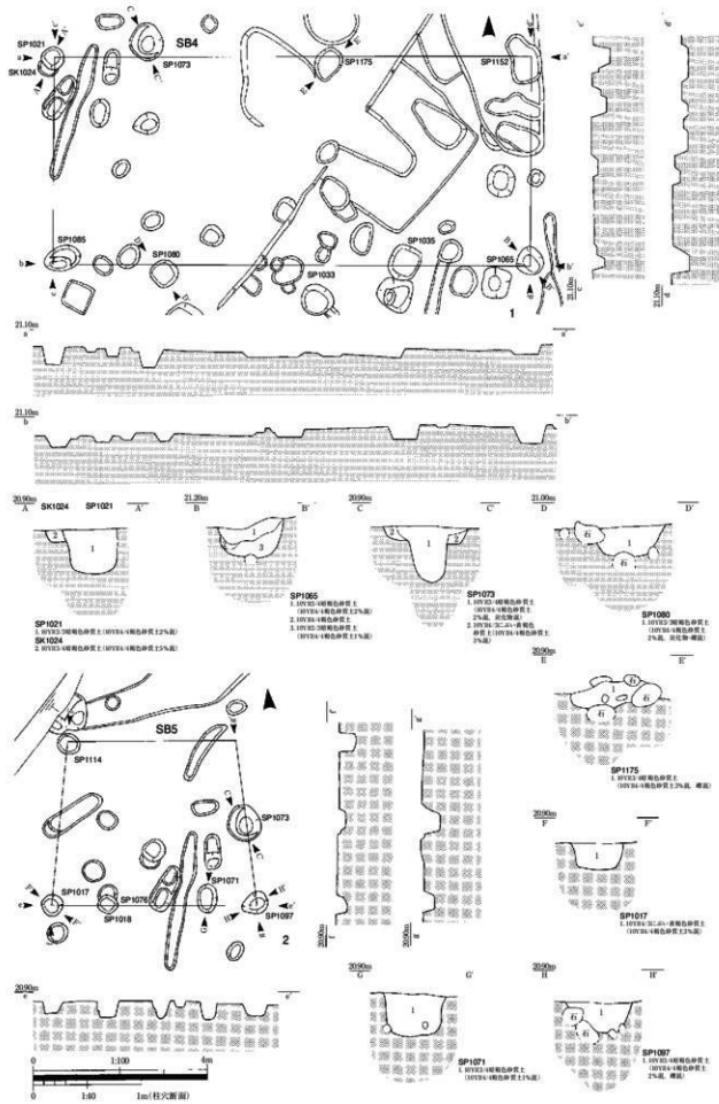
第8図 古代遺構実測図
SB1 SA1 SA2



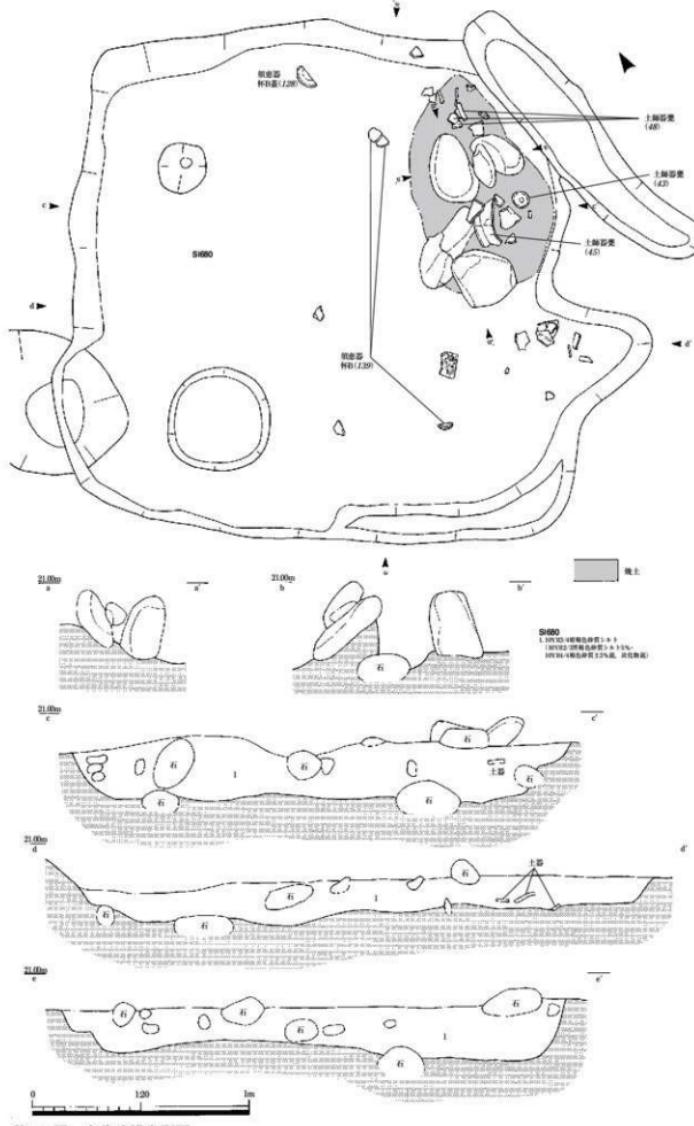


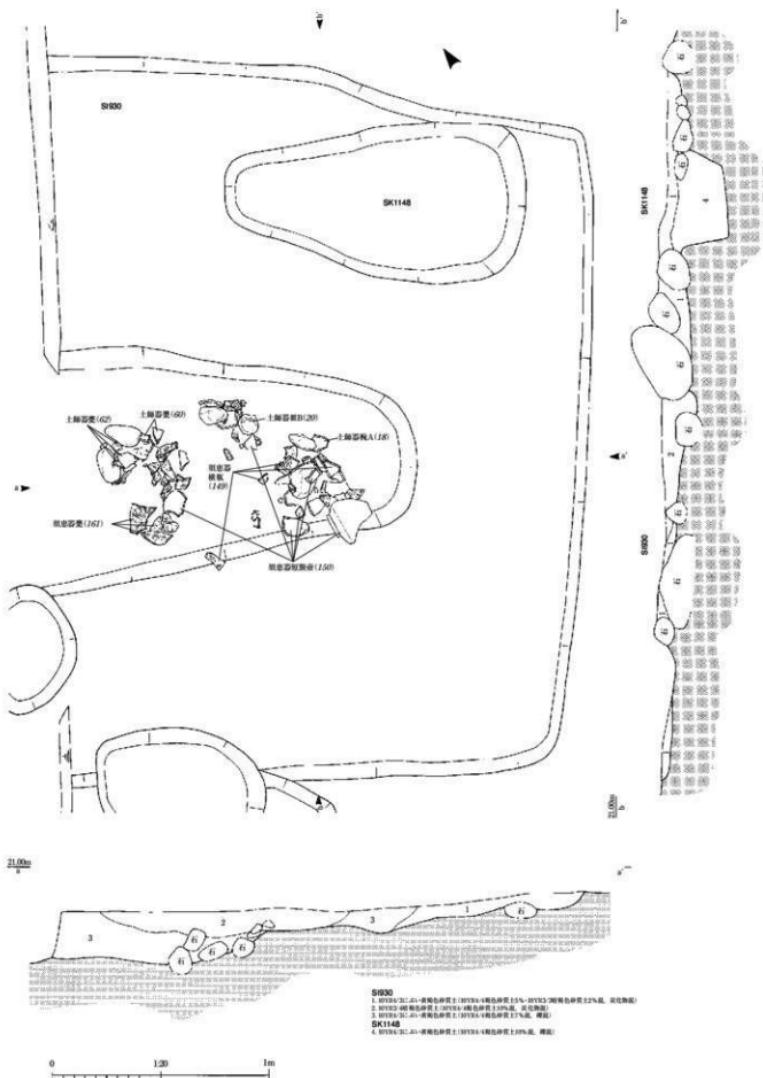
第9図 古代遺構実測図
1.SB2 2.SB3



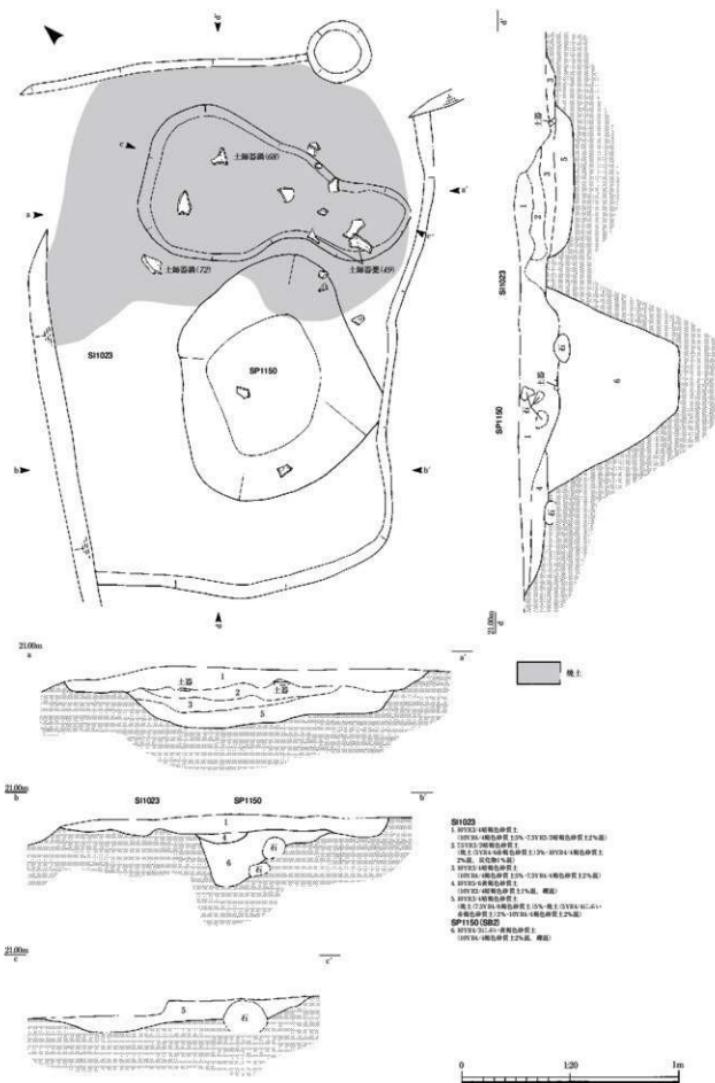


第10図 古代遺構実測図
1. SB4 2. SB5

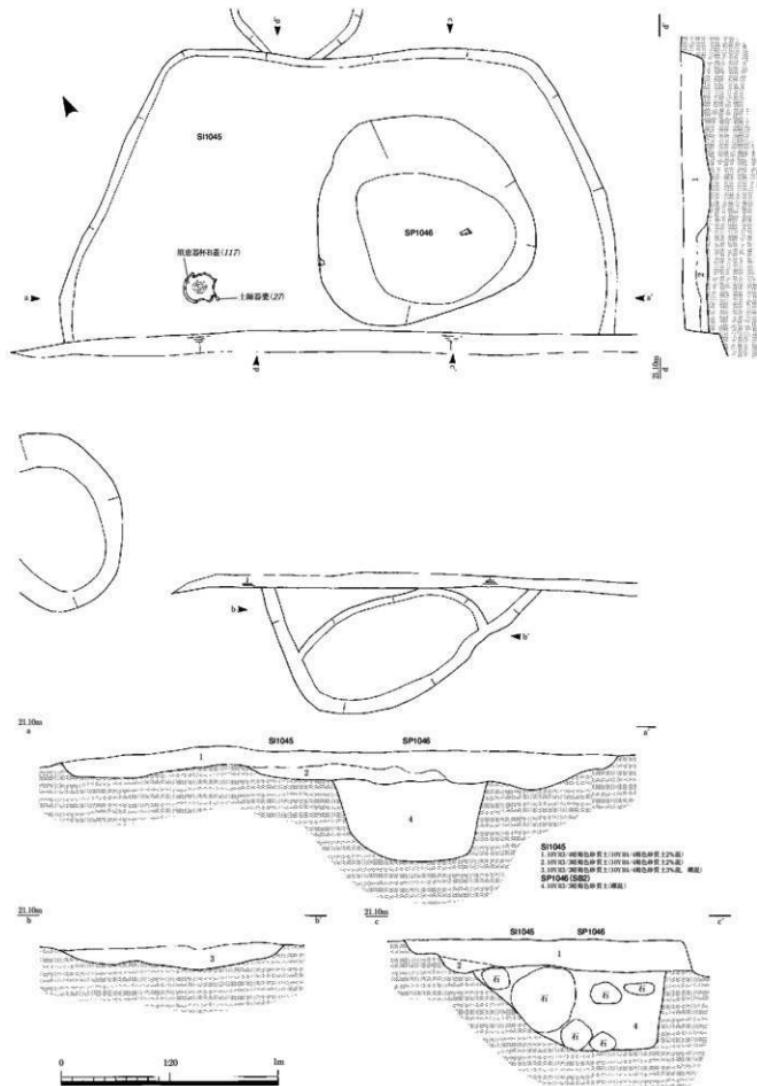
第11図 古代遺構実測図
S1680



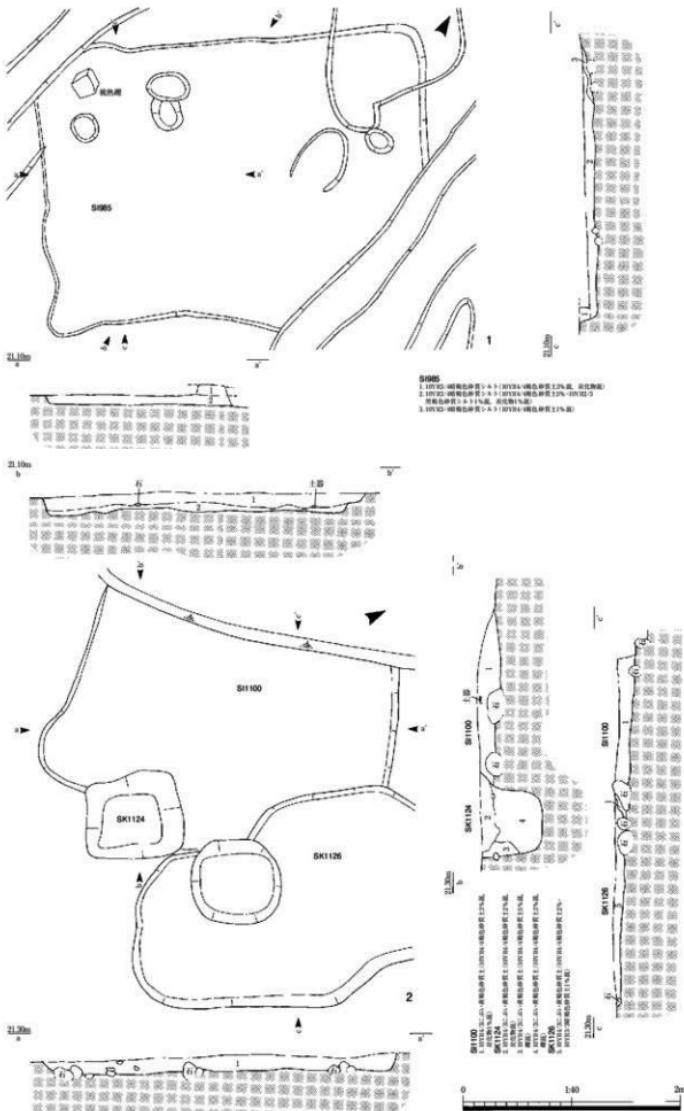
第 12 図 古代造構実測図
SK930 SK1148



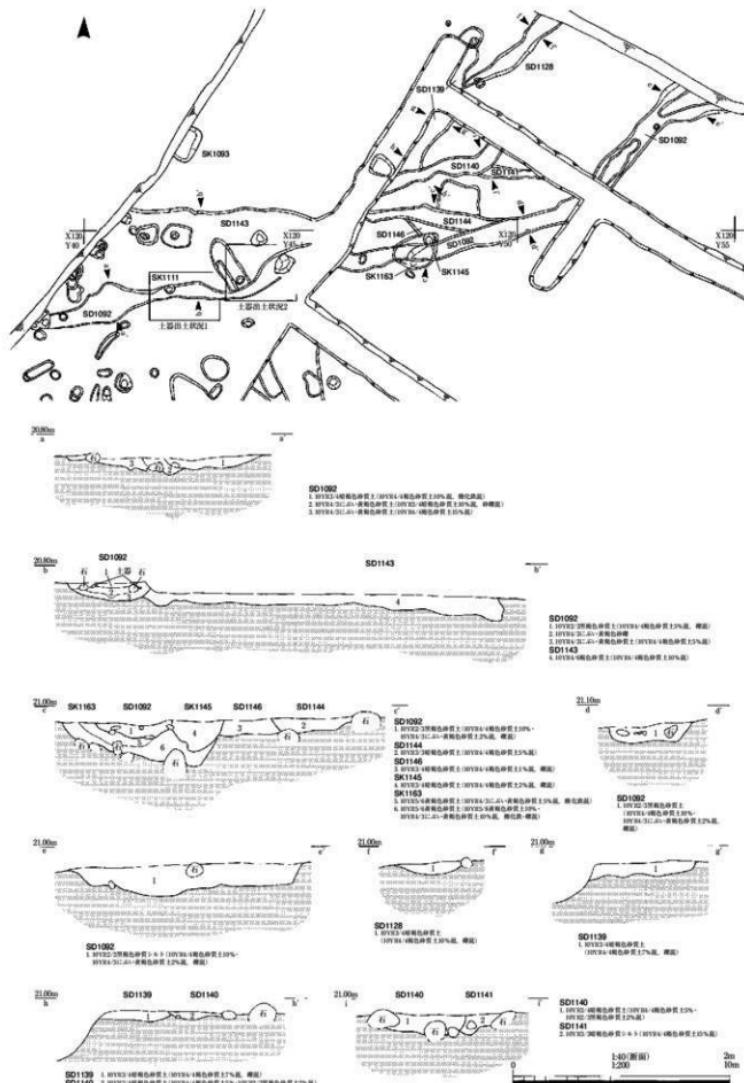
第13図 古代遺構実測図
SI1023 SP1150(SB2)



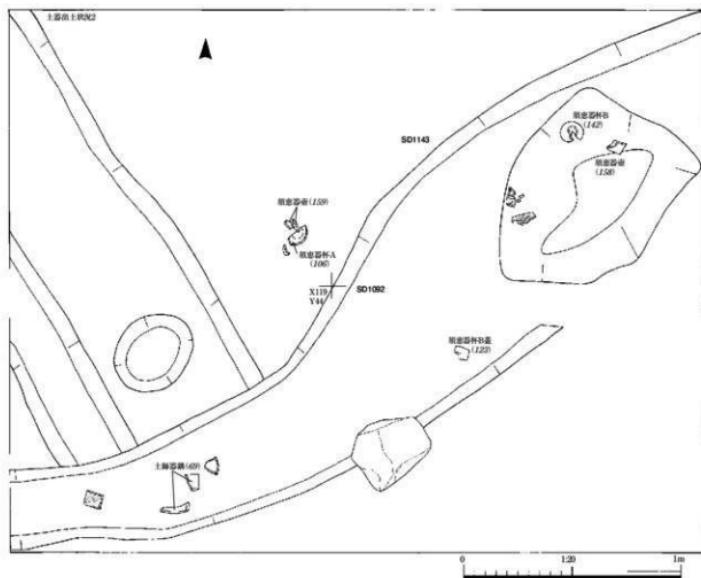
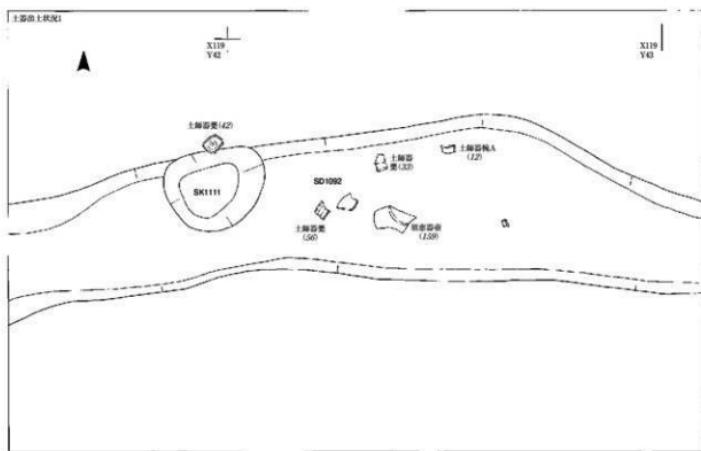
第14図 古代遺構実測図
SH1045 SP1046(SB2)



第15図 古代遺構実測図
1. SK985 2. SK1100・SK1124・SK1126



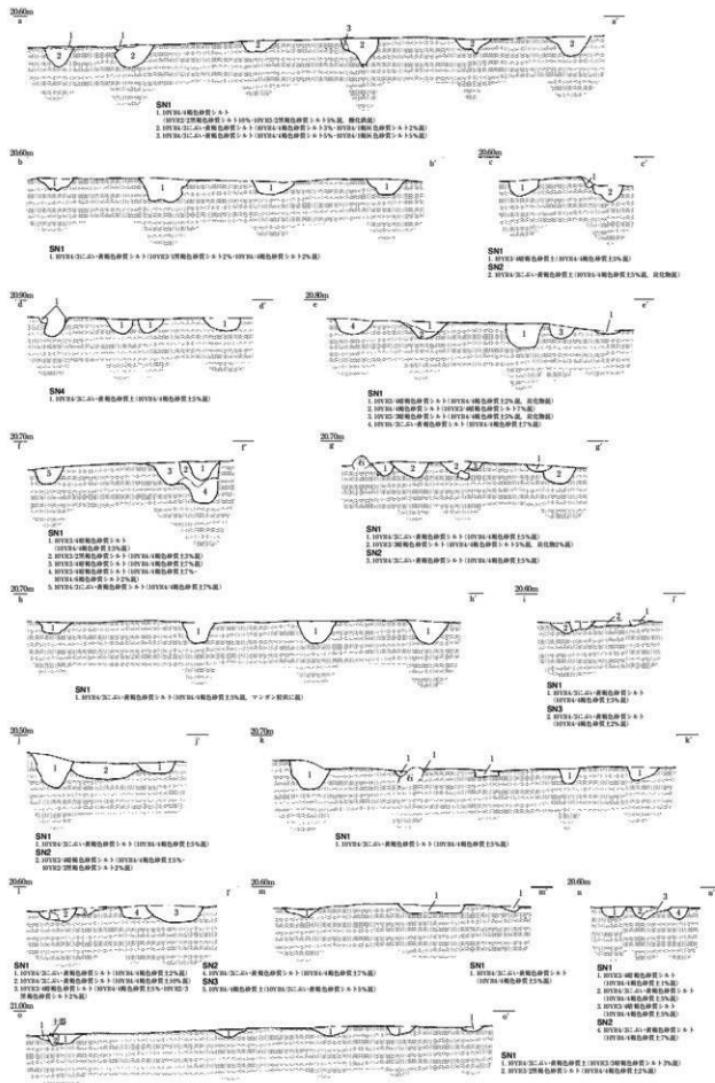
第16回 古代遺構実測図
SD1092 SD1128 SD1139 SD1140 SD1141 SD1143 SD1144 SD1146 SK1111 SK1145 SK1163



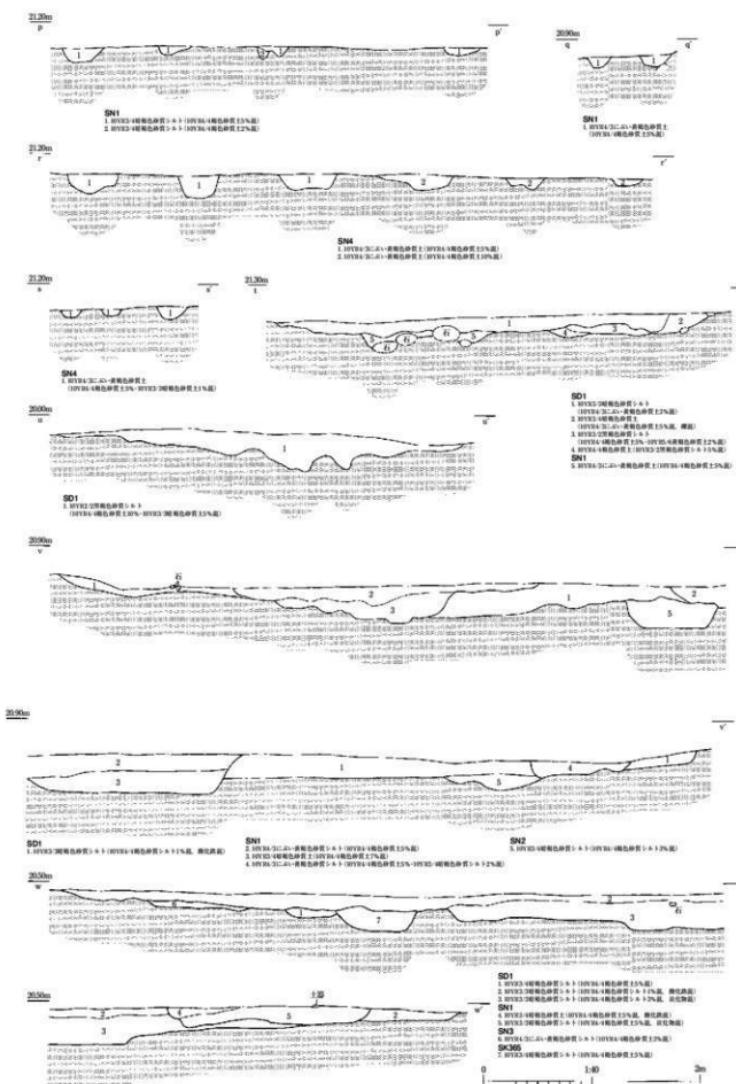


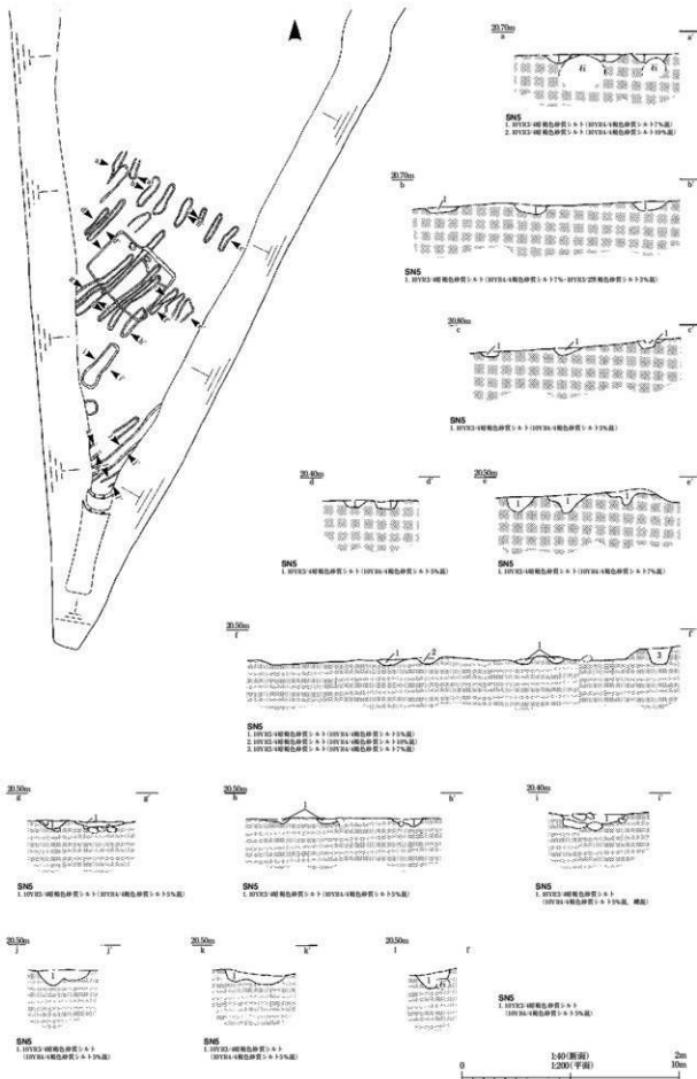
第17図 古代遺構実測図
SD1・SN1・SN2・SN3・SN4



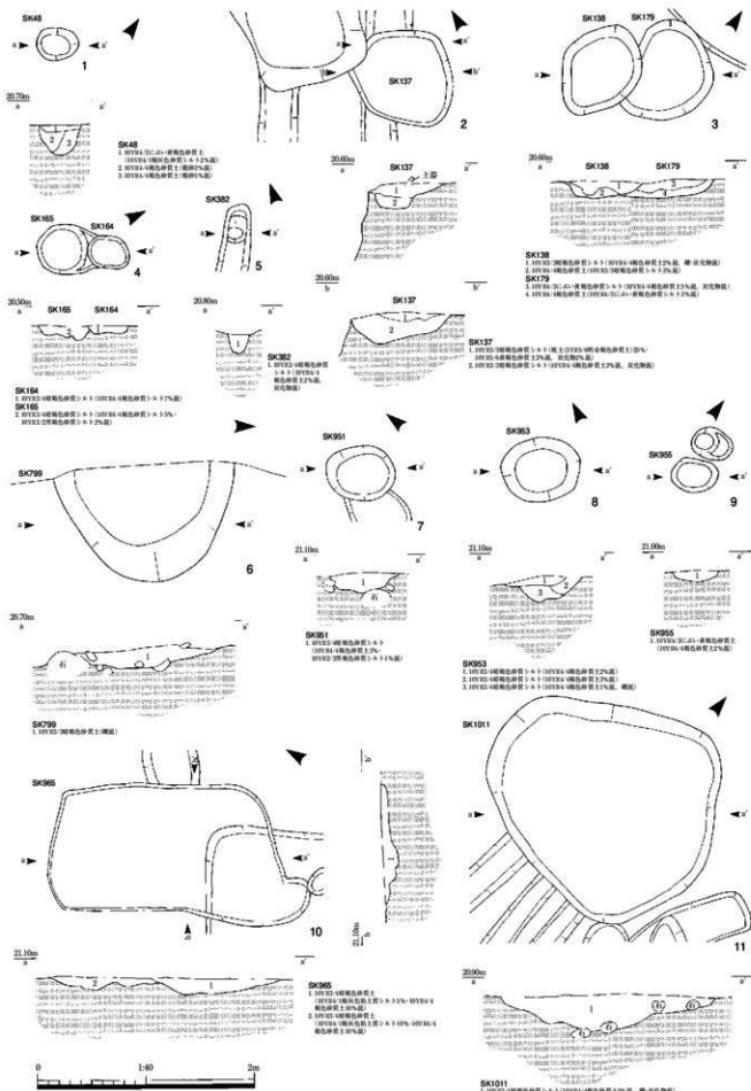


第18図 古代遺構実測図
SD1 SN1 SN2 SN3 SN4



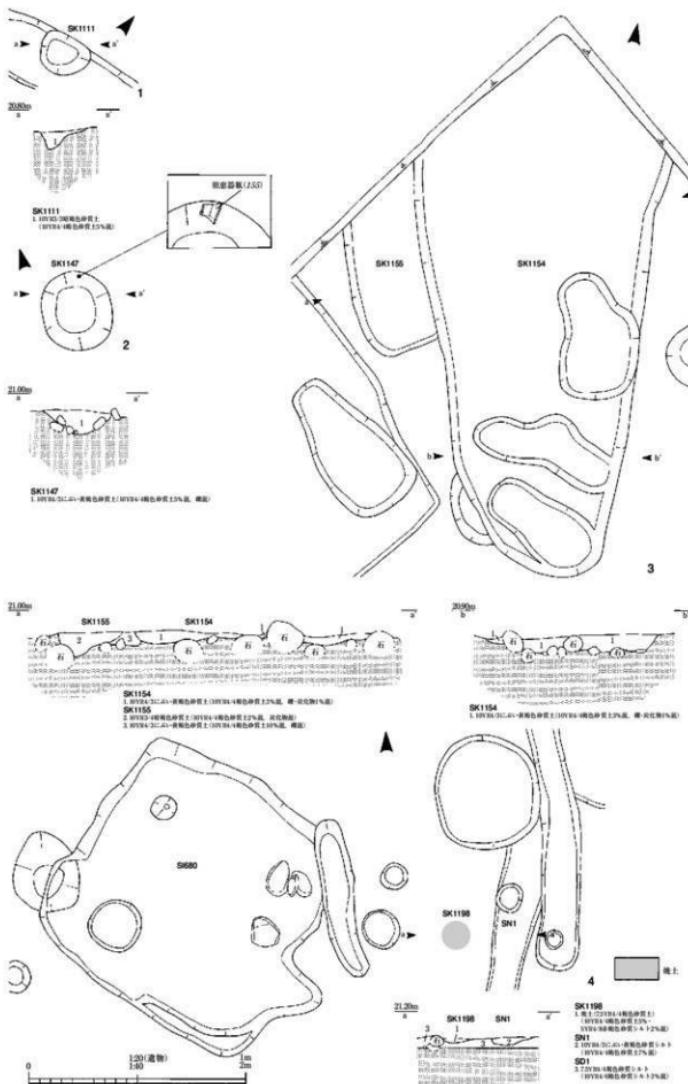


第19図 古代遺構実測図
SNS

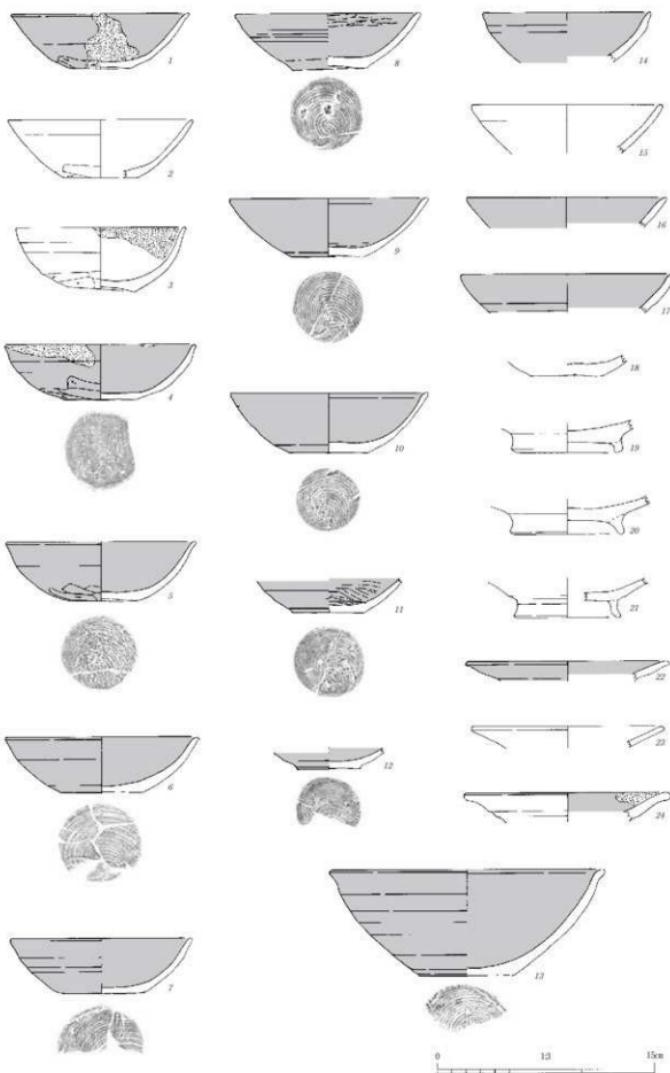


第20図 古代遺構実測図

1. SK48 2. SK137 3. SK138 · SK179 4. SK164 · SK165 5. SK382 6. SK799 7. SK951 8. SK953 9. SK955
10. SK956 11. SK1011



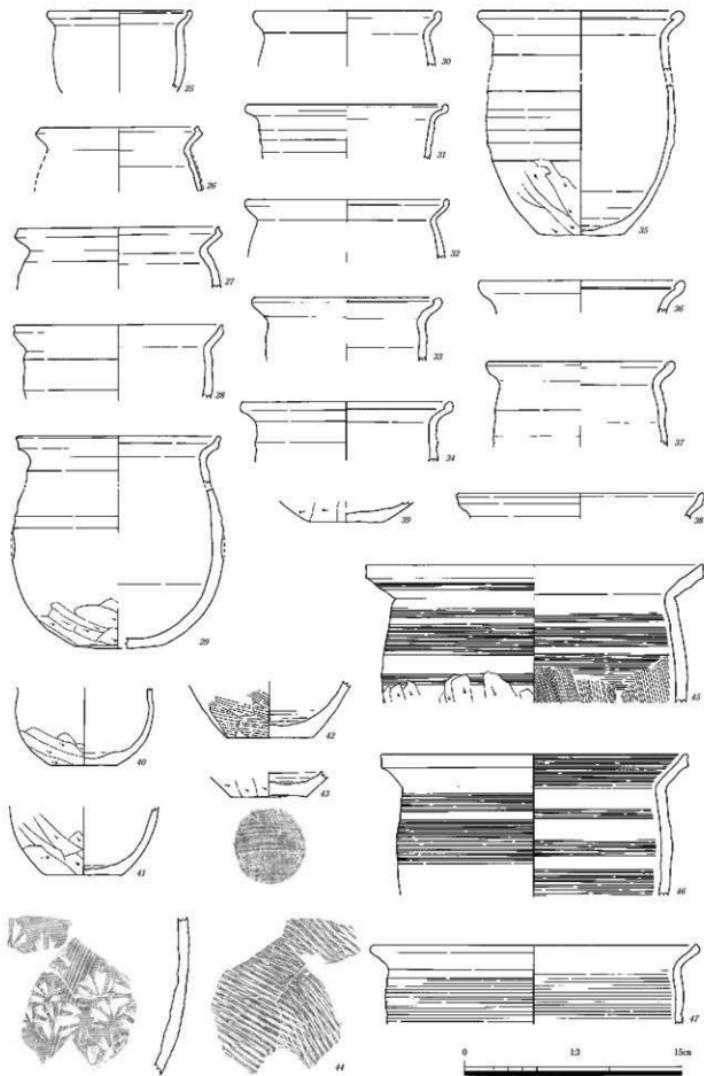
第21図 古代遺構実測図
1.SK1111 2.SK1147 3.SK1154・SK1155 4.SK1198



第22図 古代遺物実測図 (1/3)

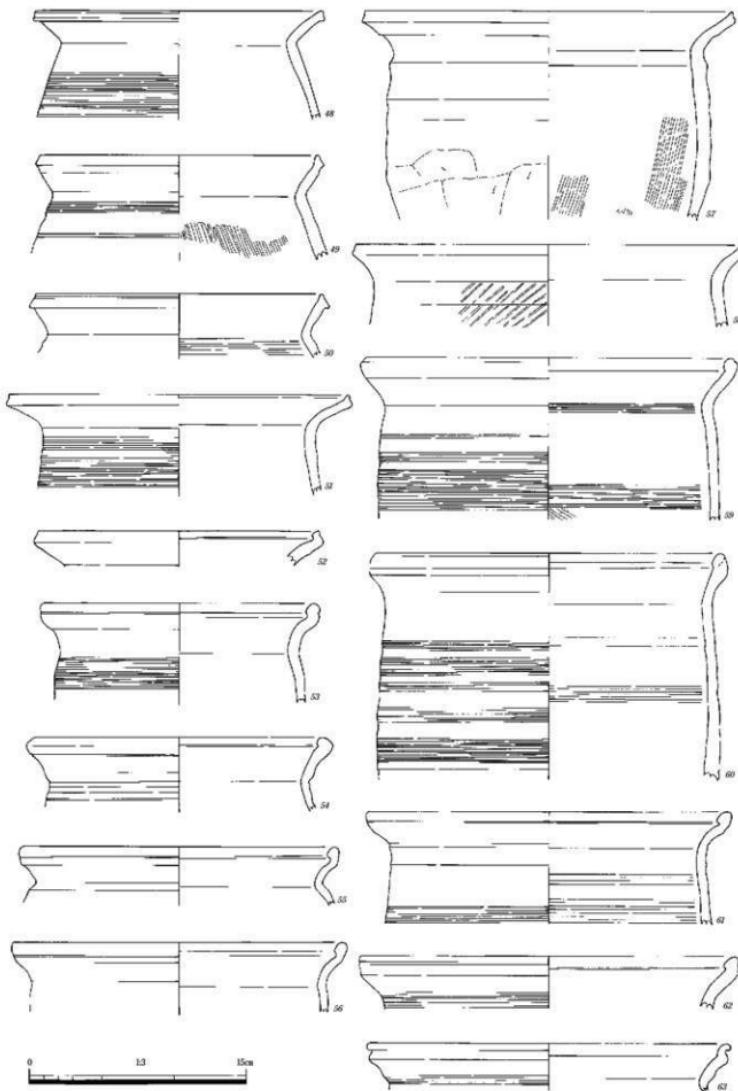
SB1 SP100(16) SB4 · SB5 SP1073(17) SI930(18 · 20) SD1092(1 · 3 · 11 · 12 · 22)

SD1092 · SD1143(8 · 14 · 15 · 21) SD1092 · SD1143 · SK1111(9) SK179(5) SK953(23) 包含層



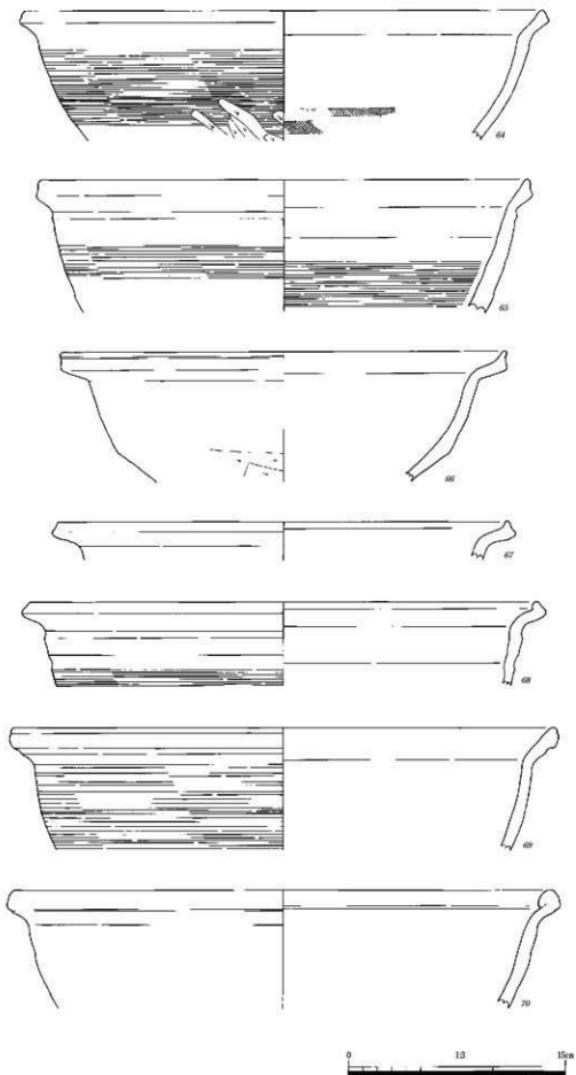
第23図 古代遺物実測図 (1/3)

SB1 SP80(34) SB5 SP1097(38) SI680(43・45) SI930(31) SI985(32) SI1045(27) SI1100(26) SN1(29)
SD1092(33) SD1092・SD1143(39・44) SK48(37) SK138(36) SK951(35) SK1111(42) 包含層

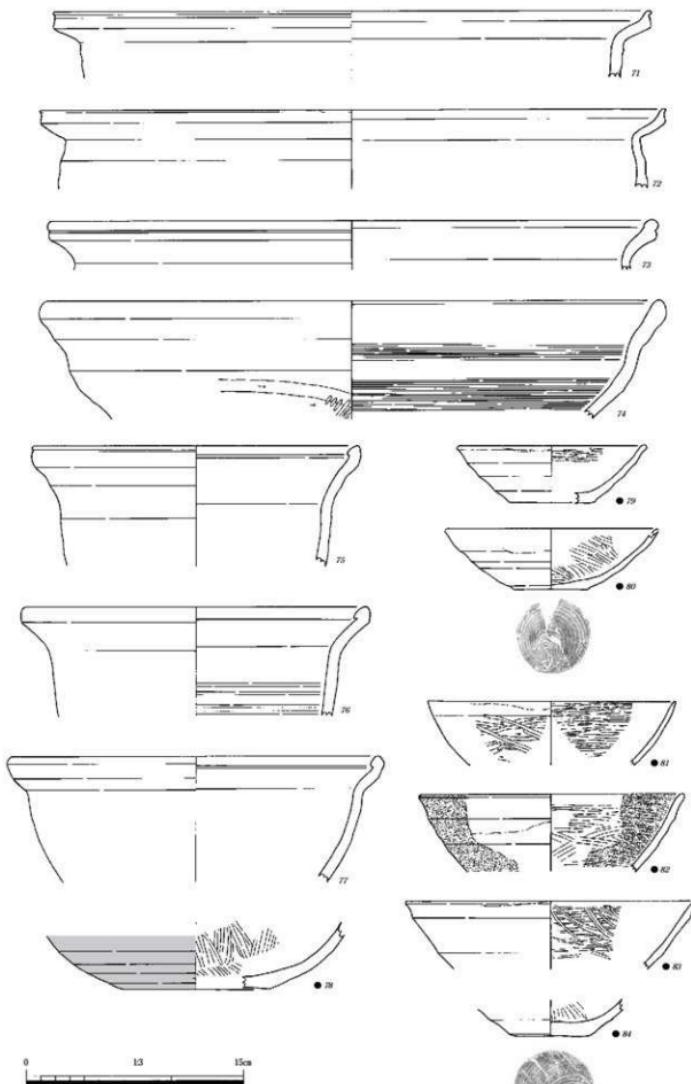


第24図 古代遺物実測図 (1/3)

SB1 SF90 · SP149(61) SB4 · SB5 SP1073(63) SI680(48) SI930(60 · 62) SI985(50) SI1023(49)
SN1(52) SD1092(55 · 56) SK137(59) 包含層

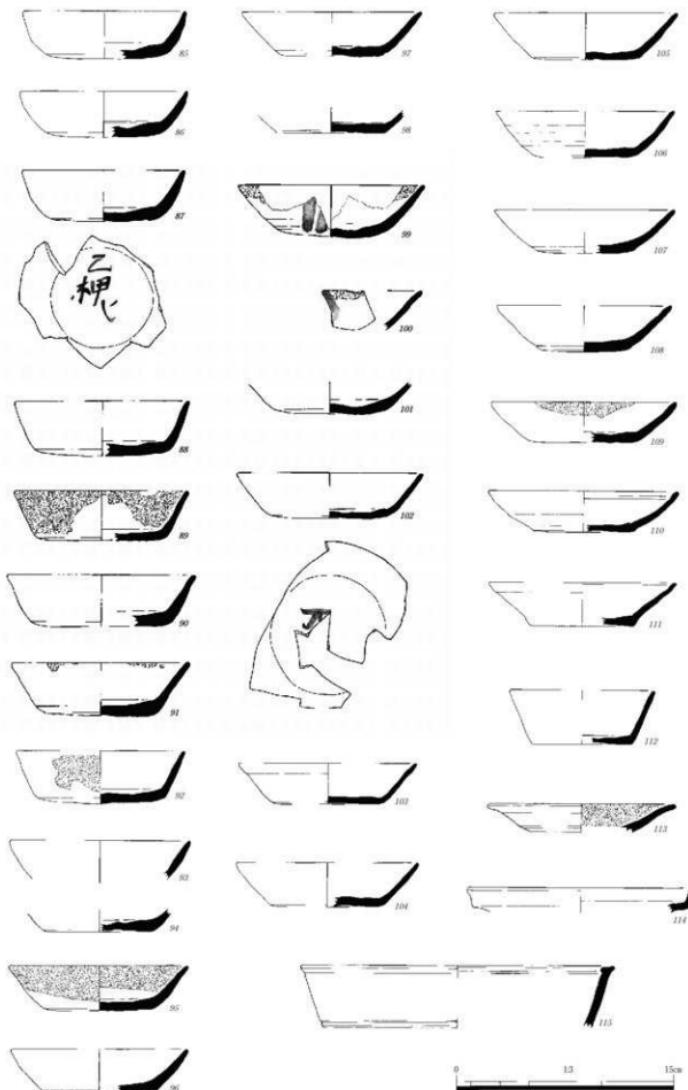


第25図 古代遺物実測図 (1/3)
SI1023(68) SD1092(69) SK1126(64) 包含層



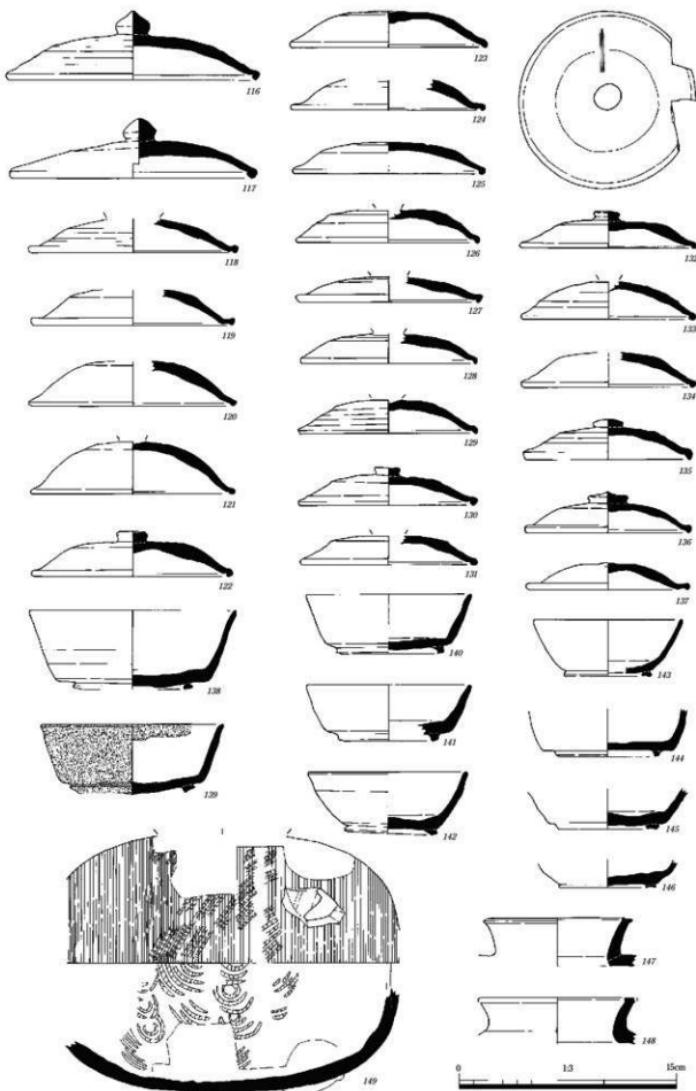
第26図 古代遺物実測図 (1/3)

SB1 SP151(81) SB2 SP1150(71) SB4 · SB5 SP1073(73) SI930(76) SI1023(72) SD1092(79)
SD1092 · SD1143(80) SD1143(84) 包含層



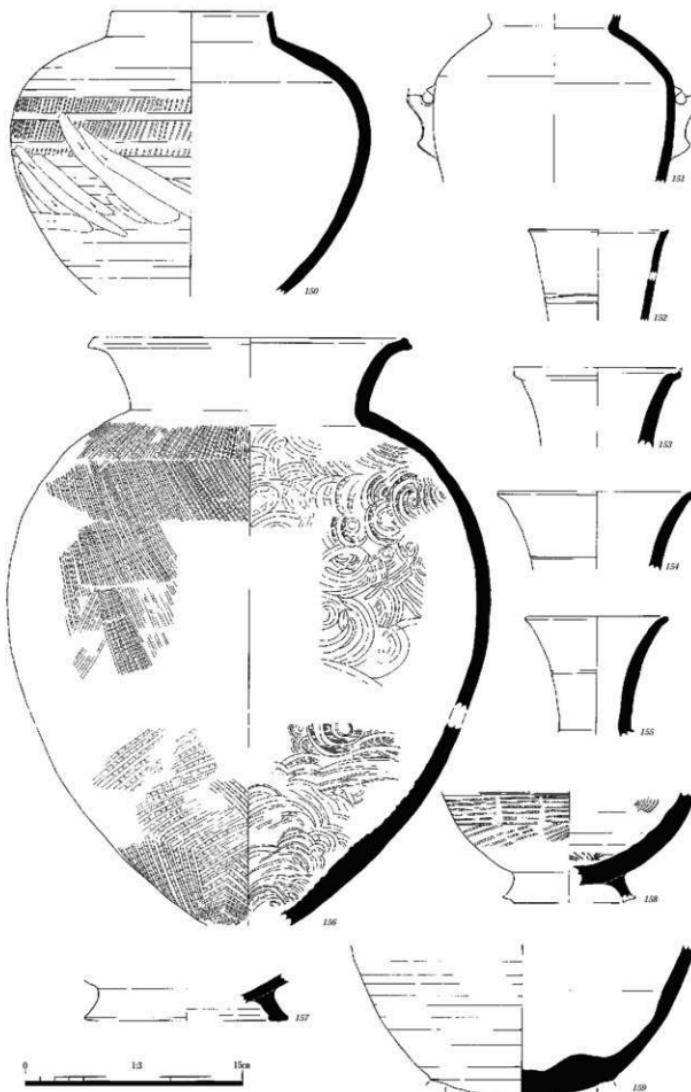
第27図 古代遺物実測図 (1/3)

SB1・SP90(101) SB1・SP601(94) SI680(23) SI930・SN4(89) SI985(92) SD1・SN1・SK179(95)
SD1092(99・100・104) SD1092・SD1143(102) SD1143(106・107・112) SK137(105) SK138(98)
SK382(90) SK953(113) SK955(88) 包含層



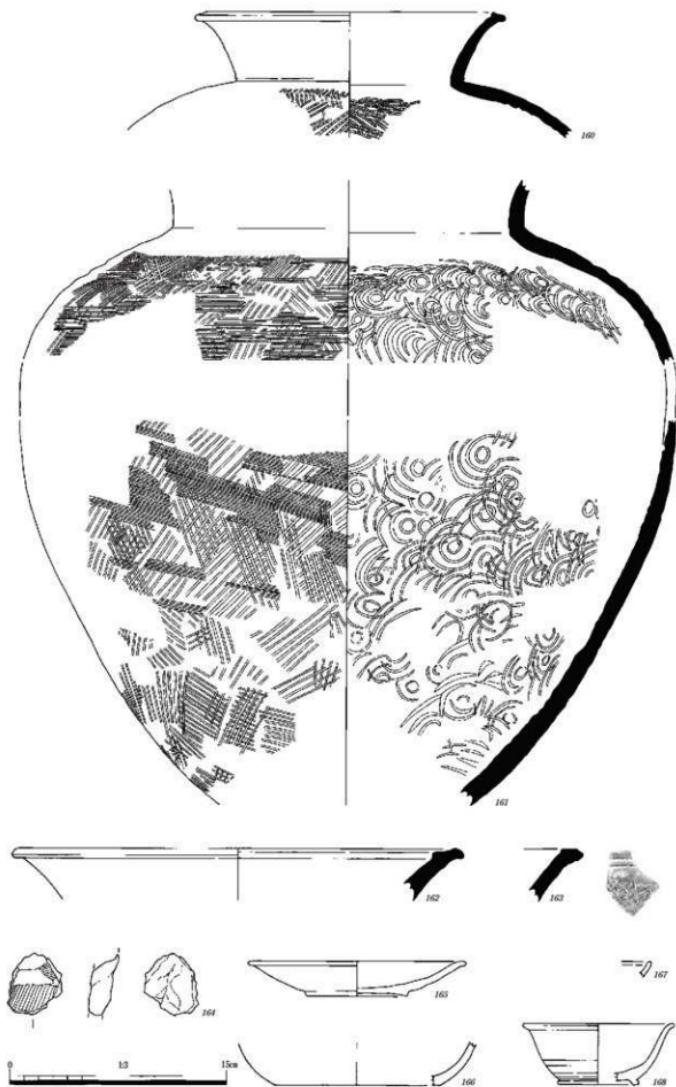
第28図 古代遺物実測図 (1/3)

SB1 SP49(145) SB680(127・128・139) SB930(149) SI1045(117) SD1092(123・142) SD1143(143・148)
SD1(129) SK165(146) SK179(135) SK495(124) 包含層

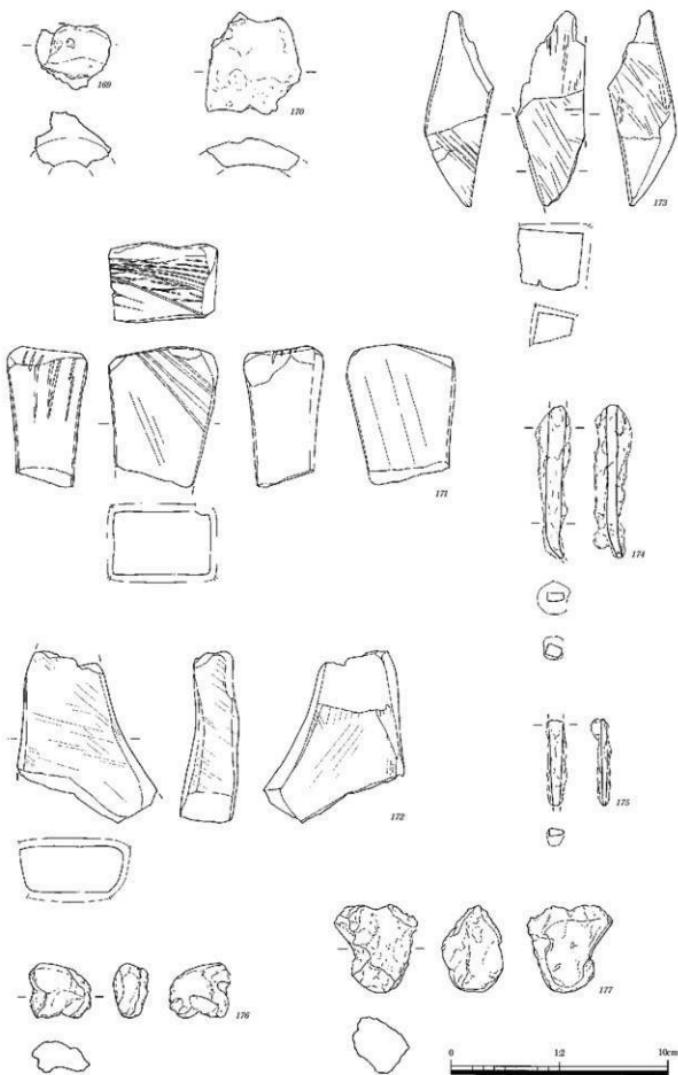


第29図 古代遺物実測図 (1/3)

SB4 SP1065(154) SI930(150・156) SD1092(158) SD1092・SD1143(159) SD1143(152) SK1147(155) 包含層



第30図 古代遺物実測図 (1/3)
SB4・SB5 SP1073(160) SI680(164) SI930(161) SN1(162) SK1154(167) 包含層



第31図 古代遺物実測図 (1/2)
SD1(170) SN1(171) SK137(176) 包含層

第IV章 中世の遺構・遺物

1 概 要

中世の遺構は、掘立柱建物9棟、土坑、柱穴があり、調査区中央部のⅡ b層上面で検出した。掘立柱建物は5間×4間、4間×4間、4間×2間、2間×2間等があり、総柱建物を中心とする。12世紀中頃～14世紀の遺物を伴うが、少量である。

2 遺 構

(1) 掘立柱建物

6号掘立柱建物 (S B 6, 第32図, 図版3)

調査区北西に位置する建物で、2間の柱列の並びを確認した。主軸はN-39°-Eである。南端の柱穴S P 1086は柱痕を2箇所確認しており、このうち北東側の柱痕を該当させた。北端の柱穴S P 1116はS B 7の柱穴S P 1117と新旧の切り合い関係にあり、S B 7→S B 6の変遷が考えられる。柱穴の規模は長さ0.56～1.08m、深さ28～68cmを測る。柱間距離は約2mである。柱穴の埋土は、S P 1086・1116が黒褐色砂質シルトか砂質土、S P 1113が暗褐色砂質土を基調とする。調査区の西壁土層において、いずれの柱穴も中世遺物包含層直下から切り込むことを確認しており、中世の建物と考えられる。出土遺物はS P 1086の土師器碗口縁部小片・壺口縁部・胴部片があるが、S B 7に伴うものであろう。

7号掘立柱建物 (S B 7, 第32図, 図版4)

調査区北西に位置する建物で、3間の柱列の並びを確認した。主軸はN-41°-Eである。南端の柱穴S P 1086は柱痕を2箇所確認しており、このうち南西側の柱痕をS B 7に該当させた。S P 1117はS B 6の柱穴S P 1116と切り合い関係にあり、S B 7はS B 6よりも古い段階の建物と考えられる。柱穴の規模は長さ0.54～1.08m、深さ21～68cmを測る。柱間距離は約2～2.5mを基本とする。柱穴の埋土は黒褐色・暗褐色・にぶい黄褐色の砂質土であり、南側ほど暗色の強い色調となっている。調査区の西壁土層において柱穴の切り込み面を確認したところ、南側の3基は中世遺物包含層直下から切り込むが、北側のS P 1137はSD 1143と重複しており判然としない。したがって、建物の時期が古代に遡る可能性も考えておきたい。出土遺物はS P 1086の土師器碗口縁部小片・壺口縁部・胴部片がある。

8号掘立柱建物 (S B 8, 第32図, 図版4)

調査区西端に位置する建物で、4間の柱列の並びを確認した。主軸はN-34°-Eである。柱穴の平面形は円形または方形で、規模は長さ40～56cm、深さ24～61cmを測る。柱間距離は約2～2.3mである。未調査範囲を挟んだ東側で数基の柱穴を検出しており、これらとあわせて建物を構成する可能性も考えられる。柱穴の埋土は黒褐色砂質シルトを基調とする。調査区西壁にかかるS P 795が中世遺物包含層直下から切り込むことを確認しているため、中世の建物と考えられる。出土遺物はない。

9号掘立柱建物（S B 9、第33図、図版3）

調査区中央東寄りに位置する5間×4間の東西棟総柱建物である。桁行12.20 m、梁行10.98 m、面積133.96m²である。主軸はN-88°-Wである。柱穴の平面形は円形で、規模は長さ20~64cm、深さ10~50cmを測る。柱間距離は桁行が約2.4 mであるが、梁行は中心が約3.1 m、南北が約2.4 mと幅がある。柱穴の埋土は黒褐色か暗褐色の砂質シルトを基調とする単層が多い。出土遺物はS P 493の土師器椀体部片、S P 620の中世土師器皿(I84)、S P 672の珠洲鉢(I96)、S P 698の土師器椀口縁部片、S P 705の珠洲鉢(I94)、S P 742の土師器甕胴部片、黒色土器椀口縁部~体部片がある。I84はND II類の皿で、12世紀後半~14世紀頃のものである。I94・I96はいずれもII期(13世紀第1・第2四半期)の鉢で、二次被熱する。遺物の様相から、12世紀後半を建築年代の上限とし、嘉曆年間(1326~1328年)の大洪水発生時かそれ以前まで存続した建物であると考えられる。

10号掘立柱建物（S B 10、第34図、図版3）

調査区中央東寄りに位置する4間×4間の東西棟総柱建物である。桁行10.84 m、梁行9.17~9.68 m、面積102.17m²である。主軸はN-85°-Eである。柱穴の平面形は円形で、規模は長さ24~72 cm、深さ11~60cmを測る。柱間距離は梁行が約2.4 mであるが、桁行は中心が約3.1 m、東側が約2.3 m、西側が約2.4 mと幅がある。柱穴の埋土は黒褐色か暗褐色の砂質シルトを基調とし、柱痕を残すものもみられる。出土遺物はS P 508の土師器甕胴部片、中世土師器皿(I86)、S P 525の土師器椀体部片、S P 723の須恵器甕胴部片、S P 750の土師器甕胴部片がある。I86はND II類の皿で、12世紀後半~14世紀頃のものである。S B 9と近い時期の建物であり、嘉曆年間(1326~1328年)の大洪水発生時かそれ以前までの存続が考えられる。

11号掘立柱建物（S B 11、第35図、図版3）

調査区中央に位置する4間×2間の東西棟総柱建物である。南に廂がつく。身舎の桁行8.42 m、梁行3.78 m、面積31.83m²であり、廂を含めた面積は39.57m²である。主軸はN-78°-Wである。柱穴の平面形は円形で、規模は長さ24~74cm、深さ9~48cmを測る。柱間距離は梁行が約1.9 mであるが、桁行は約1.9~2.5 mと幅がある。柱穴の埋土は黒褐色か暗褐色の砂質シルトを基調とする。出土遺物はS P 224・850の土師器甕胴部片、S P 510の土師器椀口縁部~体部小片があるが、混入であろう。

12号掘立柱建物（S B 12、第35図、図版3）

調査区中央東寄りに位置する2間×2間の南北棟総柱建物である。桁行5.02 m、梁行4.54 m、面積22.79m²である。主軸はN-5°-Eである。柱穴の平面形は円形で、規模は長さ26~40cm、深さ12~43cmを測る。柱間距離は桁行約2.4~2.6 m、梁行約2.2~2.3 mと一定ではない。柱穴の埋土は黒褐色か暗褐色の砂質シルトを基調とする。出土遺物はない。

13号掘立柱建物（S B 13、第36図、図版3）

調査区中央東寄りに位置する2間×2間の東西棟総柱建物である。桁行5.49 m、梁行5.04 m、面積27.67m²である。主軸はN-89°-Wである。柱穴の平面形は円形で、規模は長さ28~54cm、深さ15~53cmを測る。柱間距離は桁行約2.5~2.9 m、梁行約2.3~2.7 mと一定ではない。柱穴の埋土は黒褐色か暗褐色の砂質シルトを基調とし、柱痕を残すものもみられる。出土遺物はS P 518の土師器椀体部片があるが、混入であろう。

14号掘立柱建物（S B 14、第36図、図版3）

調査区中央に位置する2間×2間の南北棟総柱建物である。桁行4.68 m、梁行4.34 m、面積

20.31m²である。主軸はN-4°-Eである。柱穴の平面形は円形で、規模は長さ18~74cmを測る。深さは7~27cmを測り、浅いものが多い。柱間距離は桁行約2.3m、梁行約2.1~2.2mである。柱穴の埋土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物はS P 853の土師器輪口縁部小片、S P 854の土師器壺胴部片があるが、混入であろう。

(2) 土 坑

430号土坑 (SK 430、第37図、図版7)

調査区中央南東寄りに位置する。平面形は楕円形で、長さ1.92m、幅1.20m、深さ23cmを測る。北側が試掘トレンチと重複しており、重複範囲の土坑内部が擾乱土で埋め戻されていたため、擾乱を受けていない南寄りの長軸に土層観察用の畦を設定した。埋土上層は暗褐色砂質シルト、下層は黒褐色砂質土を基調とする。出土遺物はない。

495号土坑 (SK 495、第37図)

調査区中央東寄り、掘立柱建物S B 9・10の範囲内に位置する。平面形は楕円形で、長さ2.20m、幅1.64m、深さ61cmを測る。埋土上層は黒褐色砂質シルト、中層一下層は暗褐色砂質土や黒褐色砂質シルトを基調とする土が自然堆積する。上層は掘方が東西方向に大きく崩れており、畠の跡溝を切りこむ。出土遺物は須恵器杯B蓋(I24)、珠洲片口鉢(I98)がある。I98はⅡ期(13世紀第1・第2四半期)の製品と考えられる。

517号土坑 (SK 517、第37図)

調査区中央、掘立柱建物S B 10・11・13の範囲内に位置する。平面形は円形で、直径40~44cm、深さ28cmを測る。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は中世土師器皿(I80)がある。I80はN C I類の皿で、13~14世紀のものである。

662号土坑 (SK 662、第37図、図版7)

調査区中央、掘立柱建物S B 10・13の範囲内に位置する。平面形は円形で、直径1.36~1.46m、深さ25cmを測る。埋土上層は焼土や炭化物混じりの黒褐色砂質シルト、下層は褐色砂質土やぶい黄褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物はない。

673号土坑 (SK 673、第37図)

調査区中央、掘立柱建物S B 9・10・13の範囲内に位置する。土坑SK 662の北東に位置し、畠の跡溝を切る。平面形は円形で、直径21~25cm、深さ29cmを測る。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は中世土師器皿(I85)がある。I85はN D II類の皿で、12世紀後半~14世紀頃のものである。

708号土坑 (SK 708、第37図、図版7)

調査区中央東端に位置し、畠の跡溝を切る。平面形は円形で、直径1.10~1.40m、深さ28cmを測る。埋土上層は黒褐色砂質シルト、下層は暗褐色砂質土を基調とする。出土遺物はない。

932号土坑 (SK 932、第37図、図版7)

調査区中央北西寄りに位置する。南西角が表土からの擾乱を受けて失われている。平面形は方形で、長さ1.56m、幅1.32m、深さ29cmを測る。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は古代土師器の椀や甌があるが、混入であろう。

1093号土坑 (SK 1093、第37図)

調査区北西端に位置する。北西側が調査区外に延びるが、平面形は方形に近い形と思われる。長さ

1.64 m、幅77cm、深さ38cmを測る。埋土上層は黒褐色砂質シルト、下層は暗褐色砂質土を基調とする。出土遺物は古代土師器の椀や壺があるが、混入であろう。

3 遺 物

中世土師器 (178～191、第38図、図版11・17)

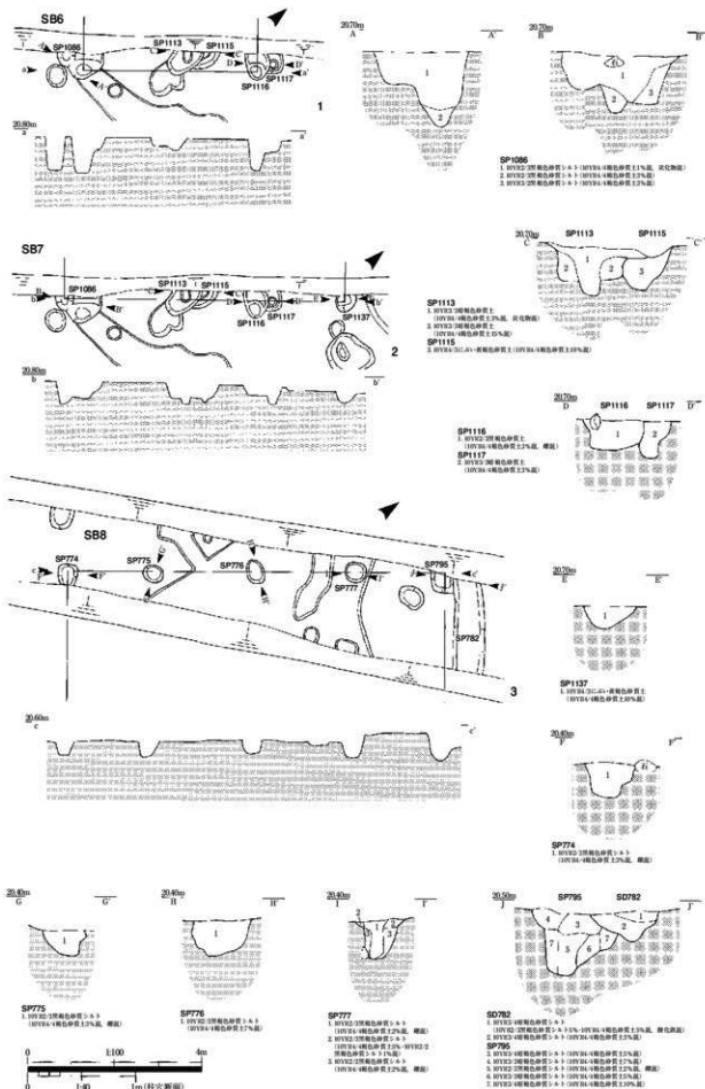
口径約13～14cmのもの (178～181) と、口径7～11cmのもの (182～191) に分けられる。178・179は口縁部に二段ナデを施し、口径約14cmを測る大型の皿である。越前編年のNB I類にあたる12世紀末～13世紀前半のものである。180・181は口縁部に一段ナデを施し、口径12.6～13.0cmを測る大型の皿である。NC I類に分類される、13～14世紀のものである。182～191は口縁部に一段ナデを施し、口径7.4～10.8cmを測る小型の皿で、ND II類に分類される。182～184は口縁部を摘み上げたり稜をもつが、端部のナデが弱いためND II類に含めた。12世紀後半～14世紀頭のものと考えられる。

中国製青磁 (192、第38図、図版17)

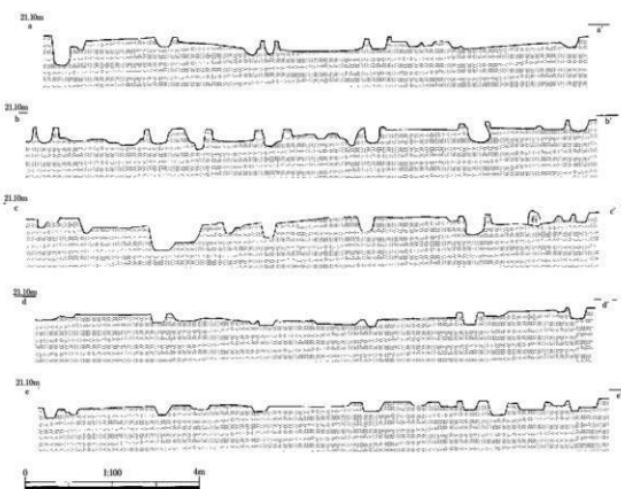
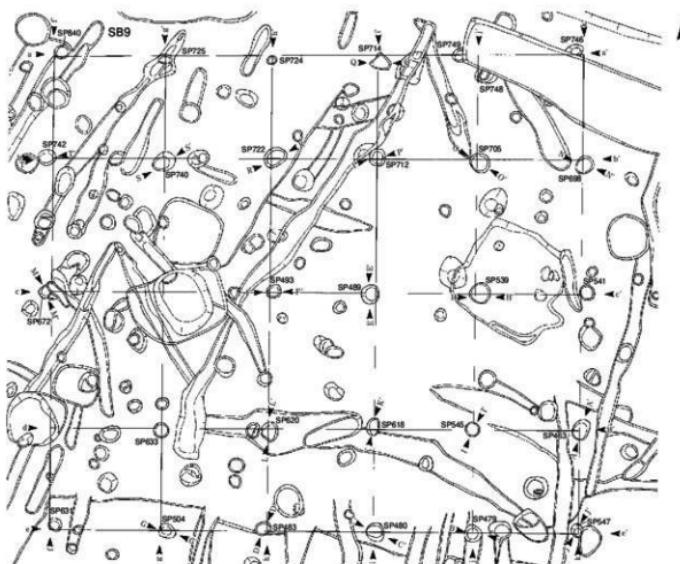
口縁部は直線的のび、僅かに外反する。口縁部内面には分割線と考えられる3条の横線と文様を片彫りする。大宰府編年で龍泉窯系青磁椀I～4類に分類される、12世紀中頃～後半の製品である。中国製青磁は、192のはかに、龍泉窯系青磁椀II～b類の体部片 (13世紀初頭前後～前半) が1点遺物包含層から出土している。

珠 洗 (193～201、第38図、図版18)

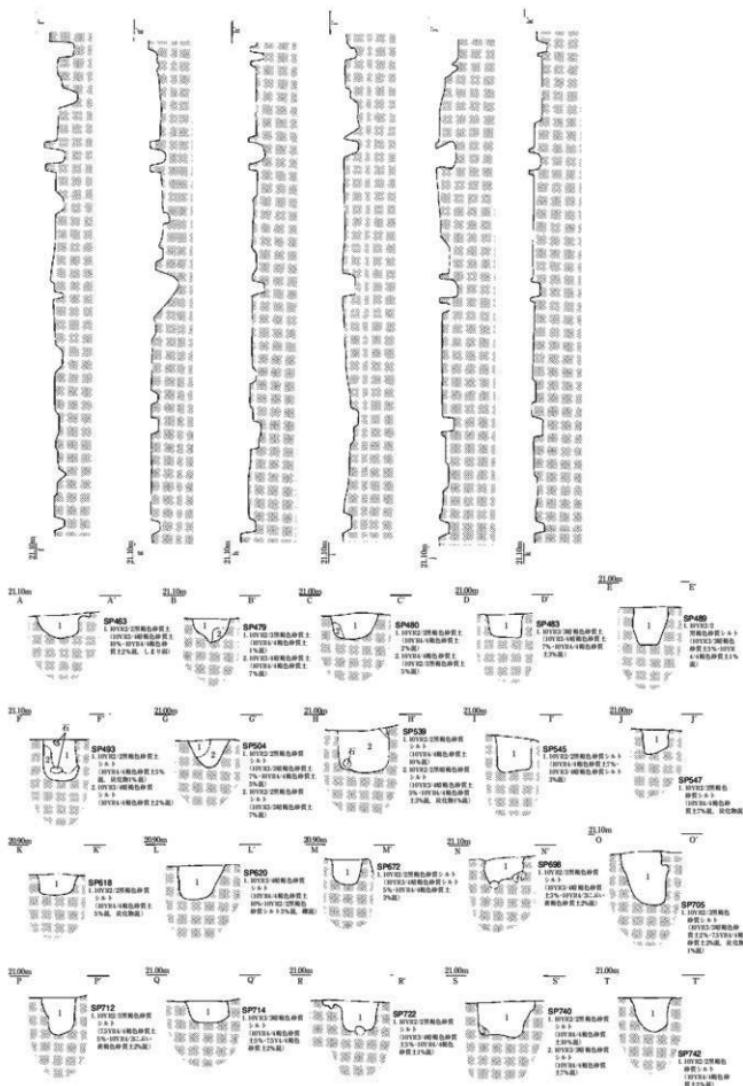
鉢 (193～199)、壺 (200)、壺 (201) がある。吉岡編年のII期 (13世紀第1・第2四半期) にあたる製品を中心とし、200のみI期 (12世紀中葉前後～13世紀初頭) に遡ると考えられる。193は口径17.6cmを測る小型の鉢で、内面に「ち」と読める刻書がある。194～196は内面に鉢目がない鉢である。口縁端部から内面が使用によって摩減しており、196は二次被熱のため表面が焼いている。197～199は鉢の口縁部小片で、内面に鉢目がある。198・199は片口近くの口縁部であるため、器形にゆがみがある。200は口縁端部を長く引き出す壺で、細密な叩きを施す。201は頭部がくの字状に外反する壺である。

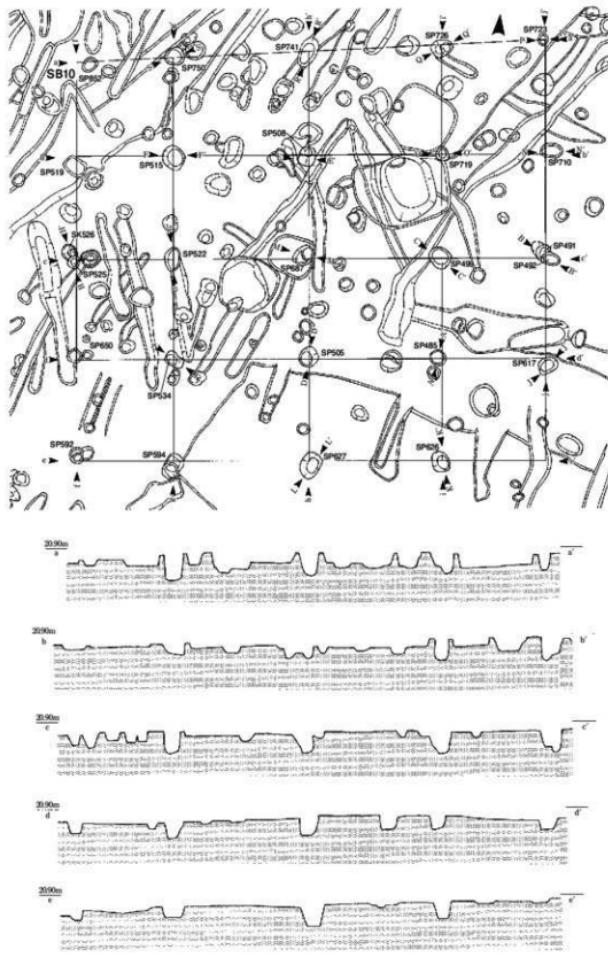


第32図 中世遺構実測図
1. SB6 2. SB7 3. SB8

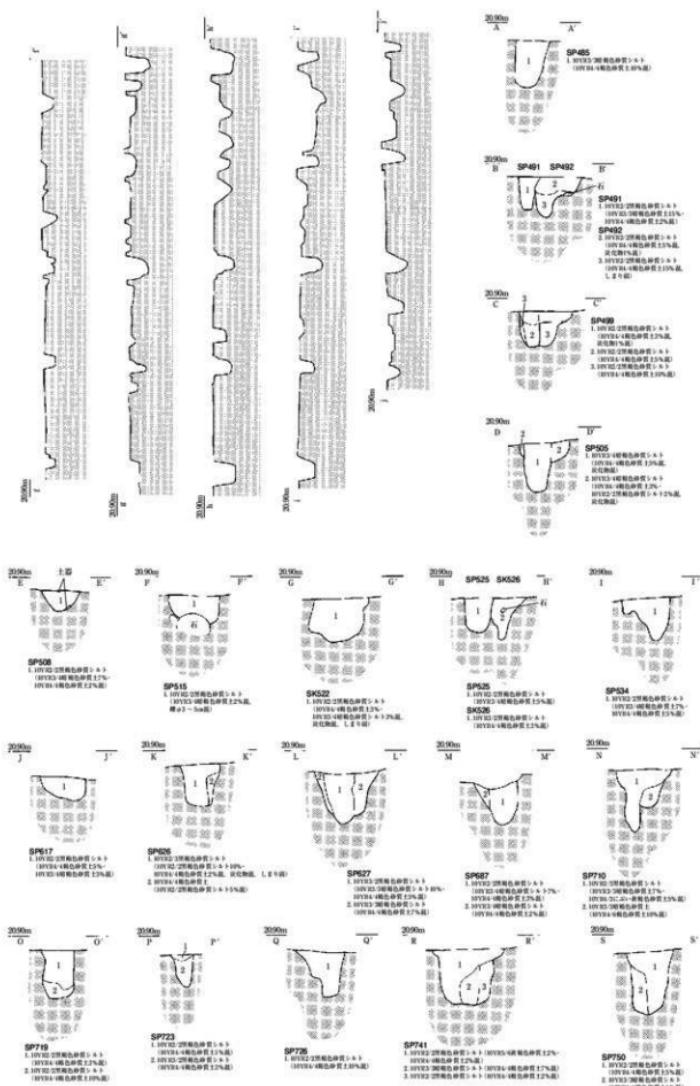


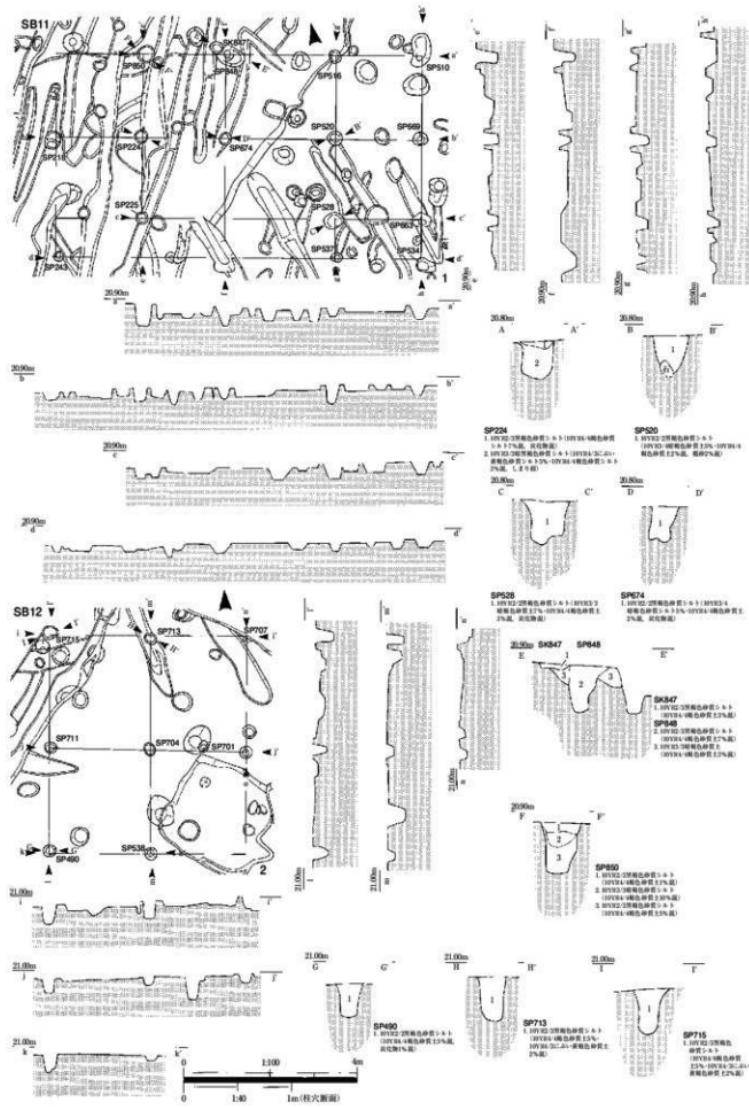
第33図 中世遺構実測図
SR9



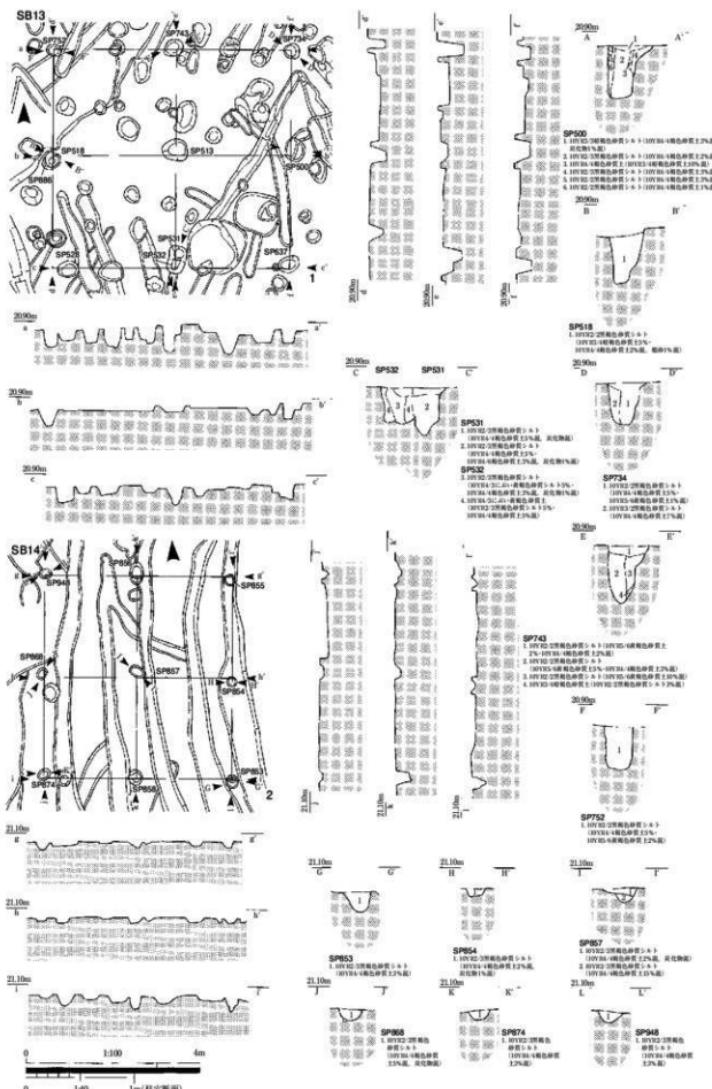


第34図 中世遺構実測図
SB10

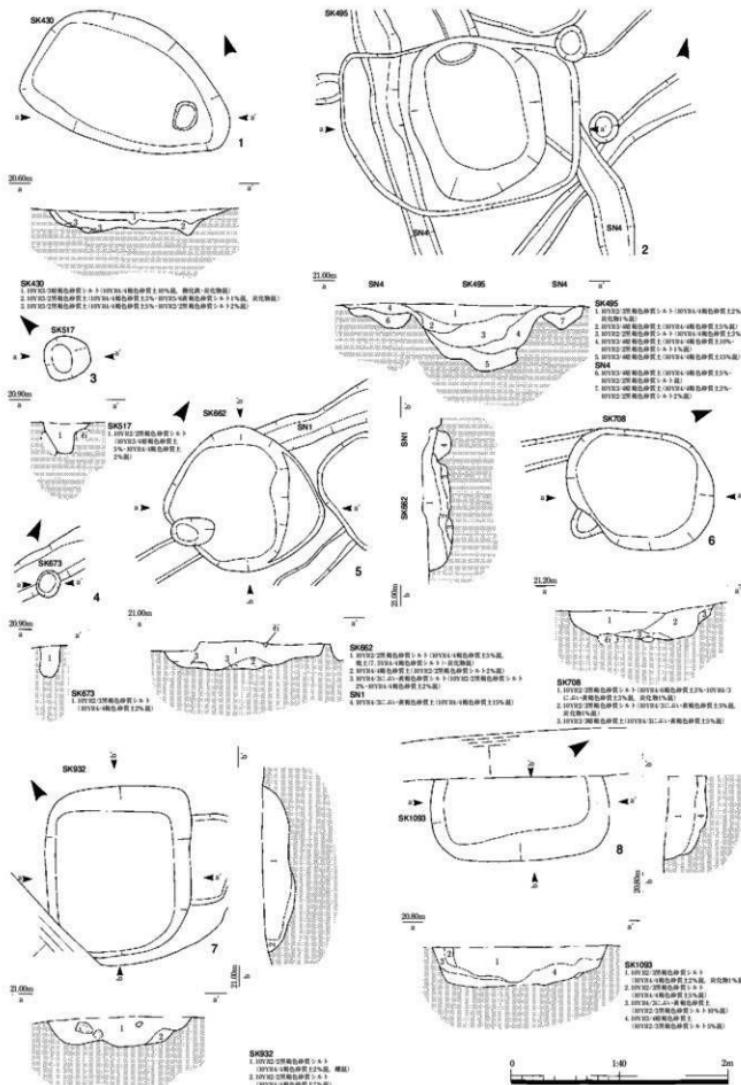




第35図 中世遺構実測図
1.SB11 2.SB12

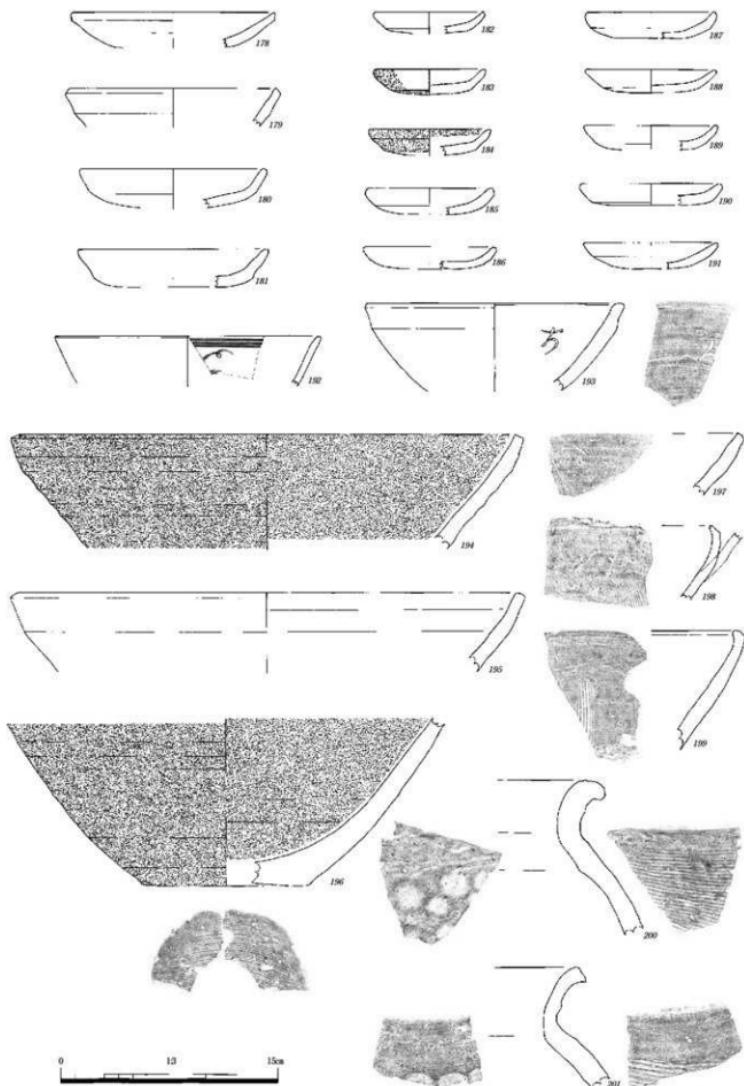


第36図 中世遺構実測図
1.SB13 2.SB14



第37図 中世遺構実測図

1. SK430 2. SK495 3. SK517 4. SK673 5. SK662 6. SK708 7. SK932 8. SK1093



第38図 中世遺物実測図 (1/3)
 SB9 SP620(184) SB9 SP672(196) SB9 SP705(194) SB10 SP508(186) SN1(187) SK495(198) SK517(180)
 SK673(185) 包含層

第V章 総 括

1 古 代

(1) 遺構変遷（第39・40図）

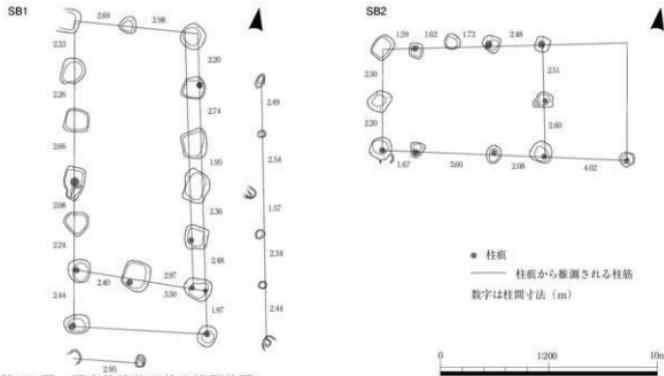
今回の調査で検出された主な古代の遺構について、I～IVの四期に分けて示す。調査地は片貝川の氾濫原に位置するため砂礫を地山とするが、古代I期の段階では旧流路が形成した浅い落ち込み（SD 1）内にシルト質の土壌が堆積しており、これを利用した畑作（SN 1～5）が行われる。畑の跡溝には3段階の重複関係があり、方位からは大きく5つのブロックに分けられるため、複数時期にわたって形成された可能性が高い。畑は竪穴建物（SI 680・985）と新旧の切り合い関係があるが、埋土がよく似ており、近い時期の形成と埋没が考えられる。竪穴建物は全てが同時期併存ではなく、SI 680の8世紀代からSI 930等の9世紀以降と年代幅がみられる。遺物の出土状況をみると、建物の廃絶後に遺物をまとめて廃棄したものがおり、これらが新しい時期の遺物を含む傾向にある。畑は掘立柱建物SB 1とも切り合い関係にあり、SB 1よりも古いことが明確であるため、古代I期の年代はSB 1の年代を下限とする8世紀中頃～9世紀前半と想定できる。この時期は養老7（723）年の三世一身法と天平15（743）年の聖田永年私財法の発布、天平勝宝元（749）年の寺院の聖田地を許可する諸施策に伴い、貴族や大寺社により土地開発が活発に進められた時期にあたる。当遺跡の古代I期は、畑作從事者が季節や時期によって畑と竪穴住居の場所を変えながら開発を進めた段階と考えられ、耕地の開発や拡大を目的とした開墾集落としての性格が付与できる。なお検出した跡溝群については水田ではなく畑と解釈したが、その根拠としては、土質のほか、水耕を可能とさせる溜池や水路等を伴わない点が挙げられる。県内の古代の畑においては、植物珪酸体等の分析結果をもとに、陸稲、キビ、オオムギ等の栽培例が報告されている（久々2009）。当遺跡では畑の土壤分析は実施していないが、こうした雑穀を中心とする栽培がなされていたと思われる。

古代II・III期は大型掘立柱建物の南北棟・東西棟各1棟が広場を中心としてL字形に並び、東あるいは南を正面とした建物配置が考えられる段階である。SB 2・4に新旧の切り合い関係があるため、二期にSB 1・2、三期にSB 1・4をあてた。SB 1は桁行5間（11.70m）×梁行2間（5.70m）で南廊がつき、搬入品である縁釉陶器や灰釉陶器を伴う、9世紀代を中心とする時期の建物である。5間×2間の大型建物は県東部では東大寺領丈部庄や西大寺領佐味庄の庄所に比定される入善町じょうべのま遺跡においても確認されており（富山県教育委員会1974）、地方官衙に多くみられる平面形式とされる（山中2003a）。柱穴断面や根巻き石の残存状態からSB 1・2の柱穴内に想定される柱の位置を第40図に示したが、いずれも柱筋の通りが悪く、柱間寸法は令大尺（1尺≈0.355m）で7～10尺と異なる。特にSB 1の東側柱列には柱筋に大きなずれが生じているが、身舎南東角の柱穴に柱痕が2箇所みられることから東側柱列に2本の柱筋を想定して、構造上の補強を施したか南廊を後設した可能性を考えたい。こうした造営精度が低い建物は、官衙の中では格付けの低い建物か仮設的施設であったとされる（山中2003b）。なおSB 1の東および南側に並ぶ小柱穴列は建物を構成する柱としては身舎の柱穴に比べて小規模であるため、廊ではなく建設時の足場柱穴と思われる。

古代IV期は、小型掘立柱建物が散見される段階である。遺物は少ないが、SB 5の柱穴SP 1097から出土した土師器甕（38）の年代から、10世紀前半に降るものと考えられる。



第39図 古代遺構変遷図



第40図 堀立柱建物の柱の推測位置

(2) 古代北陸道および駅家との関連(第41～43図)

古代II・III期の大堀立柱建物は南北棟・東西棟が広場を中心としてL字形に並んでおり、東あるいは南を正面とした建物配置が考えられる。江口遺跡の東側には仏田遺跡から延びる古代道路の存在が予測されるため、道路を意識した施設配置と捉えることができる。加えて堀立柱建物群と道路の延びる方位に統一性がみられ、この道路が建物を建築する際の計画基準線（木下 1985）として機能していた可能性も指摘できる。江口遺跡が立地する片貝川・布施川扇状地は、先学諸氏によって古代北陸道の駅路および布勢駅家の存在が想定されてきた地域であり¹¹。仏田遺跡で検出された道路遺構や堀立柱建物群をこれらに関連づける考えも示唆されている（麻柄 2012）。ここで古代北陸道をめぐる研究成果および仏田遺跡の調査成果を概観し、江口遺跡との関連を検討してみたい。

古代律令国家は全国を五畿七道に区分し、これらに配した駅路には30里（約16km）ごとに駅家を設置した。「延喜式」兵部省「諸国駅伝馬条」には、越中国内に、坂本・川合（人）・日理・白城・磐瀬・水橋・布勢・佐味の8駅が記されている。木下良氏は片貝川・布施川扇状地に古代北陸道の駅路を想定し、布施川右岸の渡河地点（黒部市荒町）を布勢駅家比定地とした（木下 1980・2009）。また昭和41（1966）年撮影の空中写真において魚津市上野の早月川右岸段丘上に道路状痕跡を認め¹²、海岸部を通る「延喜式」駅路のほかに内陸部を通る旧駅路があった可能性にも触れている（木下 2009）。

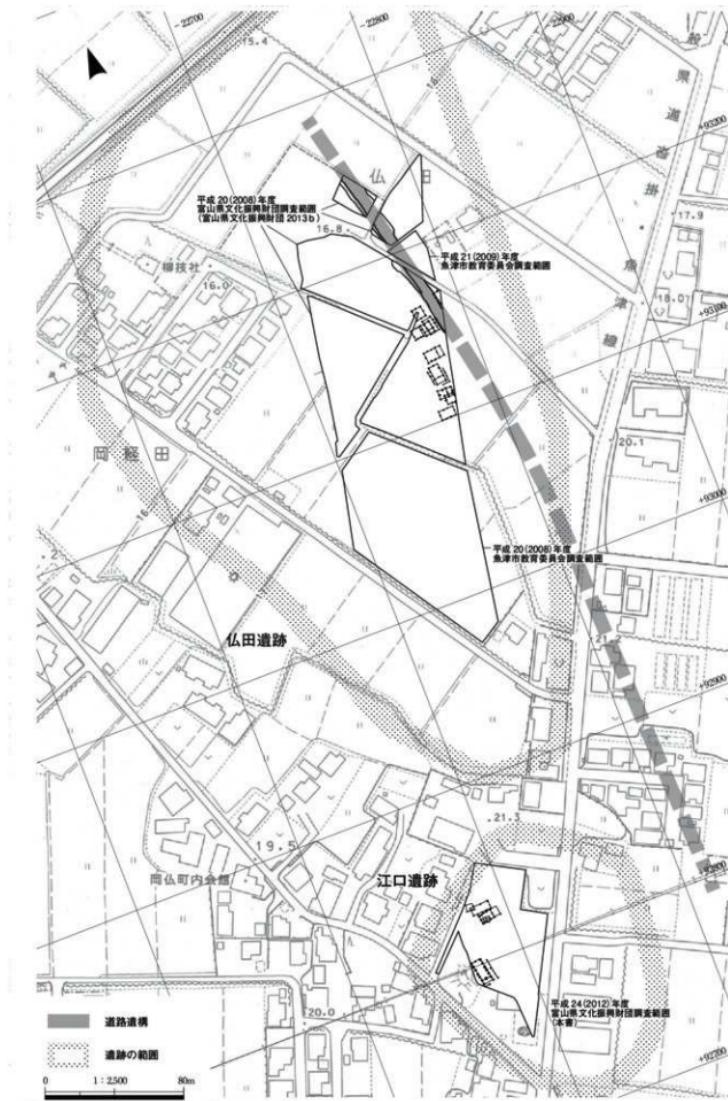
仏田遺跡で検出された道路遺構は西に12°傾いた北北西～南南東方向の直線道路で、調査区内において約100 mを検出した（富山県文化振興財团 2013 b）。西肩のみに側溝を有し、路面幅は約5～6 mを測る。堆積状況から、路盤に盛土がなされて西側に側溝をもつ段階（1期）、路盤の盛土（道路構築土）上面に硬化面（使用面）が形成された段階（2期）、硬化面の上に更に盛土がなされて西側に新たな側溝が掘られた段階（3期）が考えられる。それぞれの時期は、1・2期が9世紀後半、3期は10世紀第1四半期であるが、側溝出土遺物を埋没年代の下限とするため存続年代が遡る可能性もある。道路遺構について、調査担当者である河西健二氏は、古代北陸道との関係を示唆しつつも証拠が不十分であるとして断定は避けた立場をとる（河西 2009）。青山裕子氏は「三」墨書き土器や出土遺物の特殊性等から、検出した堀立柱建物群を郡衙支所「三館」に関連づけ、道路遺構は駅路から分岐して

郡衙支所を通り湊へ向かう道であると考える（青山 2013）。これに対し麻柄一志氏は、仏田遺跡の道路遺構が古代北陸道である可能性を考え、更に布施川左岸を地域の中核と捉えて付近に官衙的施設や駅家の存在を予測した（麻柄 2012）。

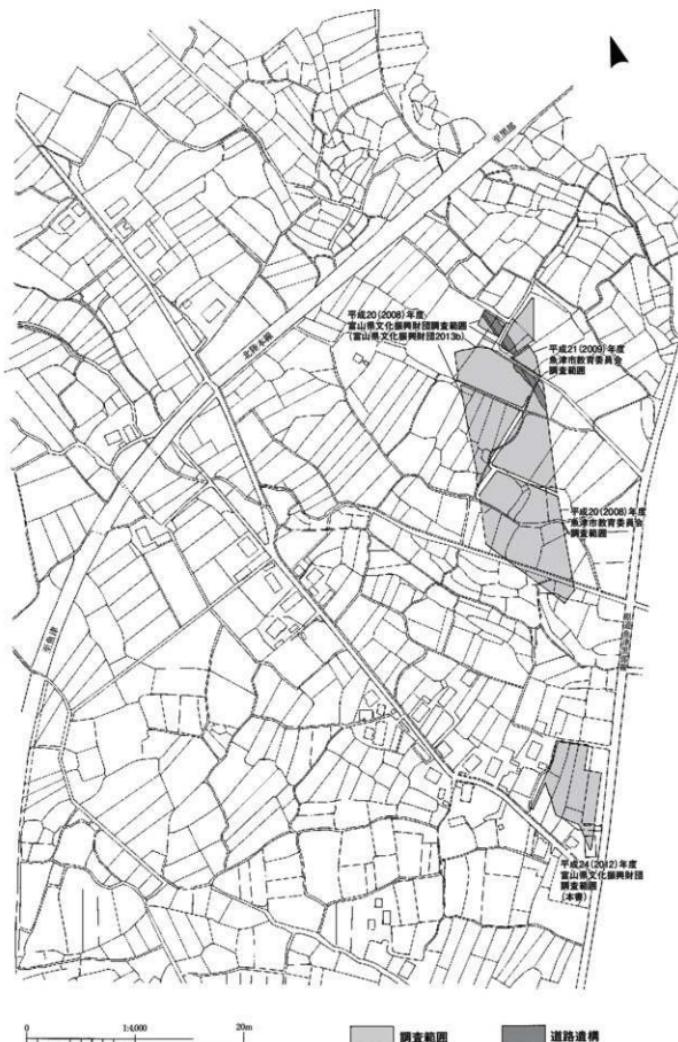
富山県内の古代北陸道と推定される道路遺構の路面幅は約 5～9 m が確認されている³³が、8 世紀後半から 9 世紀にかけて、全国的に駅路の維持管理の合理化を目的とした再編成がなされた結果、北陸道の場合には道路幅が約 9 m から 6 m への縮小傾向があるとされる。麻柄氏が指摘するように仏田遺跡の道路遺構を古代北陸道の駅路とするならば、道路規模という観点からは、道路幅縮小後である『延喜式』段階の駅路と捉えられる。ただし道路に補修や整備が加えられて 3 期の変遷が認められる点からは、道路成立時に伝路であった可能性が指摘できる。ここで問題となってくるのが道路遺構の延びる方向である。あくまで南南東に向かって直線的に延びると想定した場合には、木下氏が想定する 2 本の駅路に繋げることは不可能であるが、地形に沿って南の方向へ緩やかに曲がると仮定するとこれらに繋がる可能性が出てくるのではないだろうか。ただし各駅路の規模や想定される時期、仏田遺跡の道路遺構との対応関係など、今後詳細な検討がなされる必要がある。

次に駅家との関連であるが、木下氏は布勢駅の比定地を布施川右岸の渡河地点とした理由として、前駅（水橋駅）と後駅（佐味駅）間の距離のほかに、「布施（布勢）」³⁴の遺称地であることを挙げる。布施の遺称地については、明治 22（1889）年の町村制施行に際して編入された東布施村、西布施村、大布施村の 3 村のほか、布施山開、布施爪がある。布施山開は天保の飢饉後の農地回復を目指して開発が進められた地区で、弘化 3（1846）年の命名とされる（高瀬ほか 1994）ため、布施爪のある布施川流域一带に地名の起源を遡ることができる。天正 8（1580）年の魚津市千光寺の寺領について記した『小川山千光寺記』（遺編類纂所取千光寺文書）には、「布施之谷」の範囲が次のように示されている。「東ハ佐ヶ岳を限、南ハ片貝之川を限、北ハ黒瀬之川海水を限、西ハ海を限、東西八里余、南北一里半（中略）此間を布施之谷と申、其中之流を布施川と申、海水も布施之水海と申候事」³⁵。この「布施之谷」の範囲には、かつて 6 基の古墳があり管玉、刀剣、6 世紀頃の須恵器が出土したとされる阿古屋野古墳群、延喜式内社に比定される布施神社³⁶、奈良時代の布目瓦が出土したとされる天神山遺跡宝泉坊跡、天平 18（746）年に行基によって開かれたと伝えられる千光寺、立山開山の佐伯有頼の館があったとの伝承が残る伏山（現丸山か）、慶雲元（704）年に佐伯有頼が創建したと伝えられる慈興寺（持光寺、現真宗大谷派大德寺）など遺跡や古刹、伝承が多く残り、古墳時代以降の中心地であったことが窺える。第 43 図に嘉暦年間（1326～1328 年）に洪水が起る以前の片貝川の推定流路を示したが、現在北西へ大きく蛇行している流路が当時直線的に海へ注いでいたとすると、仏田地区も「布施（布勢）」の領域に含まれていた可能性が高い。布施川流域の左岸にひらけた地形を考え合わせると、布施川左岸扇状地に駅家あるいは有力豪族の居宅など地域の中核となるような公的施設があつたことも想定できる。駅家については、山陽道の布勢駅に比定される兵庫県龍野市小丸遺跡など各地の例をみると、築地等の方形開続施設の中に駅使の宿所にあてられる駅舎院と、実務を行う館や倉庫群、厩舎等からなる雑合群を配置した構造をもつことが明らかであるが（独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所 2004）、江口・仏田の両遺跡ではこれに並ぶような遺構は検出されていない。江口遺跡の古代 II・III 期の大型掘立柱建物は、造営精度の低さから格付けの低い建物か仮設の施設とみなさざるを得ず、遺構や遺物の集中度からは、公的施設の中心ではなく縁辺的な様相が窺える。したがって現時点では、前述の布施（布勢）領域である布施川左岸扇状地に中核施設の存在を予測するにとどめることとし、今後の調査の進展を待ちたい。

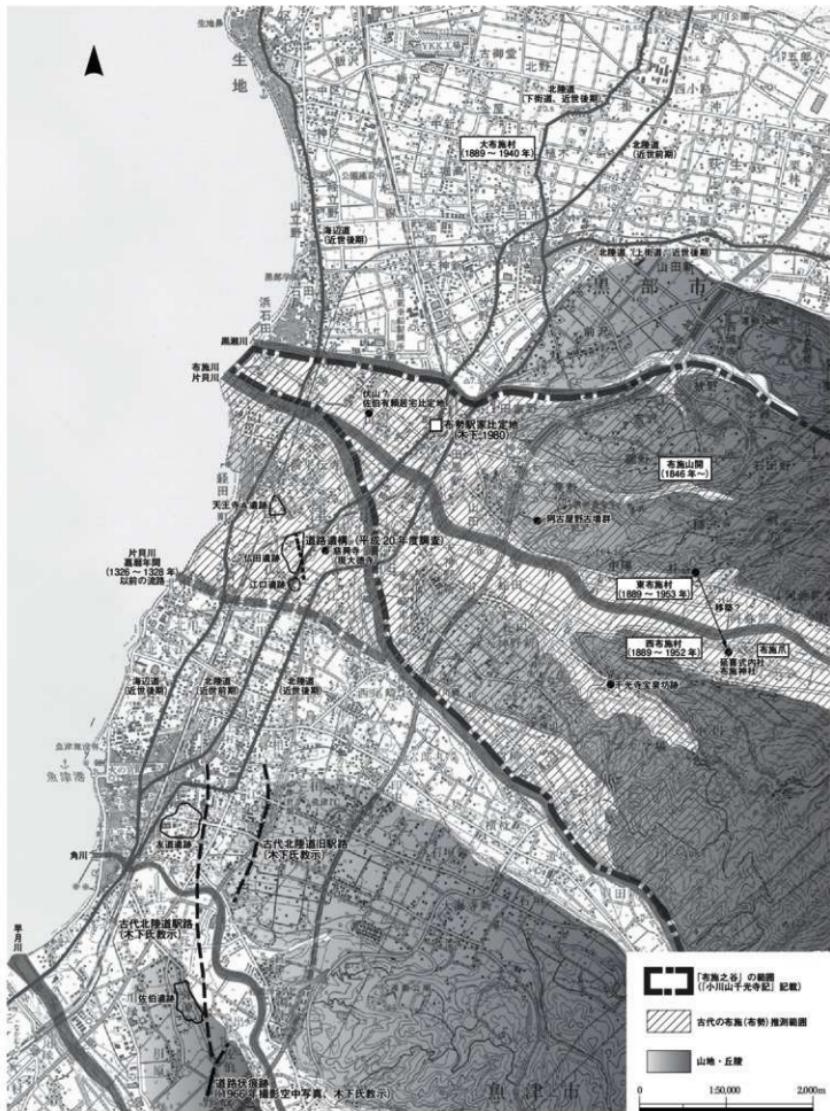
1 古代



第41図 江口遺跡・仏田遺跡調査位置図
樹立柱遺物は9世紀後半～10世紀前半に想定されるものを指す。



第42図 仏田地区区画整理前の地籍図



第43図 古代北陸道および布勢駅家関連図

国土地理院 2000 「1：50,000 地形図 三日市、糸崎」を元に作成した。近世の街道は木下 1980 による。

2 中世

中世の主な遺構に掘立柱建物と土坑がある。このうち、掘立柱建物の変遷について、中世Ⅰ～Ⅲの三期に分けて考えた（第44図）。中世Ⅰ期はSB6・8・10、中世Ⅱ期はSB9・13、中世Ⅲ期はSB11・12・14とした。SB6・8は調査区外にかかるため規模等に不明な点が多いが、SB7は古代に遡る可能性がある。SB9・10は柱間距離2.5mをはかる建物である。SB13はSB9と重複するため中世Ⅲ期に降る可能性もあるが、柱穴規模からⅡ期とした。SB9に後出するものと考えたい。SB14は柱穴の規模や埋土が異なっており、SB11・12よりも後出すると考えられる。時期が判断できる出土遺物が少ないが、柱穴から12世紀後半～14世紀の土器が出土しており、この頃の集落と考えられる。当時、布施川流域一帯は小布施庄、布施保などといわれ、下流の扇状地には肥沃な良田が広がっていたとされる。文永年間（1264～1275年）の記録には、千光寺に布施谷一帯が寄進されたことが記される⁵⁷。

嘉暦年間（1326～1328年）には片貝川・布施川の大洪水が起り、河道が大きく変化して流域一帯が被災したとの記事が、多くの文献に残されている（津市史編纂委員会1968、高瀬ほか1994、片貝郷土史編纂委員会1997など）。江口遺跡においても、15世紀以降の出土遺物は見られず、大洪水の被害を受けて集落が廃絶した可能性が高い。また、これ以降にも度々洪水の被害を受けてきたことが記録に残されており、圃場整備前の地図には片貝川の洪水が形成したと思われる流路状の地形や地割りをみることができる（第42図）。

なおこの地域は大洪水の後に復興し、室町期には禅院領庄園として伝承され、応永20（1413）年には足利氏の菩提寺であった持院領（現京都市北区）であったと伝えられる⁵⁸。



第44図 中世掘立柱建物変遷図

- 註 1 布勢駅家の比定地としては、黒部用左の番地・三日守も挙げられている。森田桂樹氏は「香樹」「香豊」地名は音を懸けた駅場に由来するもので、信濃や近江の例から黒部の番地も古い駅跡であると記す(森田 1951・1952)。なお香樹は黒部家の愛木櫻橋に伴う上街道跡により宜文7(1667)年に廃止されるまで宿駅であり、三日市は近世北陸道の上街道と下街道の分岐点に位置する駅跡の役目を果たしたのである。
- 註 2 「フォーラム」奈良時代の富山を探るにおいて、木下氏氏は「富山市化の櫻橋跡に近くの駅止上」、昭和30年代に掘られた空中写真に道路跡の櫻橋が見えます。(中略) 約10 m以上あると思われる櫻橋の用地が200~300 m長いという。』とコメントしている(富山市教育委員会 2004)。第43回に示した道路状況図は、木下氏氏によるものである。
- 註 3 所在地黒部六丁目6番7号(富山・平成1997)、町道道筋の5~6 m(9世紀)、小矢部市教育委員会 1994~2000)、麻生新井生道跡の6.5 m以上(8世紀後半、高岡市教育委員会 1998)、赤井南道跡の7~8 m(8世紀後半~9世紀、富山県文化振興財団 2012)、木橋荒町・辻・馬場道跡の5~6 m(8~9世紀、富山市教育委員会 1998)、西舟・小林木舟跡(8世紀後半~9世紀、富山県文化振興財団 2013 a)、舟山古道の5~13 m(金沢・平成時代、西舟・小林木舟 2005)等の調査例がある。
- 註 4 「舟の名」、「延喜式」(兵部省度量衡課馬車・和田名抄)、高山寺本北陸駅舎の布勢駅、「延喜式」神祇派の新川都七座のうちの布勢神社にみられ、古くは地名であったと考えられている。
- 註 5 高麗通鑑抄 1994「富山の地」に「高山市」と記載した。
- 註 6 『高麗通鑑抄』卷20(1313)年とある「高麗通鑑抄 卷9・10」(延喜式神祇派)に新川都七座のひとつとして布勢神社が記載されている。なお布施爪の布施神社は、かつては春日山門の神社に祀られたとの説もある。
- 註 7 「山川行水之記」(道耕類著所収千手文書)には、寺子屋の住持徒は文安年中(264~275)の古豪来に際して朝鮮高句麗割の宣旨を受けて寺号を鎮護国寺と改めし、龜山天皇の勅旨を下されるとともに有田の谷一帯を差され、これにより仁京郡が創立されたと記される(高麗 1994)。
- 註 8 安政30(1313)年の「東寺吉井院碑銘別銘免除在所(所注文)」(寺子百文書)に、等寺院頭として小布施庄がみられる(高麗 1994)。ただし射水郡にも同名の小布施庄があり、どちらにあたるのかは不明とされる(國立歴史民俗博物館 1995)。

引用・参考文献

- 青山 是 2009「水橋金広・中馬場遺跡の古代道路について」『紀要 富山考古学研究』第12号 富山県文化振興財团
- 青山 晃 2013第IV章水橋金広・中馬場遺跡 6 組括 (2) 古代の道路と周辺遺跡「上梅沢遺跡・水橋金広・中馬場遺跡 新堀西遺跡発掘調査報告書」北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告V-1 富山県文化振興財团
- 青山裕子 2013第IX章総括 2 古代の造営について「『伊丹遺跡発掘調査報告書』入善黒部バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘報告書I-1 富山県文化振興財团
- 魚津市史編纂委員会 1968「魚津市史」上巻 魚津市役所
- 越前慎子 2012「第IV章赤井南道跡 4 組括 (1) 古代道路」「水上道跡 赤井南道跡 安吉道跡 棚田道跡 本江大坪I道跡 発掘調査報告書 - 北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘報告書V-1 富山県文化振興財团
- 小矢部市教育委員会 1994「平成5年度 小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報」
- 小矢部市教育委員会 2003「富山県小矢部市板橋町道跡発掘調査報告書 弘生・古墳・古代・中世編I」
- 河西健二 2009「『伊丹遺跡の古代道路遺構と標柱立柱物について』『紀要 富山考古学研究』第12号 富山県文化振興財团
- 片貝郷土史編纂委員会 1991「片貝郷土史」魚津市公民館
- 木下 良 1980(I) Ⅱ越中における北陸道 一、近世に至る北陸道の概観 (1)古代『富山県歴史の道調査報告書 - 北陸街道 -』富山県教育委員会
- 木下 良 1980(II) 越中における北陸道 二、近世の北陸道復原に関する基本史料『富山県歴史の道調査報告書 - 北陸街道 -』富山県教育委員会
- 木下 良 1985「古代的地域計画の基準線としての道路」『交通史研究』14
- 木下 良 2009『事典 日本古代の道と駅』吉川弘文館
- 木本雅康 2011古代官道の歴史地理 -
- 久々忠義 2009「古代越中の農業技術」「古代の越中」環日本海歴史民俗学叢書 13 高志書院
- 国立歴史民俗博物館 1995「日本狂歌アート2」国立歴史民俗博物館資料調査報告書 6
- 高岡市教育委員会 1998「1. 麻生谷新生開闢、村田地区」「市内道跡調査概報Ⅱ」
- 高瀬雄三監修 1994「富山市の地名」平凡社
- 独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所 2003「古代の官道跡I 通福縁」
- 独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所 2004「古代の官道跡II 道物・道跡編」
- 富山考古学会 2000「富山県道路道跡構成集」「大坂」第20・21号 創立50周年記念合併号
- 富山市教育委員会 1974「富山県埋蔵文化財調査報告書III 井波町高瀬道跡 入善町じょうべのま道跡発掘調査報告書」
- 富山県文化振興財团 2012「第IV章赤井南道跡」「水上道跡 赤井南道跡 安吉道跡 棚田道跡 本江大坪I道跡発掘調査報告 - 北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘報告書V-1」
- 富山県文化振興財团 2013 a「第IV章水橋金広・中馬場遺跡」「上梅沢遺跡 水橋金広・中馬場遺跡 新堀西道跡発掘調査報告 - 北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘報告書V-1」
- 富山県文化振興財团 2013 b「『伊丹遺跡発掘調査報告書 - 入善黒部バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘報告書I -』」
- 富山市教育委員会 1998「富山市水橋荒町道跡発掘調査概要」
- 富山市教育委員会 1999「富山市水橋荒町道跡発掘調査概要II」
- 富山市教育委員会 2004「フォーラム 奈良時代の富山を探る -「奈良時代の富山を探る」フォーラム全三回の記録-」
- 西井龍儀 1997「併利伽羅崎の古道」「古代交通研究」第7号 古代交通研究会
- 西井龍儀・小林高範 2005「佐羽山古道の調査」「大坂」第25号 渡辺先生追悼 富山考古学会
- 根津明義 2009「古代越中における官衙の様相と在地社会 -令制期における在地の適応と展開、及び諸施設の現地比定研究の現状 -」「古代の越中」環日本海歴史民俗学叢書 13 高志書院
- 麻柄一志 2012「古代北陸道と布施の駅」「国説 魚津の歴史」魚津市史編纂委員会編 富山市教育委員会
- 森田桂樹 1951・1952「越中志懐」(上・下)・富山新聞社
- 山中敏史 2003 a「『官衙建物の遺構』、III-1柱穴」「古代の官道跡I 通福縁」独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所
- 山中敏史 2003 b「『平面形式・規模・配置』、VI-1官衙建物の平面形式」「古代の官道跡I 通福縁」独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所

第6表 据立柱建物一覽

建物	構造	軒高 (m)	梁(m)	梁(m)	柱方材 径(m)	柱尖端 径(m)	柱面端 径(m)	柱面端 径(m)	出・進物	時期	詳細時期	構造
S B 1	南北棟・片幅	5間	11.70	2間	5.70	66.69	N - 9° - W	-	80.60	古代	9C中葉～ 10C初頭	劣質
S B 2	東西棟・片幅	4間	7.42	2間	5.10	37.84	N - 82° - E	0.36 - 1.16	0.15 - 0.83	1.95 - 2.74	2.50 - 3.00	土陶器(16-34-61), 黒色土器 (81), 頸部器(194-161-146)
S B 3	東西棟	2間	2.96	2間	2.96	11.13	N - 85° - W	0.22 - 0.72	0.06 - 0.25	1.48 - 2.17	2.20 - 2.60	土陶器(71)
S B 4	東西棟	4間	11.00	2間	4.80	52.90	N - 88° - E	0.52 - 1.16	0.22 - 0.51	2.41 - 2.91	1.93 - 2.73	土陶器(17-68-23), 頸部器(154- 160)
S B 5	東西棟	4間	3.87	2間	3.79	16.24	N - 84° - W	0.44 - 1.06	0.21 - 0.51	1.09 - 1.25	1.84 - 1.90	土陶器(17-38-69-72), 頸部器 (66)
S B 6	-	2間	4.00	-	-	-	N - 39° - E	0.56 - 1.08	0.28 - 0.68	1.80 - 2.20	-	土陶器
S B 7	-	3間	6.45	-	-	-	N - 41° - E	0.54 - 1.08	0.21 - 0.68	1.68 - 2.47	-	土陶器
S B 8	-	4間	8.64	-	-	-	N - 34° - E	0.40 - 0.56	0.24 - 0.61	2.00 - 2.26	-	-
S B 9	東西棟・柱	5間	12.30	4間	10.96	133.96	N - 88° - W	0.20 - 0.64	0.10 - 0.50	2.23 - 2.63	2.17 - 3.22	土陶器, 黑色土器, 中世土陶器 (186), 頸部器(194-196)
S B 10	東西棟・柱	4間	10.84	4間	9.17	102.17	N - 85° - E	0.24 - 0.72	0.11 - 0.60	2.22 - 3.13	2.23 - 2.52	土陶器, 頸部器, 中世土陶器(186)
S B 11	東西棟・柱・ 片幅	4間	8.42	2間	3.78	31.83	N - 78° - W	0.24 - 0.74	0.09 - 0.48	1.87 - 2.53	1.85 - 1.97	土陶器
S B 12	南北棟・柱	2間	5.02	2間	4.54	22.79	N - 5° - E	0.26 - 0.40	0.12 - 0.43	2.26 - 2.65	2.21 - 2.37	-
S B 13	東西棟・柱	2間	5.89	2間	5.06	27.67	N - 89° - W	0.28 - 0.54	0.15 - 0.53	2.46 - 2.91	2.26 - 2.71	土陶器
S B 14	南北棟・柱	2間	4.68	2間	4.38	20.31	N - 4° - E	0.18 - 0.74	0.07 - 0.27	2.26 - 2.43	2.10 - 2.30	土陶器

第7表 柱穴一覧(1)

地図	遺構	田邊櫻谷寺	平面形	範囲(m)	出土遺物	特記	桜園 発見回数		
							長	幅	
SB1	SP93	A1-SK833	円	1.89	1.16	0.53	土師器	>SN1	8
	SP97	A1-SK832	円	1.52	0.94	0.29	須恵器	>SN1	8
	SP49	A1-SK849	円	1.12	0.84	0.55	須恵器(4枚)		8
	SP53	A1-SK833	円	0.96	0.84	0.63			8
	SP70	A1-SK870	円	1.26	1.02	0.64	土師器	>SN1	8
	SP77	A1-SK877	円	1.08	1.02	0.62		>SN1	8
	SP80	A1-SK860	方	1.36	1.32	0.63	土師器(24)	>SN1	8
	SP79	A1-SK861	方	1.09	1.01	0.63	土師器(64), 須恵器(101)	>SN1	8
	SP100	A1-SK8100	方	1.39	1.16	0.63	土師器(64), 須恵器	>SN1	8
	SP115	A1-SK8115	方	1.12	1.08	0.65	土師器(46), 須恵器	>SN1	8 5
SB2	SP23	A1-SK835	方	1.04	1.04	0.80	須恵器		8 5
	SP49	A1-SK849	円	1.32	1.12	0.68	土師器(67)	>SN1	8
	SP150	A1-SK8150	円	1.60	1.28	0.75		>SK137+SN1	8 5
	SP151	A1-SK8151	方	1.12	(0.76)	0.58	黑色土器(S)		8
	SP900	A1-SK8000	円	1.26	1.02	0.58			8
	SP901	A1-SK8001	円	0.69	0.76	0.55	須恵器(94)		8
	SP977	A1-SK8977	円	1.39	1.04	0.77	土師器		9 4
	SP987	A2-SK987	円	0.72	0.64	0.22	土師器		9 4
	SP102	A2-SK102	方	0.98	0.64	0.30	土師器		9 4
	SP1000	A2-SK1030	円	0.74	0.74	0.34			9 4
SB3	SP1006	A2-SK1036	円	0.80	0.76	0.56		< SP1035+SB41	9 4
	SP1046	A2-SK1046	円	1.16	1.02	0.39	土師器	<SI1045	9 14 4
	SP1050	A2-SK1050	円	0.80	0.76	0.52	土師器	<SN4	9 4
	SP1051	A2-SK1051	円	0.69	0.54	0.35	土師器		9 4
	SP1076	A2-SK1076	方	0.74	0.68	0.47	土師器		9 4
	SP1088	A2-SK1088	円	0.68	0.68	0.49	土師器	>SN1	9
	SP1150	A2-SK1150	方	1.04	0.84	0.74	土師器(71)	<SI1025	13
	SP1162	A2-SK1162	円	0.98	(0.36)	0.18	土師器		13
	SP1171	A2-SK1171	椭	0.98	0.68	0.36	土師器	>SN4	9 4
	SP1172	A2-SK1172	長方	1.12	0.88	0.55	土師器		9 4
SB4	SP920	A2-SK920	方	0.72	0.46	0.35			9
	SP940	A2-SK940	円	0.94	0.51	0.25			9
	SP989	A2-SK989	円	0.49	0.32	0.16	土師器		9
	SP1042	A2-SK1042	円	0.36	0.30	0.20			9
	SP1044	A2-SK1044	円	0.36	0.28	0.06			9
	SP1107	A2-SK1107	円	0.30	0.30	0.12		>SI1002	9
	SP1167	A2-SK1167	円	0.36	0.32	0.17	土師器		9
	SP1168	A2-SK1168	円	0.44	0.36	0.16			9
	SP1169	A2-SK1169	円	0.26	0.26	0.16			9
	SP1170	A2-SK1170	円	0.52	0.52	0.45			9
SB5	SP1021	A2-SK1021	円	0.62	0.62	0.49		>SK1024	10
	SP1033	A2-SK1033	円	0.72	0.64	0.26	土師器		10
	SP1035	A2-SK1035	方	0.84	0.68	0.22	土師器, 須恵器	>SP1036+SB2	9
	SP1065	A2-SK1065	円	0.96	0.60	0.36	土師器, 須恵器(154)		10
	SP1073	A2-SK1073	円	0.84	0.76	0.51	土師器(17-63-7), 須恵器(186)	SB5+共有	10
	SP1080	A2-SK1080	方	0.64	0.64	0.30	土師器, 須恵器		10
	SP1085	A2-SK1085	円	0.90	0.60	0.36	土師器, 須恵器		10
	SP1152	A2-SK1152	椭	1.16	0.72	0.25	土師器	>SK1154	10
	SP1157	A2-SK1157	椭	0.72	0.59	0.25	土師器		10
	SP1171	A2-SK1171	円	0.52	0.48	0.35			10
SB6	SP1017	A2-SK1017	円	0.52	0.52	0.28			10
	SP1018	A2-SK1018	円	0.44	0.44	0.33			10
	SP1071	A2-SK1071	椭	0.68	0.46	0.41	土師器		10
	SP1073	A2-SK1073	円	0.84	0.76	0.51	土師器(17-63-7), 須恵器(186)	SB4+共有	10
	SP1076	A2-SK1076	椭	1.06	0.50	0.21			10
	SP1097	A2-SK1097	円	0.64	0.56	0.26	土師器(38)		10
	SP1109	A2-SK1109	円	0.52	0.48	0.35			10
	SP1160	A2-SK1160	円	1.06	0.60	0.30	土師器	SB7+共有, >SD1092	32
	SP1113	A2-SK1113	椭	(0.84)	(0.60)	0.46		SB7+共有, >SP1115(SB7)	32
	SP1116	A2-SK1116	円	(0.60)	0.56	0.28		>SP1117(SB7)	32
SB7	SP1096	A2-SK1096	円	1.08	(0.60)	0.66	土師器	SB6+共有, >SD1092	32
	SP1113	A2-SK1113	椭	(0.84)	(0.60)	0.46		SB6+共有, >SP1115(SB7)	32
	SP1115	A2-SK1115	円	(0.64)	(0.36)	0.49		<SP1113(SB6)	32
	SP1117	A2-SK1117	円	(0.54)	(0.32)	0.38		<SP1116(SB6)	32
	SP1122	A2-SK1122	円	(0.54)	(0.40)	0.25			32
	SP1163	A1-SK163	円	0.48	0.40	0.22			33
	SP1179	A1-SK179	円	0.40	0.40	0.23		>SN1	33
	SP1180	A1-SK180	円	0.44	0.42	0.28			33
	SP1183	A1-SK183	円	0.36	0.36	0.25			33
	SP1189	A1-SK189	円	0.46	0.40	0.35			33
SB8	SP93	A1-SK93	円	0.34	0.32	0.38	土師器		33
	SP94	A1-SK94	円	0.40	0.32	0.26			33
	SP75	A2-SK775	円	0.48	0.44	0.28			32
	SP76	A2-SK776	円	0.56	0.40	0.32			32
	SP77	A2-SK777	円	0.52	0.48	0.37			32
	SP79	A2-SK795	方	(0.52)	(0.44)	0.61		<SD782	32
	SP963	A1-SK963	円	0.48	0.40	0.22			33
	SP979	A1-SK979	円	0.40	0.40	0.23			33
	SP980	A1-SK980	円	0.44	0.42	0.28			33
	SP983	A1-SK983	円	0.36	0.36	0.25			33
SB9	SP989	A1-SK989	円	0.46	0.40	0.35			33
	SP993	A1-SK993	円	0.34	0.32	0.38			33
	SP994	A1-SK994	円	0.40	0.32	0.26			33
	SP995	A1-SK995	円	0.48	0.48	0.39		>SD980	33
	SP997	A1-SK997	円	0.36	0.34	0.21			33
	SP945	A1-SK945	円	0.36	0.36	0.34			33
	SP947	A1-SK947	円	0.40	0.40	0.23			33
	SP958	A1-SK958	円	0.49	0.42	0.19			33
	SP960	A1-SK960	円	0.44	0.40	0.31	中腹土師器(184)		33
	SP931	A1-SK931	円	0.34	0.34	0.28			33
SB10	SP933	A1-SK933	円	0.36	0.36	0.36			33
	SP941	A1-SK941	円	0.36	0.34	0.21			33
	SP945	A1-SK945	円	0.36	0.36	0.34			33
	SP947	A1-SK947	円	0.40	0.40	0.23			33
	SP958	A1-SK958	円	0.49	0.42	0.19			33
	SP960	A1-SK960	円	0.44	0.40	0.31	中腹土師器(184)		33
	SP972	A1-SK972	円	0.36	(0.24)	0.23	陶器(196)		33
	SP988	A2-SK698	円	0.44	0.44	0.23	土師器		33
	SP995	A2-SK705	円	0.48	0.44	0.30	陶器(196)		33
	SP972	A2-SK712	円	0.36	0.44	0.34			33

第7表 柱穴一覧(2)

地物	地番	田舎横番号	平面形	高さ(m)		出土遺物	特記	種別	地図 図版
				基S.	基Z.				
SB8	SP714	A2 SK714	円	0.02	0.10	0.20			33
	SP722	A2 SK722	円	0.06	0.08	0.28			33
	SP724	A2 SK724	円	0.24	0.20	0.30			
	SP725	A2 SK725	円	0.32	0.24	0.36			
	SP740	A2 SK740	円	0.58	0.44	0.34			33
	SP742	A2 SK742	円	0.44	0.36	0.31	土鍍器、褐色土器		33
	SP746	A2 SK746	円	0.40	0.28	0.24			
	SP748	A2 SK748	円	0.06	0.06	0.25			
	SP749	A2 SK749	円	0.34	0.24	0.38			
SB9	SP685	A1 SK685	円	0.40	0.36	0.44			34
	SP691	A1 SK691	円	0.40	0.20	0.32	<SP692(SB10)		34
	SP692	A1 SK692	円	0.44	0.30	0.38	>SP691(SB10)		34
	SP699	A1 SK699	円	0.50	0.44	0.33	>SN1		34
	SP500	A1 SK500	円	0.48	0.44	0.45			34
	SP508	A1 SK508	円	0.48	0.36	0.27	土鍍器、中世土鍍器(SB6)		34
	SP511	A1 SK511	円	0.56	0.52	0.26			34
	SP519	A1 SK519	焼円	0.56	0.40	0.11			34
	SP522	A1 SK522	円	0.56	0.40	0.40			34
SB10	SP525	A1 SK525	円	0.30	0.30	0.32	土鍍器	>SN1・SK526	34
	SP534	A1 SK534	焼円	0.46	0.32	0.40		SB11と共有	34
	SP592	A1 SK592	円	0.36	0.32	0.24			
	SP594	A1 SK594	円	0.54	0.40	0.22			
	SP597	A1 SK597	円	0.48	0.36	0.23			34
	SP626	A1 SK626	円	0.52	0.49	0.49			34
	SP627	A1 SK627	円	0.60	0.46	0.46			34
	SP660	A1 SK660	円	0.34	0.34	0.29			
	SP687	A1 SK687	円	0.48	0.44	0.39			34
SB11	SP710	A2 SK710	円	0.52	0.34	0.59			34
	SP719	A2 SK719	円	0.32	0.30	0.44			34
	SP723	A2 SK723	円	0.28	0.24	0.29	皿形器		34
	SP726	A2 SK726	円	0.48	0.44	0.44			34
	SP741	A2 SK741	円	0.72	0.44	0.53			34
	SP750	A2 SK750	円	0.48	0.44	0.60	土鍍器	>SN1	34
	SP862	A2 SK862	円	0.38	0.36	0.12			34
	SP878	A1 SK878	円	0.44	0.36	0.22			
	SP879	A1 SK879	円	0.32	0.30	0.24			
SB12	SP873	A1 SK873	円	0.28	0.24	0.26			
	SP916	A1 SK916	円	0.32	0.28	0.21			
	SP920	A1 SK920	円	0.36	0.34	0.34			
	SP929	A1 SK929	円	0.44	0.36	0.41			
	SP934	A1 SK934	焼円	0.66	0.32	0.40			
	SP937	A1 SK937	円	0.24	0.30	0.25			
	SP963	A1 SK963	円	0.42	0.32	0.31			
	SP969	A1 SK969	円	0.34	0.34	0.30			
	SP974	A1 SK974	円	0.24	0.24	0.09			
SB13	SP849	A1 SK849	円	0.24	0.24	0.24			
	SP849	A1 SK849	円	0.60	0.44	0.43			
	SP850	A2 SK850	円	0.40	0.40	0.48	土鍍器		35
	SP860	A2 SK860	円	0.32	0.32	0.30			35
	SP869	A1 SK869	円	0.32	0.32	0.30			35
	SP870	A1 SK870	円	0.25	0.12	0.22			35
	SP711	A2 SK711	円	0.28	0.26	0.28			
	SP712	A2 SK712	円	0.32	0.28	0.41			
	SP715	A2 SK715	円	0.40	0.32	0.43			
SB14	SP500	A1 SK500	円	0.50	0.44	0.50			36
	SP513	A1 SK513	円	0.54	0.52	0.30			36
	SP518	A1 SK518	円	0.38	0.34	0.48			
	SP528	A1 SK528	円	0.44	0.36	0.41			
	SP531	A1 SK531	円	0.40	0.34	0.46			
	SP532	A1 SK532	円	0.40	0.32	0.32			
	SP567	A1 SK567	円	0.56	0.38	0.30			
	SP734	A2 SK734	円	0.38	0.38	0.26			
	SP743	A2 SK743	円	0.48	0.42	0.53			
SB15	SP752	A2 SK752	円	0.32	0.28	0.40			
	SP866	A2 SK866	円	0.44	0.40	0.15			
	SP853	A2 SK853	円	0.30	0.28	0.19	土鍍器		
	SP854	A2 SK854	円	0.24	0.24	0.07	土鍍器		
	SP855	A2 SK855	円	0.28	0.28	0.09			
	SP856	A2 SK856	円	0.74	0.31	0.13			
	SP857	A2 SK857	円	0.32	0.26	0.15			
	SP858	A2 SK858	円	0.36	0.31	0.27			
	SP868	A2 SK868	円	0.21	0.20	0.11			
SA1	SP974	A2 SK964	円	0.28	0.26	0.09			36
	SP974	A2 SK964	円	0.28	0.26	0.09			36
	SP975	A1 SK975	円	0.36	0.36	0.26			36
	SP131	A1 SK131	円	0.36	0.36	0.33			36
	SP136	A1 SK136	焼円	0.56	0.45	0.56			36
	SP145	A1 SK145	円	0.32	0.32	0.14			36
	SP146	A1 SK146	円	0.68	0.36	0.25			36
	SP45	A1 SK45	円	0.56	0.46	0.40			36
	SP50	A1 SK50	円	0.64	0.40	0.30			36
SA2	SP110	A1 SK110	焼円	0.64	0.40	0.25			36
	SP111	A1 SK111	円	0.68	0.42	0.32	土鍍器		36
	SP129	A1 SK129	円	0.36	0.36	0.26			36
	SP131	A1 SK131	円	0.36	0.36	0.33			36
	SP136	A1 SK136	焼円	0.56	0.45	0.56			36
	SP145	A1 SK145	円	0.32	0.32	0.14			36
	SP146	A1 SK146	円	0.68	0.36	0.25			36
	SP45	A1 SK45	円	0.56	0.46	0.40			36
	SP50	A1 SK50	円	0.64	0.40	0.30			36

第8表 窓穴建物一覧

通構	田邊構番号	平面形	規模(m)	出土遺物	時期	特記	種別	写真 図版
SI080	A1S360	隅丸方	2.68	0.26	土壙器(43-45-46), 領地器(802-127-128), 製陶土器(161), 黑漆	古代	<SN1>SI080(SI09)	11 6
SI090	A2S3930	隅丸方	3.24	2.52	土壙器(18-20-31-42-42-76), 領地器(889-149-150-156-161), 錫點土壙	古代	<SK148>	12 6
SI085	A2S3885	長方	3.60	2.68	0.18 土壙器(18-22-30), 領地器(92)	古代	<SP1048>(SI014)-SN1-SK065	15 6-7
SI1023	A2SH1023	隅丸方	2.48	1.68	0.27 土壙器(49-68-72), 領地器	古代	>SP1150(SI022), <SP1107(SI03)	13 6
SI045	A2SK1045	不整	3.00	2.52	0.17 土壙器(27), 領地器(117)	古代	>SP1046(SI022)	14 6-7
SI100	A2SH100	不整	3.20	1.84	0.14 土壙器(26), 領地器	古代	<SK1124-SK1126	15 6

第9表 清落ち込み一覧

通構	田邊構番号	柱頭	規模(m)	出土遺物	時期	特記	種別	写真 図版
SD1	A1SD1	落ち込み	12.65	0.23	土壙器, 黒色土器, 領地器(95-129), 中世土壙器, 鏡羽口(170), 黑漆	古代~中世	>SK365	17-18 8
	A2SD17	落ち込み	4.91	0.17				
	A2SD17	落ち込み	4.25	0.17				
SD0782	A2SD0782	溝	1.44	0.36	土壙器(1-38-9-11-12-14-15-21) 22-33-38-44-55-56-69, 黑色土器(79-80), 領地器(96-100-102-104-123-134-138-159)	中世	>SP1046(SI018)	32
SD1062	A2SD1062	溝	2.01	0.27				
SD1128	A2SD1128	溝	1.03	0.11				
SD1139	A2SD1139	溝	(0.90)	0.14	土壙器	古代	<SD1140>	16 5
SD1140	A2SD1140	溝	0.87	0.21				
SD1141	A2SD1141	溝	0.56	0.20				
SD1143	A2SD1143	溝	(3.28)	0.22	土壙器(8-9-14-15-21-38-44), 黑色土器(80-89), 領地器(102-106-112-143-148-152-159)	古代	<SD1062>	16 5
SD1144	A2SD1144	溝	0.85	0.14	土壙器, 領地器	古代	>SD1166 <SD1092	16 5
SD1146	A2SD1146	溝	(0.68)	0.14		古代	<SD1092>(SD1144-SK1145-SK1163	16 5

第10表 炉一覧

通構	幅	規模(m)	出土遺物	時期	特記	種別	写真 図版
SN1	0.17-0.65	0.04-0.32	土壙器(29-52), 領地器(95-162), 中世土壙器(167), 黑石(171)	古代	>SK382-SI080, <SB1-SB2-SI094-SH137-SK062-SK673-SK708	17-18 8	
SN2	0.20-0.65	0.06-0.33	土壙器	古代		17-18 8	
SN3	0.16-0.52	0.05-0.11		古代	>SB2-SB985 <SB2-SB10-SH11-SB12-SB13-SB14-SK495-SK1011	17-18 8	
SN4	0.18-0.70	0.06-0.20	繩文土器, 土壙器, 領地器(89)	古代		17-18 8	
SN5	0.15-0.59	0.05-0.17				19 8	

第11表 土坑一覽

通稱	田邊備手	平面形	長さ （厘尺）	幅 （厘尺）	深さ （厘尺）	出土遺物	時期	特記	写真 回数
SK48	A1SK48	円	0.49	0.32	0.28	土師器(37), 土師器(59), 土師器(65), 瓦片(176)	古代	>SN1 <SP150(SH1)	20
SK137	A1SK137	円	0.96	0.92	0.28	土師器(39), 土師器(46), 土師器(96)	古代	>SK179	20
SK138	A1SK138	円	0.92	0.72	0.17	土師器(36), 土師器(96)	古代	>SK105	20
SK164	A1SK164	円	0.40	0.28	0.08		古代	<SK164	20
SK165	A1SK165	円	0.46	0.46	0.13	須恵器(46)	古代	<SK138	20
SK179	A1SK179	円	0.88	0.72	0.16	土師器(39), 黑色土器, 須恵器(95,138)	古代	<SD1	17,18
SK265	A1SK265	円	0.74	0.22			古代	<SN1	20
SK282	A1SK282	円	0.28	0.18	0.18	須恵器(90)	古代	<SN1	20
SK330	A1SK330	椭円	1.92	1.20	0.23		中世	>SN4	37
SK345	A1SK345	椭円	2.20	1.64	0.61	須恵器(124), 瓦片(198)	中世	<SN4	37
SK317	A1SK317	椭円	0.44	0.40	0.28	中世,海面器(180)	中世	<SP255(SH10)	34
SK326	A1SK326	円	0.34	0.32	0.40		中世	<SN4	37
SK662	A1SK662	円	1.46	1.26	0.25		中世	<SN1	7
SK673	A1SK673	円	0.25	0.21	0.29		中世	<SN1	37
SK708	A2SK708	円	1.40	1.10	0.28		中世	<SN1	37
SK799	A2SK799	円	1.64	1.08	0.21	土師器	古代	>SP748(SH11)	20
SK847	A2SK847	円	0.32	0.28	0.06		中世	>SN4	35
SK932	A2SK932	方	1.56	1.32	0.29	土師器	中世	<SP748(SH11)	37
SK951	A2SK951	円	0.64	0.52	0.18	土師器(35), 土師器(25), 黑色土器, 須恵器(113)	古代	<SN4	20
SK953	A2SK953	椭円	0.72	0.62	0.24		古代	>SN4	37
SK955	A2SK955	椭円	0.48	0.32	0.10	土師器, 須恵器(88)	古代	>SP948(SH14)	20
SK965	A2SK965	長方	2.42	1.18	0.15	土師器, 須恵器	古代	>SN4	7
SK1011	A2SK1011	円	2.24	2.00	0.34		古代	<SN4	20
SK1024	A2SK1024	円	0.58	0.20	0.11		古代	<SP1021(SH4)	10
SK1093	A2SK1093	方	1.64	0.77	0.38	土師器	中世	<SP1021(SH4)	37
SK1111	A2SK1111	椭円	0.48	0.40	0.16	土師器(9,42)	古代	>SD1002	16,21
SK1234	A2SK1234	方	0.88	0.82	0.57	土師器	古代	>SN100	15
SK126	A2SK126	不要	4.96	1.80	0.69	土師器(64)	古代	>SN1100	15
SK1145	A2SK1145	円	0.56	0.48	0.28		古代	>SD1146-SK1163,<SD1192	16
SK1147	A2SK1147	円	0.76	0.60	0.22	須恵器(157)	古代	<SD1146-SK1163,<SD1192	21
SK1148	A2SK1148	椭円	1.40	0.76	0.26		古代	<SP930	12
SK1154	A2SK1154	不要	(4.96)	2.30	0.16	土師器, 須恵器(167)	古代	<SK1153,<SP1152(SH4)	21
SK1155	A2SK1155	椭円	(1.40)	0.72	0.22	土師器, 須恵器	古代	<SK1154	21
SK1163	A2SK1163	椭円	2.20	1.54	0.36	土師器, 須恵器	古代	>SD1146,<SD1192-SK1145	16
SK1198	A1SK1198	円	0.28	0.28	0.04		古代	埴輪	21

第12表 土器・陶磁器・土製品一覧(1)

番号	種類	分類	出土地点	種類	器種	法長(cm)	口径部 残存率	時間	施土色調	施土の特徴	備考
22	J	11	SD1082	X120Y130上層	土壜器	陶A	120	37	4.4 25%	DYR7/4	内外面赤 色調3YS-69赤褐色
2	II	11	SD1082	X120Y13-7層	土壜器	陶A	126	40	5.0 18%	DYR7/4	内外面赤 色調3YS-69赤褐色
3	9	9	SD1082	X120Y12層	土壜器	陶A	11.6	4.4	4.5 33%	DYR6/4	内外面赤 色調3YS-69赤褐色
4	9	9	X119Y14II層	土壜器	陶A	128	3.8	4.8 32%	DYR7/4	内外面赤 色調3YS-69赤褐色	
5	9	SK179	X05Y14II層	土壜器	陶A	120	41	4.9 100%(底)	DYR7/3	内外面赤 色調3YS-69赤褐色	
6	11		X05Y13II層	土壜器	陶A	132	3.8	5.6 100%(底)	DYR7/4	内外面赤 色調3YS-69赤褐色	
7	11		X05Y14II層	土壜器	陶A	122	3.8	5.8 100%(底)	DYR8/3	内外面赤 色調3YS-69赤褐色	
8	9	9	SD1082	X120Y15層	土壜器	陶A	124	3.9	5.2 48%	DYR7/4	内外面赤 色調3YS-69赤褐色
9	9	9	SD1143	X120Y12II層	土壜器	陶A	136	4.0	5.0 100%(底)	DYR7/4	内外面赤 色調3YS-69赤褐色
10	9		X119Y14II層	土壜器	陶A	134	4.1	5.4 100%(底)	DYR7/4	内外面赤 色調3YS-69赤褐色	
11	11	SD1082	X120Y13層	土壜器	陶A	136	5.0 100%(底)	DYR6/6	白色	全面赤 色調3YS-69赤褐色	
16-22	I ^a	11	SD1082	N65	土壜器	陶A		4.2 63%(底)	7.5YR6/6	白色	全面赤 色調3YS-69赤褐色
22	I ^b	11		X111Y14II層	土壜器	陶A	184	73	6.6 7%	DYR7/4	内外面赤 色調3YS-69赤褐色
H4	11	SD1082	X119Y14II層	土壜器	陶A	11.4	32%	DYR7/4	内外面赤 色調3YS-69赤褐色		
J5	11	SD1082	X120Y14II層	土壜器	陶A	130	41%	SYS5/6	明赤褐色	全面赤 色調3YS-69赤褐色	
J6	11	SP100(SH1)		土壜器	陶	126	8%	DYR7/4	内外面赤 色調3YS-69赤褐色		
J7	11	SP102(SH4-5)		土壜器	陶	144	10%	DYR7/4	内外面赤 色調3YS-69赤褐色		
12-22	J8	11	SD109	No28	土壜器	陶A	4.8 100%(底)	DYR6/4	内外面赤 色調3YS-69赤褐色		
12-22	J9	11	SD109	X05Y13II層	土壜器	陶B	7.6 100%(底)	DYR7/4	内外面赤 色調3YS-69赤褐色		
12-22	J10	11	SD109	No20	土壜器	陶B	7.2 100%(底)	7.5YR6/6	白色	二次被燒 全面赤 色調3YS-69赤褐色	

第12表 土器・陶磁器・土製品一覧(2)

種別	通名	分類	出土地点	種類	形態	法面(cm)	口径部 残存率	時期	施土色調	施土の特徴	備考	
22	27	11	SD1092	X119Y40 X120Y45	土陶器	皿B	7.0 70% (底)	9C	0YR6-4 12.5% 黄褐色	赤色系・赤色・黄褐色	油墨痕	
22	27	12	SD1092	X120Y45	土陶器	皿	136	13%	0YR6-4 12.5% 黄褐色	白色系・茶色	内外施彩・印本兩色	
23	27	12	SK953		土陶器	皿	126	16%	5YR6-6 12.5% 黄褐色	赤色系・白色・茶色		
24	12		X116Y6II層	土陶器	皿	138	11%	9C	0YR6-4 12.5% 黄褐色	赤色系・白色	油墨痕	
23	25	12	X105Y4II層	土陶器	羹	98	11%	9C	0YR6-4 12.5% 黄褐色	白色系・茶色	スズ付着	
26	12	SL100		土陶器	羹	108	11%	9C	0YR6-4 12.5% 黄褐色	白色系・茶色	スズ付着	
14-23	27	12	SL045	No2	土陶器	羹	136	17%	9C	0YR6-4 12.5% 黄褐色	白色系・茶色	スズ付着
23	28	12	X112Y4II層	土陶器	羹	142	10%	9C	7.5YR6-6 12.5% 黄褐色	赤色系・白色・茶色	スズ付着	
17-23	29	9	SD217(SN1)	X104Y36 X101Y3II層 X102Y3II層 X103Y3II層	土陶器	羹	136 109% (底)	6.0 109% (底)	9C	7.5YR6-6 12.5% 黄褐色	赤色系・白色・茶色	スズ付着
23	30	12	SL030		土陶器	羹	126	11%	9C	0YR6-4 12.5% 黄褐色	白色系・茶色	スズ付着
22	12	SL065		土陶器	羹	136	8%	9C	0YR6-4 12.5% 黄褐色	白色系・茶色	スズ付着	
16-23	37	12	SD1092	No4	土陶器	羹	128	12%	9C	7.5YR6-6 12.5% 黄褐色	赤色系・白色・石英	スズ付着
23	34	12	SP90(SR1)		土陶器	羹	142	9%	9C	0YR6-4 12.5% 黄褐色	白色系・茶色	スズ付着
35	12	SK953	X109Y4II層	X109Y4II層	土陶器	羹	134 29% (底)	1.54 5.8	9C	0YR6-4 12.5% 黄褐色	白色系・茶色	スズ付着
36	12	SK138		土陶器	羹	138	11%	9C	0YR6-6 12.5% 黄褐色	赤色系・白色	スズ付着	
37	12	SK48		土陶器	羹	123	22%	9C	7.5YR6-6 12.5% 黄褐色	白色系・茶色	スズ付着	
38	12	SP1007(SR5)		土陶器	羹	165	7%	10C	2.5YR6-3 12.5% 黄褐色	白色系・石英	スズ付着	
39	12	SD1092	X119Y44 SD1143	X119Y33 X120Y32	土陶器	皿	5.0 109% (底)	9C	0YR6-3 12.5% 黄褐色	白色系・茶色	スズ付着	
40	12		X09Y79II層	土陶器	羹	4.6 109% (底)	9C	0YR6-3 12.5% 黄褐色	白色系・茶色	スズ付着		
41	12		X116Y4II層	土陶器	羹	5.4 109% (底)	9C	7.5YR6-4 12.5% 黄褐色	白色系・茶色	スズ付着		
46-23	47	12	SK1111	Val	土陶器	羹	6.0 109% (底)	9C	0YR6-4 12.5% 黄褐色	白色系・茶色	スズ付着	
1-23	47	12	SH980	No24	土陶器	羹	5.2 109% (底)	8-9C 9-10C	7.5YR7-4 0YR7-3 12.5% 黄褐色	白色系・茶色	スズ付着	
23	44	12	SD1092	X118Y40 SD1143	土陶器	羹						
11-23	45	6-12	SH980	No38	土陶器	羹	250	23%	8C中間-底 0YR6-4 12.5% 黄褐色	赤色系・白色・石英・雲母		

第12表 土器・陶磁器・土製品一覧(3)

番号	遺物	分類	出土地点	種類	器種	法量(cm)	口径部 口径 底径	残存率	時間	施土色調	施土の特徴	備考
23	瓦瓶	瓦瓶	X103Y4II層	土陶器	甕	206	206	8%	8~9°C	DYR64	12.5%~9%黒褐色	赤色芯・白色外・母粒・石英
46	12	X113Y4II層	土陶器	甕		220	4%	8~9°C	7.5YR6.4	12.5%~9%黒褐色	赤色芯・白色外・石英	
47	12	X113Y4II層	土陶器	甕		196	28%	8~9°C	DYR63	12.5%~9%黒褐色	赤色芯・白色外・母粒	
11~24	48	12	SD680	Xa27 Nc28	土陶器	甕	190	28%	8~9°C	DYR64	12.5%~9%黒褐色	赤色芯・白色外・石英
13~24	49	12	SH10223	Nc10 Nc11	土陶器	甕	196	16%	9C	7.5YR6.6	12.5%~9%黒褐色	赤色芯・白色外・石英
24	50	12	SD5855	X115Y4II層	土陶器	甕	232	9%	8~9°C	DYR63	12.5%~9%黒褐色	赤色芯・白色外・母粒
17~24	51	12	X115Y4II層	土陶器	甕	192	9%	9C	DYR64	12.5%~9%黒褐色	赤色芯・白色外・石英	
24	52	13	SD121(SN1)	X06744	土陶器	甕	184	7%	9~10°C	7.5YR6.4	12.5%~9%黒褐色	赤色芯・白色外・石英
24	53	13	X119Y4II層	土陶器	甕	198	18%	9~10°C	7.5YR6.6	12.5%~9%黒褐色	赤色芯・白色外・石英	
54	13	X120Y4II層	土陶器	甕		212	17%	9~10°C	7.5YR6.4	12.5%~9%黒褐色	赤色芯・白色外・石英	
55	13	SD1082	X119Y44	土陶器	甕	224	22%	9~10°C	7.5YR6.4	12.5%~9%黒褐色	赤色芯・白色外・石英	
16~24	56	13	SD1082	%1	土陶器	甕	224					
24	57	13	X114Y4II層	X115Y4II層	土陶器	甕	252	10%	8°C~半	DYR64	12.5%~9%黒褐色	赤色芯・白色外・石英
58	13	X113Y4II層	土陶器	甕		264	8%	8~9°C	DYR63	12.5%~9%黒褐色	赤色芯・白色外・石英	
59	13	SKS137	X116Y4II層	土陶器	甕	250	8%	9~10°C	DYR64	12.5%~9%黒褐色	赤色芯・白色外・石英	
12~24	60	13	SD30	X116Y4II層	土陶器	甕	234	50%	10C	7.5YR6.4	12.5%~9%黒褐色	赤色芯・白色外・石英
24	61	13	SP000(SD1)	中層	土陶器	甕	248	6%	9~10°C	7.5YR6.4	12.5%~9%黒褐色	赤色芯・白色外・石英
12~24	62	13	SD300	%a4	土陶器	甕	256	10%	9~10°C	DYR64	12.5%~9%黒褐色	赤色芯・白色外・石英
24	63	13	SP102(SB4.5)	X116Y4II層	土陶器	甕	242	4%	9~10°C	DYR64	12.5%~9%黒褐色	赤色芯・白色外・石英
25	64	13	SKS126	X107Y4II層	土陶器	甕	356	10%	8~9°C	DYR63	12.5%~9%黒褐色	赤色芯・白色外・石英
65	13	X107Y4II層	土陶器	甕		336	5%	9C	7.5YR6.4	12.5%~9%黒褐色	赤色芯・白色外・石英	
66	13	X112Y4II層	土陶器	甕		302	9%	9C	7.5YR6.6	12.5%~9%黒褐色	赤色芯・白色外・石英	
67	13	X105Y4~5II層	土陶器	甕		308	8%	9C	7.5YR6.4	12.5%~9%黒褐色	赤色芯・白色外・石英	
13~25	68	13	SH1023	%a1	土陶器	甕	348	9%	9C	DYR64	12.5%~9%黒褐色	赤色芯・白色外・石英
16~25	69	13	SD1082	Nc8 Nc9	土陶器	甕	372	12%	9~10°C	DYR64	12.5%~9%黒褐色	赤色芯・白色外・石英
25	70	13	X107Y4II層	土陶器	甕	370	9%	10C	DYR63	12.5%~9%黒褐色	赤色芯・白色外・石英	

第12表 土器・陶磁器・土製品一覧(4)

種別	名前	性質	出土地点	種類	口径(cm)	底面 形状	口縁部 残存率	時期	施土色調	施土の特徴	備考	
26	72	13	SP1130(SII2)	土器	408	7%	8~9°C	BY1864	12.5%・黒褐色	赤色・白色・石英		
13~26	72	14	SH1023	土器	428	7%	9C	75Y86.6	橙色	赤色・白色・石英		
26	73	14	SP1023(SII4+5)	土器	408	8%	9~10°C	25Y76.3	12.5%・黒色	白色・石英・雲母	スズ付着	
74	14	X111Y11II層	土器	420	12%	10C	75Y86.4	12.5%・黒色	白色・石英	スズ付着		
		X116Y15II層										
25	14	X105Y43~45層	土器	223	7%	9~10°C	BY1864	12.5%・黒褐色	赤色・白色			
26	14	SH1030	土器	234	12%	9~10C	BY186.4	12.5%・黒褐色	赤色・白色			
77	14	X115Y41II層	土器	252	12%	9~10C	75Y86.4	12.5%・黒色	赤色・白色			
28	14	X116Y41II層	黑色土器	402	88% (底)	8C~9C	BY186.4	12.5%・黒褐色	白色・石英・雲母	外彌・單面土彩		
		X087Y43II層										
29	14	SD1082	黑色土器	128	39	5.8 18% (底)	9C	25Y76.4	12.5%・黒色	白色		
30	14	SD1092	黑色土器	(146)	42	5.0 91% (底)	9C	BY186.4	12.5%・黒褐色	赤色		
31	14	SD1143	X120Y45II層	黑色土器	170	12%	8~9°C	BY186.4	12.5%・黒色	白色・石英・雲母		
32	14	SP151(SII1)	X116Y41II層	黑色土器	180	18%	9C	BY186.4	12.5%・黒褐色	赤色・白色	油漬痕	
33	14	X120Y45II層	黑色土器	198	8%	9C	BY187.5	12.5%・黒褐色	赤色・白色			
34	14	SD1143	X120Y45II層	黑色土器	—	5.6 30% (底)	9C	BY186.4	12.5%・黒褐色	石英		
35	14	X090Y5II層	瓶	112	3.3	28%	8C~9C (底)	SY6/2	灰オリーブ色	白色	86%灰化	
36	14	X025Y52II層	瓶	114	3.2	8.0 7% (底)	SY6/4	灰	白色・滑附	65%灰化		
37	9	X091Y30II層	瓶	110	3.5	7.0 7% (底)	SY6/2	灰オリーブ色	白色・滑附・合計	外底滑附(乙二二環セ)		
38	14	SK065	瓶	118	3.8	9.4 35% (底)	BY186.3	12.5%・黒褐色	赤色・白色			
17~27	89	14	SD383(SSNA)	X097Y36	瓶	118	3.4	8.9~9C	SY5/2	灰オリーブ色	白色	油漬痕
27	90	14	SK082	瓶	128	3.6	8.4 7% (底)	25Y76.2	灰褐色	白色・滑附		
91	9	X120Y42II層	瓶	129	3.7	7.6 30% (底)	BY186.4	12.5%・黒褐色	赤色・白色	油漬痕		
92	9	SH085	瓶	114	3.7	8.8 15% (底)	25Y76.3	12.5%・黒色	白色			
93	14	SH080	瓶	122	1.1%	8.9~9C	25Y76.2	灰褐色	白色			
94	14	SP101(SII1)	瓶	—	7.1 42% (底)	8~9C	SY6/3	12.5%・黒褐色	赤色・白色・滑附			

第12表 土器・陶磁器・土製品一覧(5)

番号	分類	文種	遺物	出土地点	種類	器種	法量(cm)			口縁部 残存率	時期	施土色調	施土の特徴	備考
							口径	體高	底径					
17-27	碗	10 SD1 SK872(S3)	XGIV46 XG5746	X120Y4II層 X120Y4II層 X120Y4II層	瓶	杯A	122	31	74 78% (89cm)	8-9C	25Y7/2	灰黄色	白色粘・砂粒	油漬痕
27	碗	14 SD1 SK873	XGIV46 XG5746 XG5747	X120Y4II層 X120Y4II層 X120Y4II層	瓶	杯A	120	29	80 73% (86cm)	8-9C	25Y7/2	灰オリーブ色	白色粘・砂粒	
57	碗	10 SK138	XGIV46 XG5746	X120Y4II層 X120Y4II層	瓶	杯A	122	31	71 66% (86cm)	9C	25Y7/2	灰黄色	白色粘	
58	碗	14 SD1082	XGIV46 XG5743 XG5745	X120Y4II層 X120Y4II層	瓶	杯A	128	39	74 70% (86cm)	8-9C	25Y7/2	灰黄色	白色粘・砂粒・骨片	
60	碗	14 SD1082	XGIV46 XG5742	X120Y4II層 X120Y4II層	瓶	杯A	126	31	73 78% (90cm)	9C	25Y6/3	オリーブ黄色	白色粘・石英	体部外墨削り・油漬痕
61	碗	14 SP90(SB1)	XGIV46 XG5743 XG5745 XG5746	X120Y4II層 X120Y4II層 X120Y4II層 X120Y4II層	瓶	杯A	126	31	80 72% (89cm)	9-10C	25Y6/3	オリーブ黄色	白色粘・石英・石英	口縁部外墨削り・油漬痕
62	碗	14 SD1082	XGIV46 XG5743 XG5744 XG5745 XG5746	X120Y4II層 X120Y4II層 X120Y4II層 X120Y4II層 X120Y4II層	瓶	杯A	124	30	68 51% (86cm)	8-9C	25Y6/6	褐色	白色粘	外底剥離等□
63	碗	15 SD1082	XGIV46 XG5740	X120Y4II層 X120Y4II層	瓶	杯A	122	28	65 59% (86cm)	9-10C	25Y6/1	灰	白色粘・黑色粒	
64	碗	10 SD1082	XGIV46 XG5740	X120Y4II層 X120Y4II層	瓶	杯A	124	30	68 51% (86cm)	9-10C	25Y5/4	灰	白色粘・骨片	
65	碗	15 SK137	XGIV46 XG5743	X120Y4II層 X120Y4II層	瓶	杯A	124	32	74 72% (86cm)	9-10C	25Y6/4	オリーブ黄色	赤色粘・白色粘・石英	褐色化
16-27	碗	15 SD1143	No.14 XGIV44	X120Y4II層 X120Y4II層	瓶	杯A	129	32	70 50% (86cm)	9-10C	25Y6/2	オリーブ色	赤色粘・白色粘	
27	碗	15 SD1143	XGIV44	X120Y4II層	瓶	杯A	122	30	66 48% (86cm)	9-10C	25Y6/2	オリーブ色	白色粘・砂粒	10%・似芯
68	碗	15 SD1143	XGIV44	X120Y4II層	瓶	杯A	118	32	58 46% (86cm)	9-10C	25Y6/2	オリーブ色	白色粘・砂粒	10%・似芯
69	碗	15 SD1143	XGIV44	X120Y4II層	瓶	杯A	126	28	78 74% (86cm)	9-10C	25Y5/2	オリーブ色	白色粘・砂粒	油漬痕
70	碗	15 SD1143	XGIV44	X120Y4II層	瓶	杯A	130	28	70 31% (86cm)	9C-9-10C	25Y5/2	灰白色	白色粘・石英	
71	碗	15 SD1143	XGIV44	X120Y4II層	瓶	杯A	126	30	68 57% (86cm)	9C-9-10C	25Y5/1	灰	白色粘・石英	
72	碗	15 SD1143	XGIV45 XG5744 XG5745 XG5746	X122Y4II層 X122Y4II層 X122Y4II層 X122Y4II層	瓶	杯A	98	37	69 53% (86cm)	9C-9-10C	25Y5/3	オリーブ黄色	白色粘	織入地合

第12表 土器・陶磁器・土製品一覧(6)

種別	分類	名前	出土地点	種類	直徑(cm)	底面	口縁部 既存率	底径 既存率	時期	施土色調	施土の特徴	備考
27	I3	15 SK5963	XG3Y39II層	氣泡器	里	126	16%	9-10C	25Y7.4	灰白色	白色灰・黑色灰	漆油痕 鉛入混合
I4	15	XG3Y39II層	氣泡器	不規	152	10%	古代	25Y7.1	灰灰色	-	-	
I5	15	XG3Y46II層	氣泡器	里	214	7%	古代	SYG4	灰色	白色灰	-	
I6	15	XG3Y43II層	氣泡器	H-B面	168	48	8-9C	25Y7.2	灰白色	白色灰	-	
I7	15	XG3Y41II層	氣泡器	つまみH24	164	41	8-9C	25Y6.2	灰黄色	白色灰・砂粒	-	
I8	15	XG3Y39II層	氣泡器	つまみH23	142	15%	9C	SYG2	灰オリーブ色	白色灰・黑色灰	-	
I9	15	XG3Y38II層	氣泡器	H-B面	137	14%	9C	25Y7.1	灰白色	白色灰	-	
I10	15	XG3Y38II層	氣泡器	H-B面	136	15%	9-10C	SYG4	灰色	白色灰・砂粒	12Y11:灰心	
I21	15	XG3Y38II層	氣泡器	H-B面	134	31	9C	25Y6.1	灰白色	白色灰・砂粒・石英	12Y11:灰心 鉛入混合	
I22	10	XG3Y39II層	氣泡器	つまみH21	134	25%	9C	25Y7.2	灰白色	白色灰・石英	-	
I23	15	SD1062	XG3Y45-	氣泡器	H-B面	130	9%	9C	25Y6.1	灰白色	白色灰・黑色灰	上末期
I24	15	SK5495	XG3Y41II層	氣泡器	H-B面	128	22	10C	SYG4	灰色	白色灰・黑色灰	-
I25	15	XG3Y38II層	氣泡器	H-B面	124	19%	9C	25Y6.4	12-15:褐色	白色灰・小塊状含	-	
I26	15	XG3Y38II層	氣泡器	H-B面	122	30%	8C8-9C前	25Y5.2	灰灰黃色	白色灰	-	
I27	15	SK680	XG3Y45-	氣泡器	H-B面	120	41%	8-9C	SYG4	灰色	白色灰	-
I28	15	SD11	XG3Y49	氣泡器	H-B面	121	99%	9C	25Y6.3	12-15:褐色	白色灰	-
I29	10	XG3Y40II層	氣泡器	H-B面	119	27	9C	SYG4	灰色	白色灰・砂粒・石英	-	
I30	10	XG3Y41II層	氣泡器	つまみH7	116	15%	9C	25Y6.3	12-15:褐色	赤色灰・白色灰	-	
I31	15	SK5179	XG3Y46II層	氣泡器	H-B面	118	25	83%	SYG4	灰色	白色灰	外表面削「」
I32	10	XG3Y41II層	氣泡器	つまみH8	116	8%	9C	SYG4	灰色	白色灰	-	
I33	15	XG3Y38II層	氣泡器	H-B面	116	50%	9C	SYG4	灰色	白色灰	-	
I34	15	XG3Y39II層	氣泡器	H-B面	116	9%	9C	SYG4	灰色	白色灰	-	
I35	15	SK5179	XG3Y46II層	氣泡器	H-B面	114	28	9C	25Y6.2	灰黄色	白色灰	-
I36	16	XG3Y44II層	氣泡器	つまみH20	110	28	15%	9C	SYG2	灰オリーブ色	白色灰	-
I37	16	XG3Y44II層	氣泡器	つまみH28	109	18	6%	10C	SYG4	灰色	白色灰・黑色灰 上末期	
I38	16	XG3Y44II層	氣泡器	H-B面	140	54	70-80%(未)	25Y6.4	12-15:褐色	赤色灰・白色灰・黃	-	
I39	16	SK680	XG3Y38II層	氣泡器	H-B	124	48	74.9% 91.8% (未)	25Y7.2	灰黄色	白色灰	ス付青

第12表 土器・陶磁器・土製品一覽(7)

番号	種類	形質	出土場所	種類	器種	口径(cm)	高さ(cm)	口径部 残存率	時期	施土色調	施土の特徴	備考	
28	瓦瓶	圓底	X1121Y4II層	氣泡器	杯B	11.2	4.1	74 (66%実)	8~9C	51S1	灰色	白色粒・石英	
H1	16		X101Y4II層	氣泡器	杯B	11.0	3.9	68 (1%実)	8~9C	NS-0	灰色	白色粒	
I6-28	H2	10	SD1062	Nc21	氣泡器	杯B	10.8	4.2	64 (39%実)	8~9C	25Y5.1	黃灰色	赤色粒・白色粒
28	H3	16	SD1143	X120Y42	氣泡器	杯B	10.0	3.9	60 (2%実)	9C	25Y6.3	12.5%灰	白色粒
H4	16		X114Y51層	氣泡器	杯B	6.4	3.88 (0.8%実)	8~9C	7.5Y5.1	灰色	白色粒		
I45	16	SP49(SB1)	X117Y4II層	氣泡器	杯B	6.8	3.06 (0.8%実)	8~9C	51Y4	灰色	白色粒・石英・砂粒		
I46	16	SK165	X125Y4II層	氣泡器	瓶瓶	6.6	3.86 (0.8%実)	8~9C	51Y4	灰色	白色粒・石英・砂粒		
H47	16		X120Y44	氣泡器	瓶瓶	8.8		15%	古代	25Y7.1	灰白色	白色粒	
I48	16	SD1143	X120Y44	氣泡器	瓶瓶	(10.8)		17%	古代	25Y6.2	灰黃色	白色粒	
I49	16	SD109	Nc35	X113Y4II層	氣泡器	6.9	3.9 (0.8%実)	8~9C	25Y6.2	灰黃色	白色粒		
I50	10	SD109	Nc33	X113Y4II層	氣泡器	10.8		40%	8~9C	25Y6.2	灰黃色	白色粒	
I51	16		X117Y51層	氣泡器	从耳瓶				9C	25Y5.1	黃灰色	白色粒	
I52	16	SD1143	X120Y45	氣泡器	瓶	9.6		38%	古代	25Y6.2	灰黃色	白色粒・黑色粒	
I53	16		X121Y4II層	氣泡器	瓶	(11.4)		22%	8~9C	25Y6.2	灰黃色	白色粒	
I54	16	SP1065(SB4)	X119Y4II層	氣泡器	瓶	13.4		12%	古代	25Y6.2	灰黃色	白色粒・黑色粒	
I55	17	SK1147	Nc1	X115Y4II層	氣泡器	瓶	9.4		80%	古代	51S1	灰色	白色粒・沙粒
I56	11	SD109	X115Y4II層	氣泡器	瓶	21.6		18%	8~9C	NS-0	灰色	白色粒・骨粒	
I57	17		X115Y4II層	氣泡器	瓶	14.0		18% (0.8%実)	古代	25Y6.2	灰黃色	白色粒	
I58	17	SD1082	Nc22	X120Y43	氣泡器	瓶	(7.6)			25Y6.2	灰黃色	白色粒・砂粒	
			X120Y47II層										

第12表 土器・陶磁器・土製品一覧(8)

種別	通番	分類	遺物	出土地点	種類	形態	法面(m)	断面	口縁部 残存率	時期	施土色調	施土の特徴	備考		
16-29	I59	17	SD1092	%3-X12-X12	X128-X129	X12-X12	直筒	口延	古代	BYRS-1	陶灰色	白色灰-陶灰-砂粒			
				X128-X129	X128-X129	X12-X12									
30	I60	17	SP0702(SB4-5)	X165-Y166	X165-Y166	X165-Y166	直筒	口延	19%	古代	2575/2	陶灰黄色	白色灰		
				X165-Y166	X165-Y166	X165-Y166									
12-20	I61	11	SB303	No6-N27	X153-Y154	X153-Y154	直筒	口延	196	古代	8-9C	2575/2	灰黄色		
				X153-Y154	X153-Y154	X153-Y154									
17-30	I62	17	SD1060(SN1)	X105-Y106	X105-Y106	X105-Y106	直筒	口延	300	6%	古代	2576/2	灰黄色		
				X105-Y106	X105-Y106	X105-Y106									
30	I63	17	SB560	X101-Y102	X101-Y102	X101-Y102	直筒	口延	150	24	6.8~41%	9C	2576/2	灰黄色	
				X101-Y102	X101-Y102	X101-Y102									
I65	11			X04-Y148	X04-Y148	X04-Y148	直筒	口延	114	8% (E)	9C	2577/3	浅黄色	-	
I66	17			X05-Y154	X05-Y154	X05-Y154	直筒	口延	9C						
I67	17			X06-Y159	X06-Y159	X06-Y159	直筒	口延	9C						
I68	17			X06-Y159	X06-Y159	X06-Y159	直筒	口延	102	4.2	5.4~30%	9C (E)	2578/1	灰白色	
				X06-Y159	X06-Y159	X06-Y159									
31	I69	18		X104-Y110	X104-Y110	X104-Y110	直筒	口延	130	26	8%	SD5-4	12-15%灰褐色	白色灰	
I7-31	I70	18	SD1	X08-Y48	X08-Y48	X08-Y48	直筒	口延	128	7%	12C-末-1世	2578/4	12-15%灰褐色	白色灰	
38	I78	17		X05-Y54	X05-Y54	X05-Y54	直筒	口延	128			SD5-4	12-15%灰褐色	N B 1 級	
I79	17			X08-Y48	X08-Y48	X08-Y48	直筒	口延	140	10%	12C-末-1世	2578/4	12-15%灰褐色	赤色灰-石英-漂母	
I80	17	SK517		X02-Y47	X02-Y47	X02-Y47	直筒	口延	126	15%	13-14C	2578/4	12-15%灰褐色	N C 1 級	
I81	17			X02-Y47	X02-Y47	X02-Y47	直筒	口延	130	26	8%	13-14C	2578/4	12-15%灰褐色	N C 1 級
I82	17			X09-Y12	X09-Y12	X09-Y12	直筒	口延	74	20%	12C 斜平-14C	2578/4	12-15%灰褐色	N D II 級	
I83	17			X03-Y32	X03-Y32	X03-Y32	直筒	口延	74	1.8	21%	12C 斜平-14C	2578/4	12-15%灰褐色	N D II 級
I84	17	SB20-(SB9)		X02-Y47	X02-Y47	X02-Y47	直筒	口延	82	22%	12C 斜平-14C	2578/4	12-15%灰褐色	赤色灰-漂母-滑石	
I85	11	SK673		X02-Y47	X02-Y47	X02-Y47	直筒	口延	84	1.8	90%	12C 斜平-14C	2578/4	12-15%灰褐色	赤色灰-白石-石英-漂母
I86	17	SP06-(SB10)		X02-Y47	X02-Y47	X02-Y47	直筒	口延	88	1.5	33%	13-14C	2578/4	12-15%灰褐色	赤色灰-漂母
I7-38	I87	17	SD66-(SN1)	X009-Y02	X009-Y02	X009-Y02	直筒	口延	88	1.8	44%	12C 斜平-14C	2578/4	12-15%灰褐色	赤色灰-白石-石英
38	I88	11		X05-Y22	X05-Y22	X05-Y22	直筒	口延	88	1.6	30%	13-14C	2578/2	灰白色	赤色灰-白石-石英
I89	17			X04-Y22	X04-Y22	X04-Y22	直筒	口延	90	1.8	13%	13-14C	2578/4	灰白色	赤色灰-白石-漂母
I90	17			X07-Y22	X07-Y22	X07-Y22	直筒	口延	96	1.5	13%	12C 斜平-14C	2578/4	12-15%灰褐色	漂母-白石-漂母
I91	17			X09-Y22	X09-Y22	X09-Y22	直筒	口延	108	1.8	27%	13-14C	2578/6	漂母	N D II 級

第12表 土器・陶磁器・土製品一覽(9)

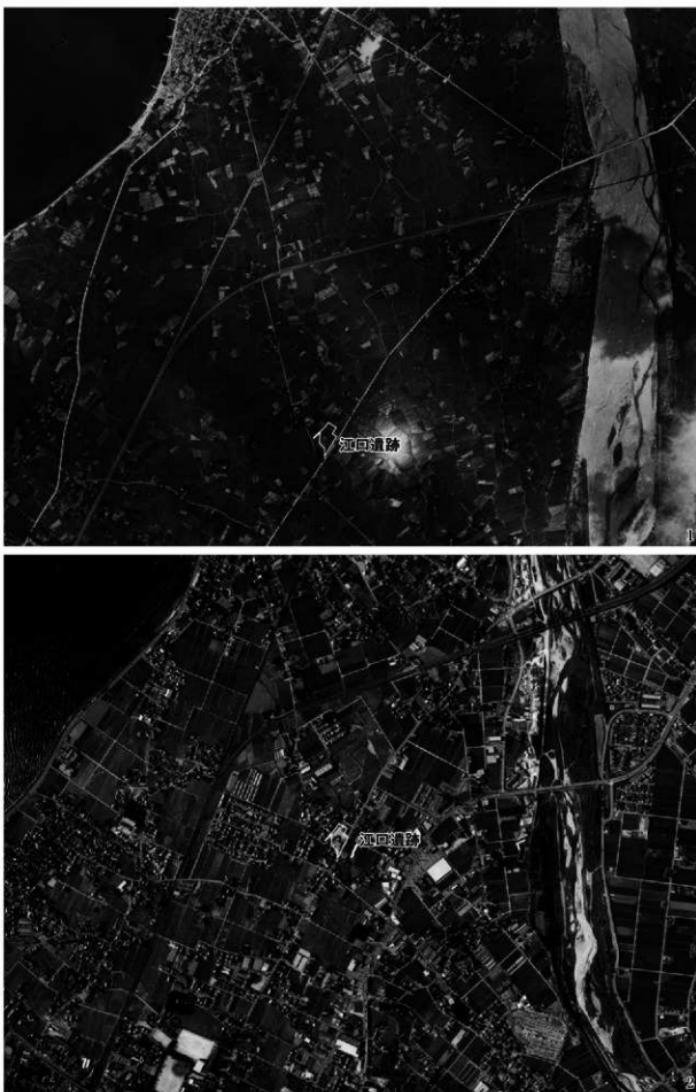
件名	物種	分類	出土地點	種類	器種	法量(cm)	口径 口徑	底高 底径	口底部 残存率	時間	施土色調	施土の特徵	備考
138	瓦片	陶片	X104Y1II層	中国製青釉	碗	180			9%	D期12C中層	SV6.1		
139	17									II期13C末1- 2W(期)	灰色	青釉輪 輪から5%~7%+ 鐵氣泡の青釉輪	-4箱
140	18		X107Y3II層	欧洲	鉢	176			11%	II期13C末1- 2W(期)	SV6.1		
141	18	SPT6/SB9	X107Y3II層	欧洲	鉢	340			10%	II期13C末1- 2W(期)	25V7.2		
142	18		X106Y5II層	欧洲	鉢	342			10%	II期13C末1- 2W(期)	SV6.1		
143	18	SPT2/SB9	X103Y4II層	欧洲	鉢		114	47%		II期4- 5W(期)	25V7.2		
144	18		X105Y4II層	欧洲	鉢					II期13C末1- 2W(期)	25V6.1		
145	18		X105Y4II層	欧洲	鉢					II期13C末1- 2W(期)	25V6.1		
146	18	SK46		欧洲	片口鉢					II期13C末1- 2W(期)	25V6.1		
147	18		X102Y5II層	欧洲	鉢					II期13C末1- 2W(期)	25V6.1		
148	18		X105Y4II層	欧洲	鉢					II期13C末1- 2W(期)	25V6.1		
149	18		X102Y5II層	欧洲	鉢					II期13C末1- 2W(期)	25V6.1		
150	18		X105Y4II層	欧洲	鉢					II期12C中層 後-13C初 頭	25V5.1		
151	18		X102Y4II層	欧洲	皿					II期13C末1- 2W(期)	25V5.1		
			X109Y3II層										

第13表 石製品一覽

件名	物種	遺物	遺構	出土地點	種類	材質	長さ	幅	厚さ	法量(cm ³)	重さ	備考
17-31	17	18	SD62(SN1)	X99Y35	砾石	砂岩	(6.5)	5.0	3.0	159.91	塊状	
31	172	18		X102Y4II層	砾石	粘板岩	(7.9)	6.4	2.1	115.54	住上底	紙面3面
	173	18		X103Y5II層	砾石	燧狀岩	(9.0)	3.1	2.8	81.44	中底	紙面3面

第14表 金屬製品一覽

件名	物種	遺物	遺構	出土地點	種類	長さ	幅	厚さ	法量(cm ³)	重さ	備考
31	174	18		X106Y5II層	釘	(7.0)	1.6	1.5	17.33		
	175	18		X115Y4II層	釘	(3.9)	0.9	0.8	3.59		
	176	18	SK437		鉗	2.8				1.2	7.35
	177	18		X112Y3II層	鉗	4.0	3.9	2.6	47.48		



航空写真

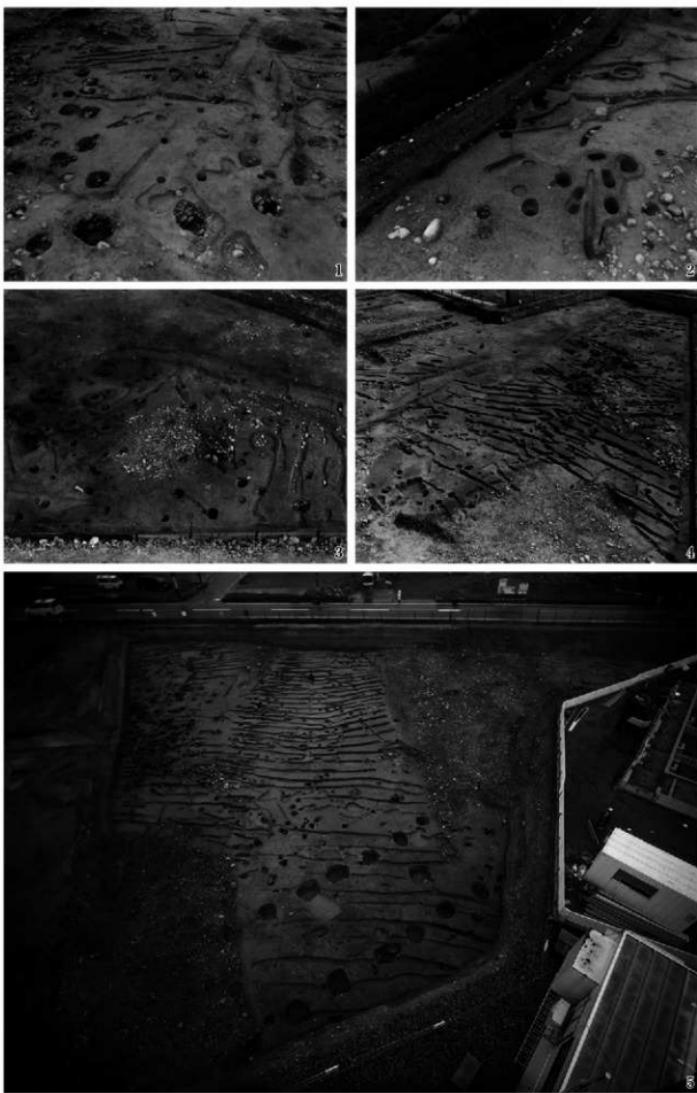
1. 1946年7月 米軍撮影 2. 2007年5月 国土地理院撮影

図版2



全景

1. A1 地区全景(北から) 2. A2 地区全景(北から)



掘立柱建物・柱穴列

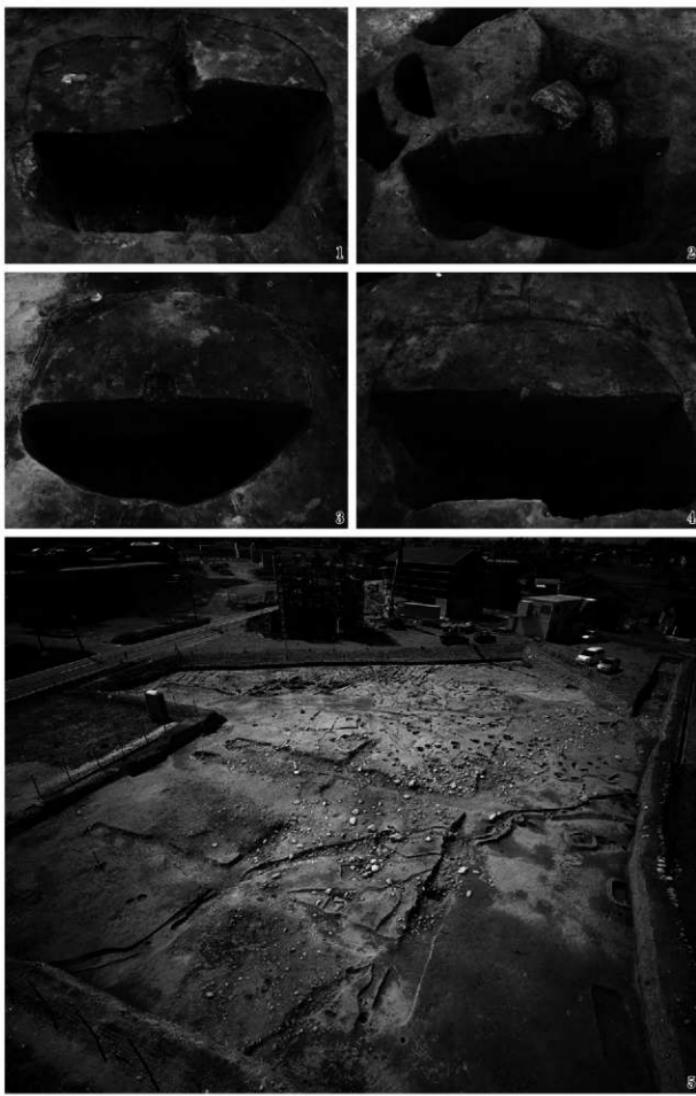
1. SB2・SB3（西から）
2. SB5・SB6・SB7（南から）
3. SB9・SB10・SB12・SB13（南から）
4. SB11・SB14（西から）
5. SB1・SA1・SA2（西から）

図版 4



掘立柱建物

1. SB2 SP977 (南から)
2. SB2 SP1027 (東から)
3. SB2 SP1036 (東から)
4. SB2 SP1046 (西から)
5. SB2 SP1050 (北東から)
6. SB2 SP1078 (西から)
7. SB2 SP1171 (南から)
8. SB8 (北東から)



掘立柱建物・溝

1. SBI SP100 (南西から)
2. SBI SP115 (南東から)
3. SBI SP135 (東から)
4. SBI SP150 (南西から)
5. SDI092・SDI128・SDI139・SDI140・SDI141・SDI143・SDI144・SDI146 (北から)

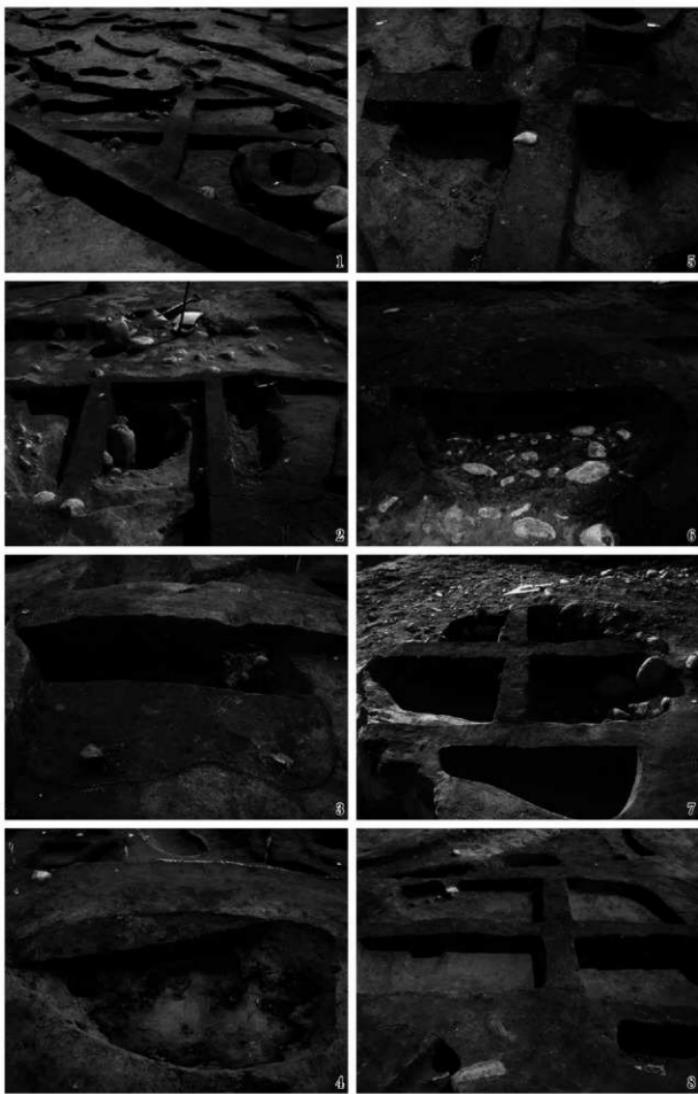
図版 6



竪穴建物

1. SI1680 (北西から)
2. SI1680 土器器 (45) 出土状況 (北西から)
3. SI1930 土器出土状況 (南西から)
4. SI1045 (北西から)
5. SI1930・SI1985・SI1100・SI1023・SI1045 (北東から)

図版 7



竪穴建物・土坑

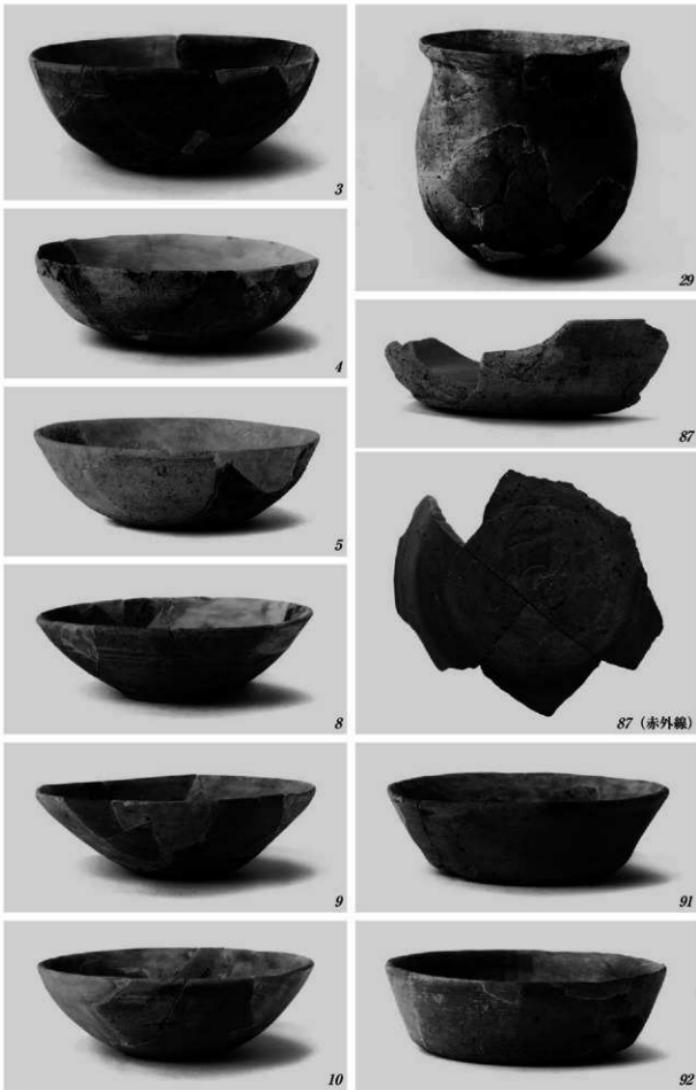
1. SI985 (南から) 2. SI1045 (北から) 3. SK137 (南西から) 4. SK430 (北東から) 5. SK662 (北東から)
6. SK708 (北西から) 7. SK932 (東から) 8. SK965 (南西から)

図版 8



烟・落ち込み

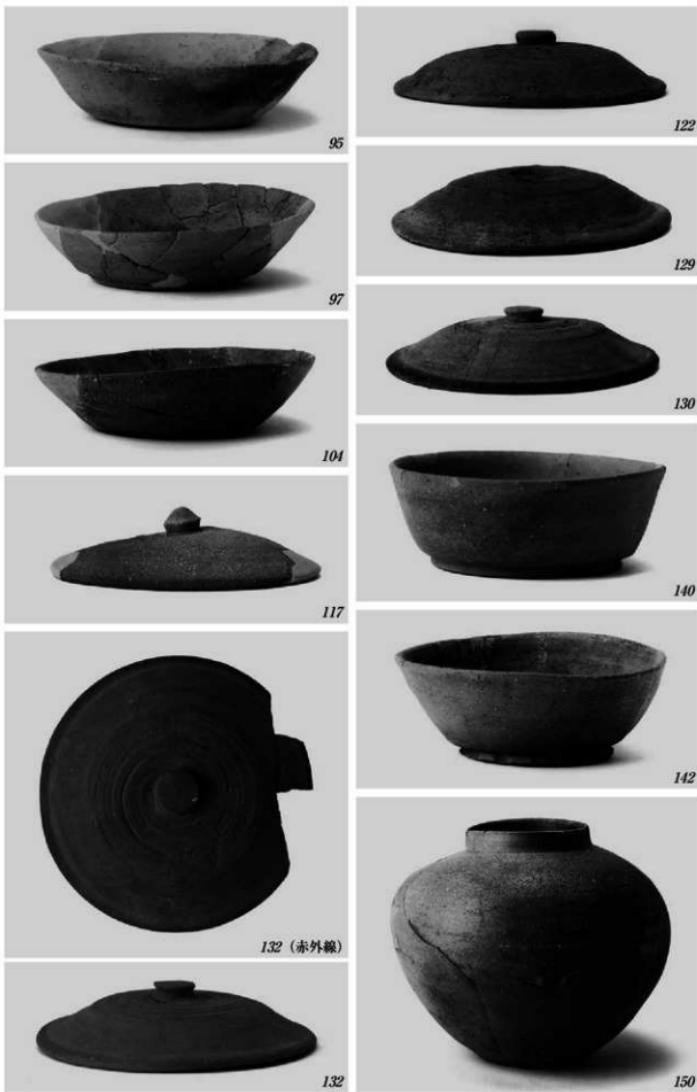
1. SN1・SN2・SN3（西から）
2. SN1・SN2・SN3（北東から）
3. SN4（南西から）
4. SN5（北から）
5. SN1・SN2・SN3・SN4・SD1（東から）



土器

SI1985 (92) SDI092 (3) SDI092・SDI143 (8) SDI092・SDI143・SDI111 (9) SN1 (29) SK179 (5) 包含層

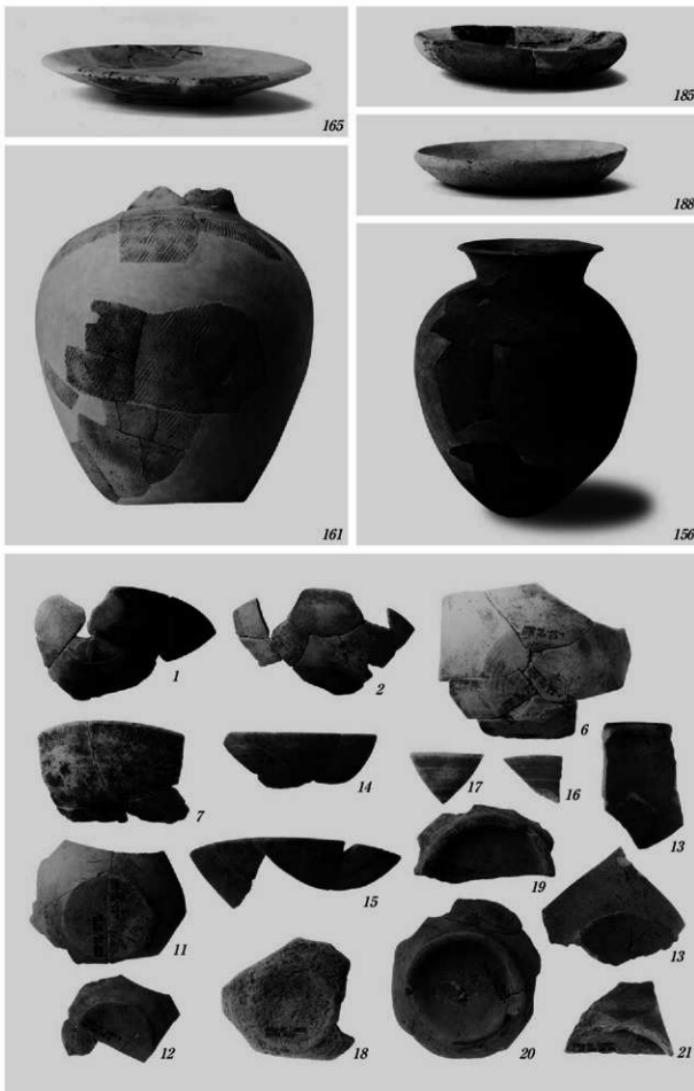
図版 10



土器

SI930 (150) SI1045 (117) SD1092 (104・142) SD1 (129) SD1・SN1・SK179 (95) 包含層

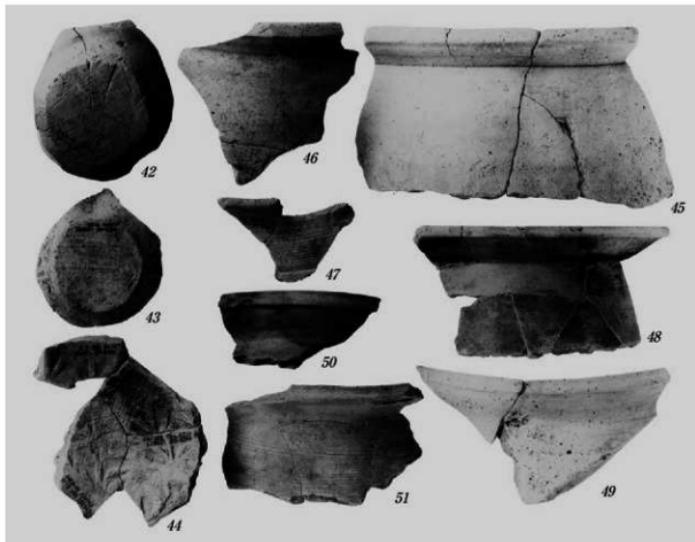
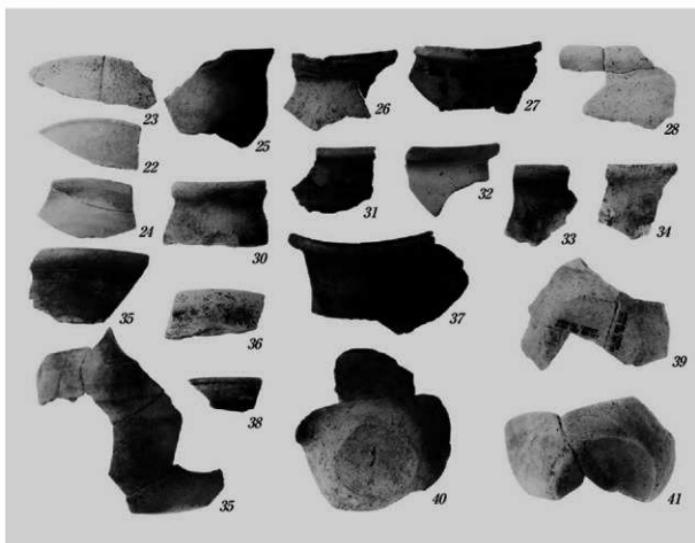
图版 11



土器・陶器

SB1 SP100 (16) SB4 · SB5 SP1073 (17) SI930 (18 · 20 · 156 · 161) SD1092 (1 · 2 · 11 · 12)
SD1092 · SD1143 (14 · 15 · 21) SK673 (185) 包含層

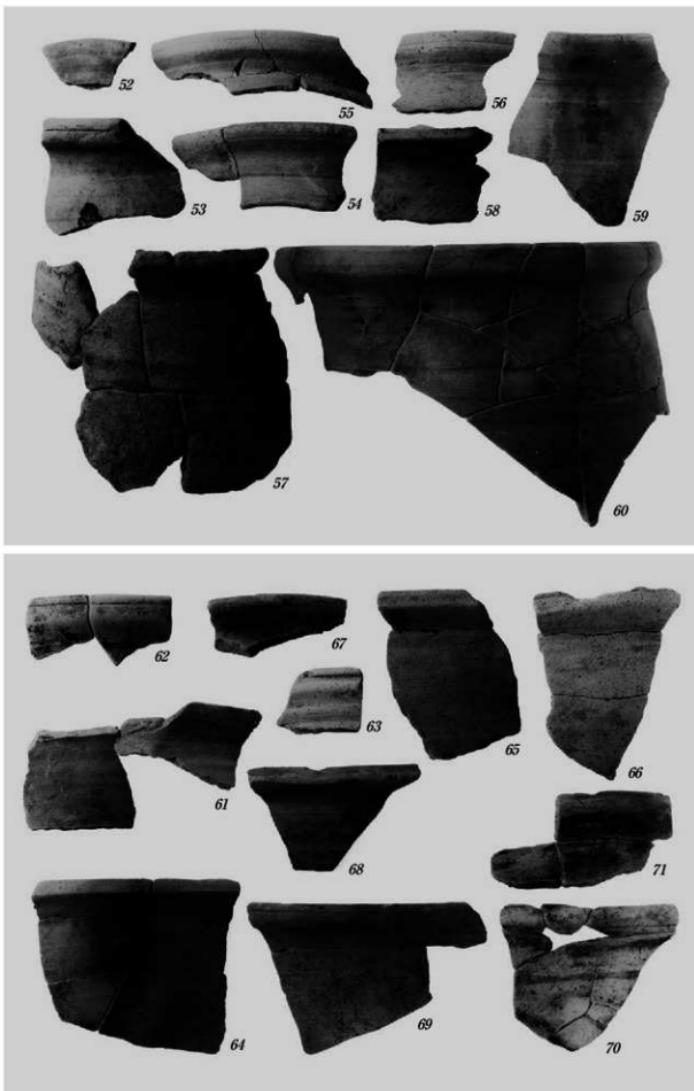
図版 12



土器

SB1 SP80 (34) SB5 SP1097 (38) SI680 (43·45·48) SI1930 (31) SI1985 (32·50) SI1023 (49) SI1045 (27)
SI1100 (26) SD1092 (22·33) SD1092·SD1143 (39·44) SK48 (37) SK138 (36) SK951 (35) SK953 (23) SK1111 (42)
包含層

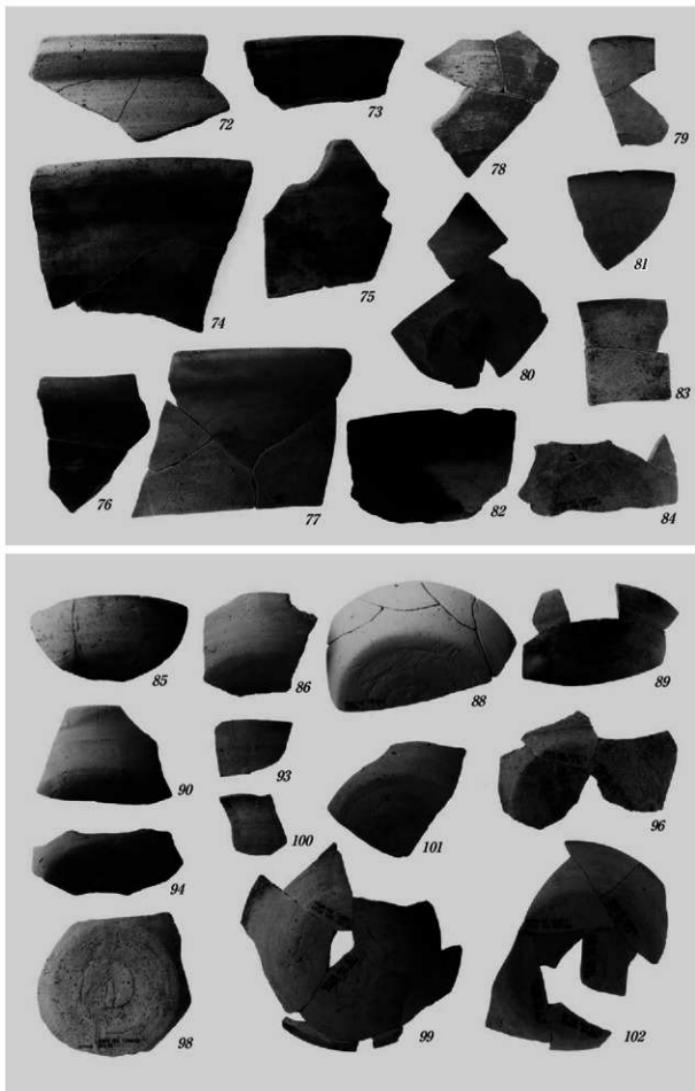
图版 13



土器

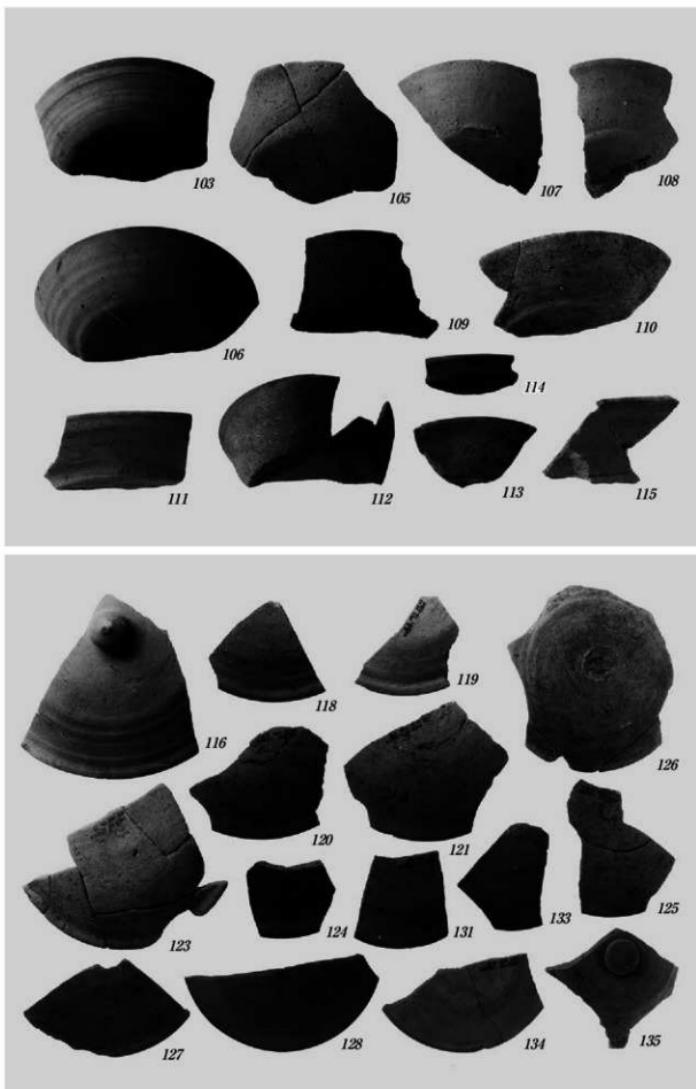
SB1 SP90 · SP149 (61) SB2 SP150 (71) SB4 · SB5 SP1073 (63) SI930 (60 · 62) SI1023 (68) SN1 (52)
SD1092 (55 · 56 · 69) SK137 (59) SK1126 (64) 包含層

图版 14



土器

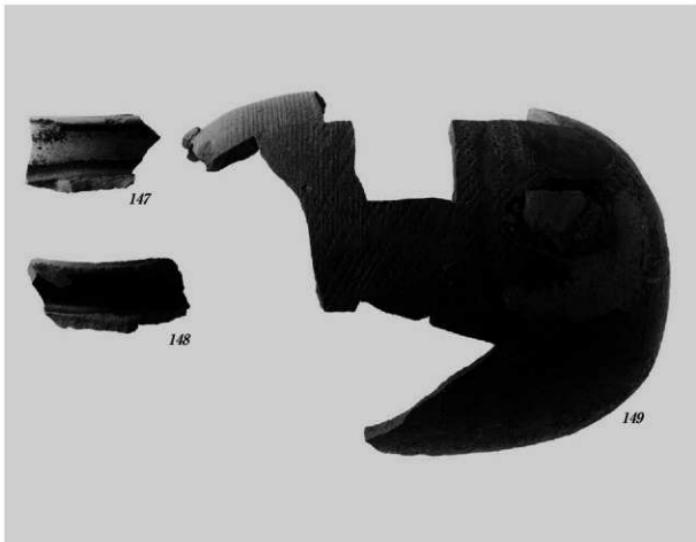
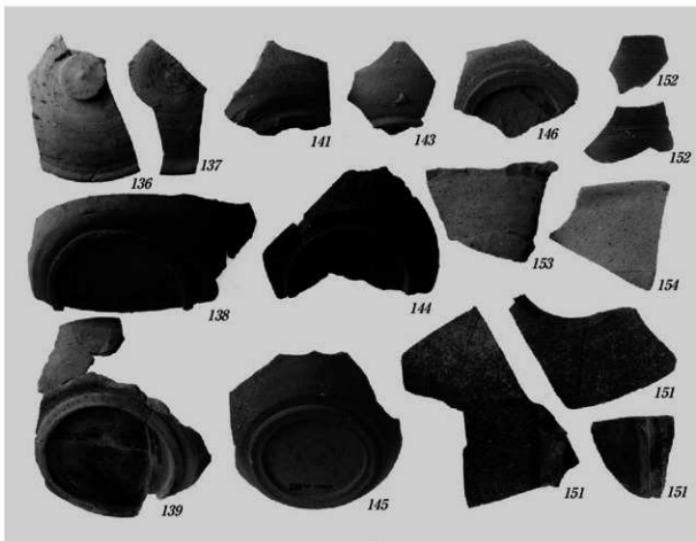
SB1 SP90 (101) SB1 SP151 (81) SB1 SP601 (94) SB4-SB5 SP1073 (73) SI680 (93) SI930 (76) SI930-SN4 (89)
SI1023 (72) SD1092 (79-99-100) SD1092-SD1143 (80-102) SD1143 (84) SK138 (98) SK382 (90) SK955 (88)
包含層



土器

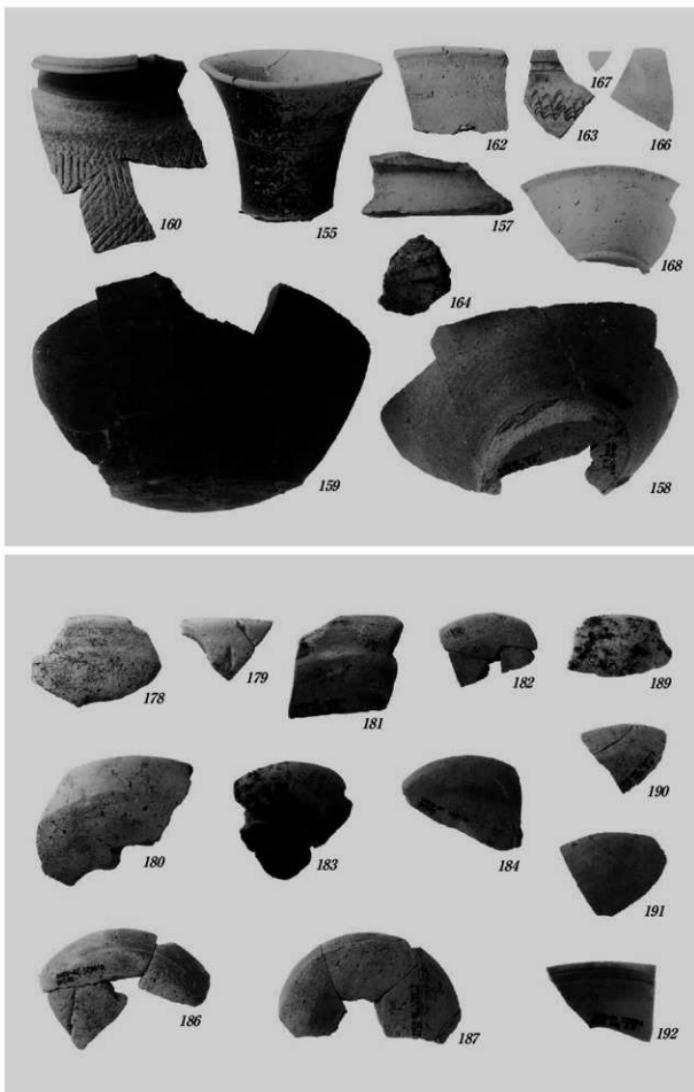
S1680 (127·128) SD1092 (123) SD1143 (106·107·112) SK137 (105) SK179 (135) SK495 (124) SK953 (113)
包含層

图版 16



土器

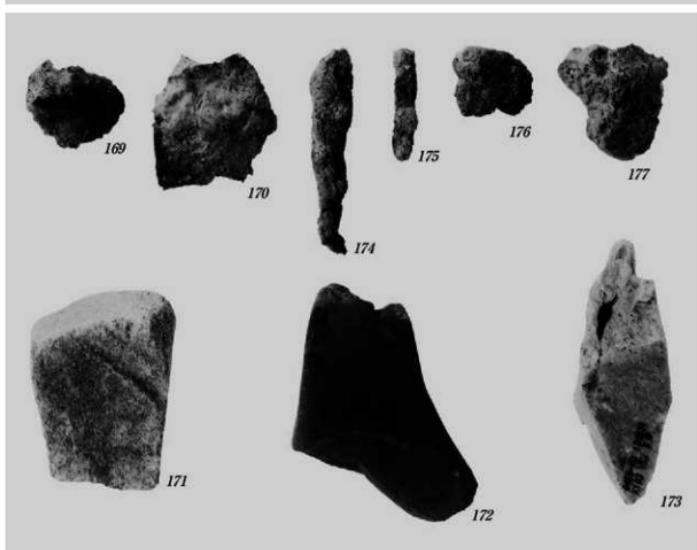
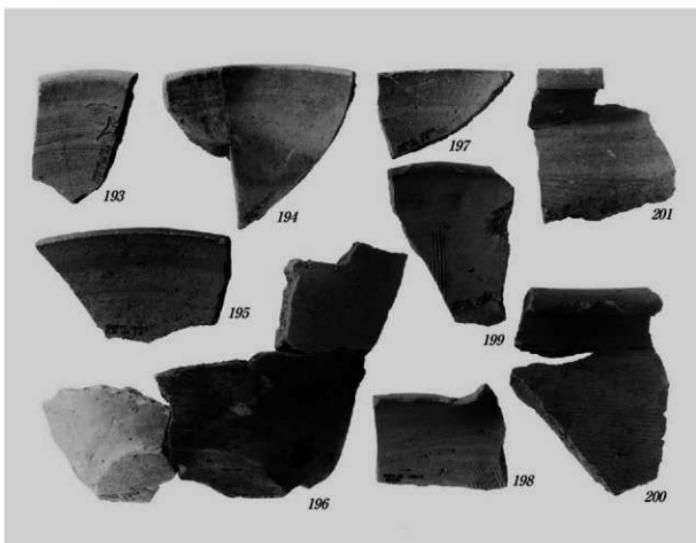
SB1 SP49 (145) SB4 SP1065 (154) SI680 (139) SI930 (149) SD1143 (148·152) SK165 (146) 包含物



土器·陶器

SB4·SB5 SP1073 (160) SB9 SP620 (184) SB10 SP508 (186) SI680 (164) SN1 (162·187) SD1092 (158)
SD1092·SD1143 (159) SK517 (180) SK1147 (155) SK1154 (167) 包含器

図版 18



土器・土製品・石製品・金属製品

SB9 SP672 (196) SB9 SP705 (194) SD1 (170) SN1 (171) SK137 (176) SK495 (198) 包含層

報告書抄録

2014（平成26）年3月10日 印刷
2014（平成26）年3月20日 発行

富山県文化振興財团埋蔵文化財発掘調査報告第61集

江口遺跡発掘調査報告

－入善黒部バイパス建設に伴う
埋蔵文化財発掘報告Ⅱ－

編集・発行 公益財團法人富山県文化振興財团
埋 蔵 文 化 財 調 査 事 務 所
〒930-0887 富山市五福4384番1号
TEL 076-442-4229

印 刷 第一共同印刷株式会社
〒939-8271 富山市太郎丸西町二丁目6番11
TEL 076-421-0196